

---

**武庫川女子大学・  
武庫川女子大学短期大学部  
2018年度 卒業時アンケート  
結果報告書**

---

2019年12月  
武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部  
自己評価委員会

<b>調査概要</b> -----	2
<b>調査結果から見える今後の改善点</b>	
調査結果から見える今後の改善点 -----	4
<b>アンケート結果 詳細内容【回答者のプロフィール】</b>	
回答者プロフィール -----	10
<b>アンケート結果 詳細内容【立学の精神、ディプロマ・ポリシーの浸透度】</b>	
「立学の精神」の浸透度 -----	13
ディプロマ・ポリシーの浸透度 -----	14
<b>アンケート結果 詳細内容【満足度】</b>	
教育内容の満足度 -----	16
教育内容の満足度(志望度別) -----	17
教育内容の満足度(ディプロマ・ポリシーの浸透度別) -----	18
卒業後の進路の満足度 -----	19
卒業後の進路の満足度(志望度別) -----	20
総合満足度 -----	21
総合満足度(志望度別) -----	22
<b>アンケート結果 詳細内容【修学状況】</b>	
学びの機会 -----	24
学びの充実度 -----	30
<b>アンケート結果 詳細内容【ディプロマ・ポリシーの修得度】</b>	
修得した能力【大学】 6学部14学科 -----	36
修得した能力【短期大学部】 7学科 -----	50
<b>学部別サマリー</b>	
学部別サマリー【大学】 6学部14学科 -----	58
学部別サマリー【短期大学部】 7学科 -----	72
<b>巻末資料【ディプロマ・ポリシーとの相関係数】</b>	
相関係数【大学】 6学部14学科 -----	80
相関係数【短期大学部】 7学科 -----	94
<b>巻末資料【調査票】</b>	
調査票 -----	102
ディプロマ・ポリシー(学科別) -----	105

# 調査概要

## 1. 調査の目的

卒業時のディプロマ・ポリシーの達成度と教育内容に対する評価を把握し、学修成果を測定。教育内容および教育方法の適切性を検証するための指標として活用する。

## 2. 調査対象

武庫川女子大学 2018年度卒業生(4年生) 1,999名  
 武庫川女子大学短期大学部 2018年度卒業生(2年生) 780名  
 計 2,779名

## 3. 調査実施時期

2019年3月21日(木)、22日(金) ※卒業式にて実施

## 4. 調査方法

学内配布・回収

## 5. 主な調査項目

- 立学の精神、ディプロマ・ポリシーの浸透度
- 教育内容の満足度
- 卒業後の進路の満足度
- 総合満足度
- 学びの機会
- 学びの充実度
- ディプロマ・ポリシーの修得度(学科別)

### <学科別の回収率>

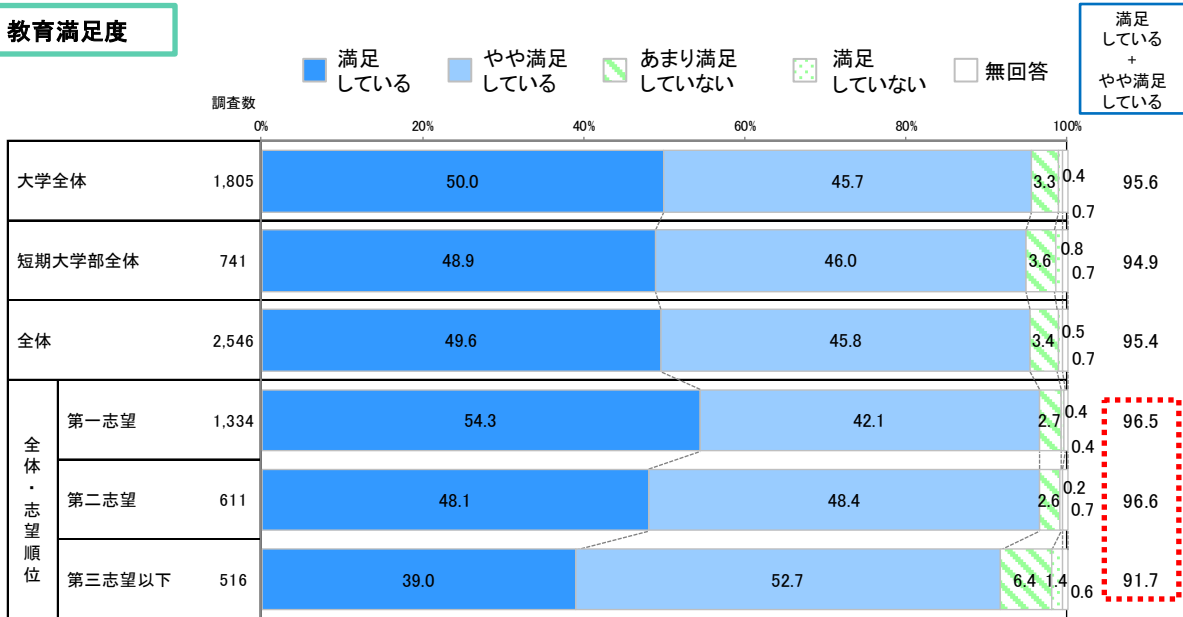
	対象者数	回収数	回収率
大学・計	1,999	1,805	90.3%
文学部 日本語日本文学科	190	180	94.7%
文学部 英語文化学科	224	207	92.4%
文学部 英語文化学科ビジネス・コミュニケーション系	122	121	99.2%
文学部 英語文化学科言語・語学系	52	45	86.5%
文学部 英語文化学科国際教養系	20	20	100.0%
文学部 英語文化学科文化・文学系	30	21	70.0%
文学部 教育学科	267	262	98.1%
文学部 教育学科小学校教育コース	129	124	96.1%
文学部 教育学科幼児教育・保育コース	138	138	100.0%
文学部 心理・社会福祉学科	185	154	83.2%
文学部 心理・社会福祉学科社会福祉コース	54	40	74.1%
文学部 心理・社会福祉学科心理コース	131	114	87.0%
健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	186	122	65.6%
生活環境学部 生活環境学科	163	136	83.4%
生活環境学部 生活環境学科建築デザインコース	53	33	62.3%
生活環境学部 生活環境学科生活デザインコース	62	58	93.5%
生活環境学部 生活環境学科アパレルコース	48	45	93.8%
生活環境学部 食物栄養学科	222	202	91.0%
生活環境学部 情報メディア学科	165	158	95.8%
生活環境学部 建築学科	45	45	100.0%
音楽学部 演奏学科	21	20	95.2%
音楽学部 応用音楽学科	22	20	90.9%
薬学部 薬学科	176	172	97.7%
薬学部 健康生命薬科学科	49	48	98.0%
看護学部 看護学科	84	79	94.0%
短期大学部・計	780	741	95.0%
短期大学部 日本語文化学科	114	110	96.5%
短期大学部 英語キャリア・コミュニケーション学科	91	87	95.6%
短期大学部 英語キャリア・コミュニケーション学科英語ビジネス系	58	57	98.3%
短期大学部 英語キャリア・コミュニケーション学科英語国際教養系	33	30	90.9%
短期大学部 幼児教育学科	144	140	97.2%
短期大学部 心理・人間関係学科	91	82	90.1%
短期大学部 健康・スポーツ学科	76	76	100.0%
短期大学部 食生活学科	125	121	96.8%
短期大学部 生活造形学科	139	125	89.9%
短期大学部 生活造形学科アパレルコース	53	50	94.3%
短期大学部 生活造形学科インテリアコース	86	75	87.2%
総計	2,779	2,546	91.6%

**調査結果から見えてくる今後の改善点**

# 調査結果から見える今後の改善点【重要ポイント】

- 本学の教育内容に対する満足度は非常に高く、また、進路に対する満足度も同様に高い。学生生活の振り返りを問う総合的な満足度も高値を示しており、各々の学生が充実した大学生活を過ごしていた様子がうかがえる。
- ただ、立学の精神で掲げる女性像やディプロマ・ポリシーについては、その存在を知らないまま卒業してしまう学生が多く、本学の取り組みが成果として表れているとは言い難い。
- 卒業までの学習の道筋や達成目標を明確にすることは学生にとっても重要であり、自主的な学びを促すためにも、一人でも多くの学生に浸透させたい。単純な存在認知ではなく、内容を明確に理解させるための施策が必要である。

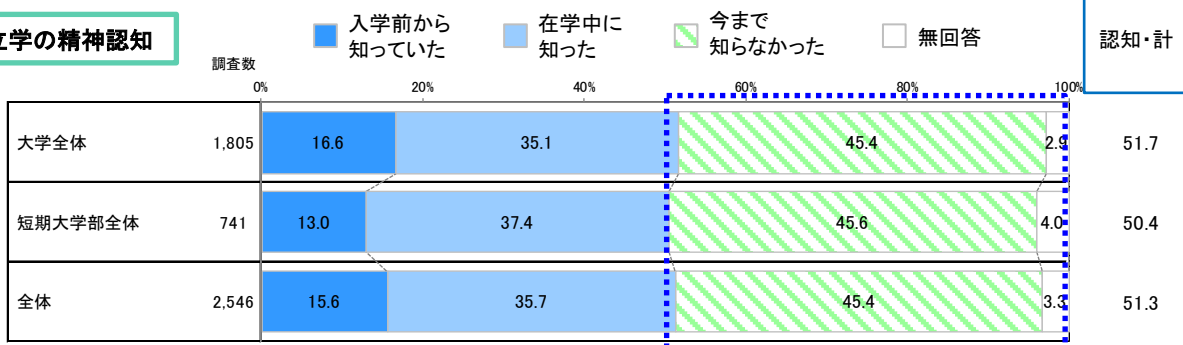
## 教育満足度



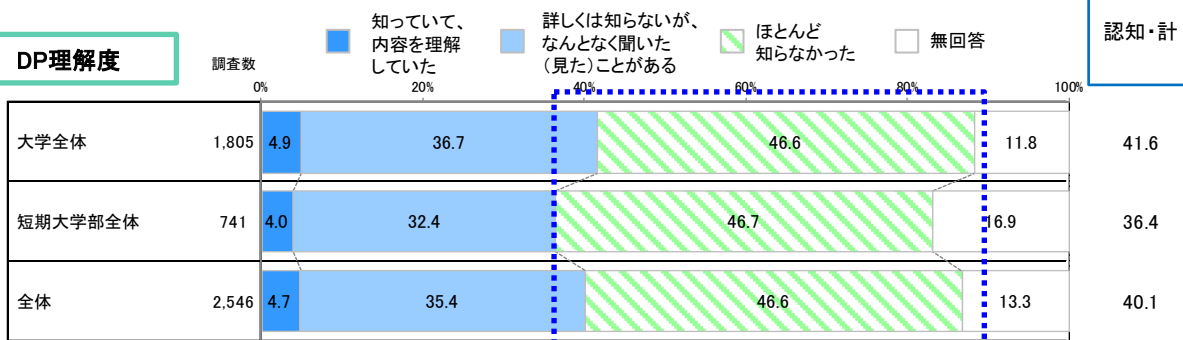
[補足]進路満足度、総合満足度も同様に9割を超えている。

## ■現状の課題

### 立学の精神認知



### DP理解度



# 調査結果から見えてくる今後の改善点【補足ポイント】

- 各学科におけるディプロマ・ポリシー項目の修得度平均値(TOP2計:「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の平均値)は、最も低い学科で7割半ば、最も高い学科ではほぼ100%と全体的に高値を示すが、項目ごとにバラツキがある。ディプロマ・ポリシーを「卒業する時に最低限必要な能力」と意味通りに捉えるなら、それぞれの学科において、全ての項目で100%の修得度を目指したい。
- また、学科内において、他の項目と比べて特に低いディプロマ・ポリシーに着目すると、全体的には学科固有の知識やスキルに関する項目が多いが、「思考力や課題解決力」に関連する力、あるいは「外国語を含めた語学や国際性」に関連する力、「情報収集やコンピューター活用力」に関連する力については、学科を超えて共通性がみられる。修得度を高めるためには、全学をあげての一貫した教育改善が求められる。

## 修得度の低いDP項目 (学科別)

※TOP1:「とても身に付いた」、TOP2計:「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の%。  
 ※TOP1平均、TOP2計平均は、各学科におけるDP項目全てのTOP1、TOP2計の平均%。  
 ※学科内において、他の項目と比べTOP1もしくはTOP2計が特に低い項目を抽出。各学科の詳細は、P36以降参照。

## 【大学】

学部学科	調査数	項目	TOP1	TOP2計	TOP1平均	TOP2計平均
文学部 日本語日文学科	180	知識・理解 C 体系的知識を複数の異なる視点・ <u>国際的観点</u> から把握し、現象を多様な価値観の下に捉えている。	10.6	73.9	17.8	82.6
		技能・表現 E 大学における学修の成果を社会での諸活動に具体的に活用でき、 <u>汎用性のある情報機器(ICT)活用技能</u> を含む諸技能・表現力を身に付けている。	10.6	74.4		
文学部 英語文化学科	207	知識・理解 D 国際人として必要な <u>コンピューターリテラシー</u> を持っている。	5.8	63.3	12.7	78.6
		技能・表現 G ドイツ語・フランス語を理解し、発信することができる。	5.3	49.8		
文学部 教育学科	262	思考・判断 E <u>国際的視野</u> に基づいた <u>批判的思考力</u> 及び <u>創造的能力</u> を備えている。	14.5	72.5	28.2	92.7
		思考・判断 F 教育・保育に関する課題解決に向けて、 <u>様々な情報を統合し、論理的な思考と理性的な判断</u> ができる。	20.6	89.7		
文学部 心理・社会福祉学科	154	知識・理解 B 社会福祉学に関する基礎的・専門的知識を有している。	14.9	63.6	18.2	76.5
		知識・理解 C レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識を有している。	13.6	43.5		
		技能・表現 D 科学的な視点に基づき、 <u>様々な課題の解決</u> に心理学の専門的知識を統合し活用できる能力を有している。	11.0	66.2		
健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	122	知識・理解 B 健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。	23.8	93.4	29.2	90.4
		思考・判断 F 実践力を向上させるための、 <u>論理的・実証的に思考する能力</u> を身につけている。	24.6	88.5		
生活環境学部 生活環境学科	136	知識・理解 B 快適で健全な生活環境に形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。	6.6	76.5	11.8	83.0
		技能・表現 D 生活環境を構成する事象を <u>定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能</u> を有している。	5.1	71.3		
生活環境学部 食物栄養学科	202	統合的能力 O 社会貢献のための実行力を身につける。	23.3	89.6	31.1	94.2
生活環境学部 情報メディア学科	158	社会共創力 G 生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心を身につけている。	9.5	80.4	14.0	84.4
生活環境学部 建築学科	45	高い知性 A <u>語学</u> や諸学の基礎学力の習得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培う。	20.0	88.9	31.1	93.8
音楽学部 演奏学科	20	知識・理解 C 音楽に携わる上で必要な <u>語学能力</u> を有する。	20.0	85.0	35.0	93.3
音楽学部 応用音楽学科	20	知識・理解 C 海外の論文や文献研究に必要な <u>語学能力</u> を有する。	0.0	25.0	35.0	80.7
		技能・表現 G 音楽産業の中での、企画・運営能力を有する。	25.0	40.0		
薬学部 薬学科	172	技能・表現 E 薬剤師業務および関連業務に必要な <u>プレゼンテーション能力</u> とコミュニケーション能力を有する。	25.6	84.9	39.2	95.6
		思考・判断/態度・志向性 G 進歩する医療や科学について、自ら学び、 <u>考え、問題点を発見し、解決する能力</u> を有する。	27.9	94.8		
薬学部 健康生命薬科学科	48	思考・判断/態度・志向性 I 次世代を担う研究者・技術者人材を育成する意欲と態度を有する。	12.5	79.2	20.4	83.8
看護学部 看護学科	79	思考・判断 F 生活及び医療全般にわたって、その人に起こりうる事態を予測し、 <u>論理的思考力と的確な問題解決能力に基づいて、最善策を導き出す</u> ことができる。	36.7	100.0	51.5	99.4

# 調査結果から見えてくる今後の改善点【補足ポイント】

- 短大も同様に、修得度は項目ごとにバラツキがあるため、低い項目の底上げを促し、それぞれの学科において、全ての項目で100%の修得度を目指したい。
- また、学科内において、他の項目と比べて特に低いディプロマポリシーに着目すると、全体的には学科固有の知識やスキルに関する項目が多いが、「思考力や課題解決力」に関連する力、あるいは「外国語を含めた語学や国際性」に関連する力、「情報収集やコンピューター活用力」に関連する力については、学科を超えて共通性がみられる。大学同様、修得度を高めるためには、全学をあげての一貫した教育改善が求められる。

## 修得度の低いDP項目 (学科別)

※TOP1:「とても身に付いた」、TOP2計:「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の%。

※TOP1平均、TOP2計平均は、各学科のDP項目のTOP1、TOP2計の平均%。

※学科内において、他の項目と比べTOP1もしくはTOP2が特に低い項目を抽出。各学科の詳細は、P36以降参照。

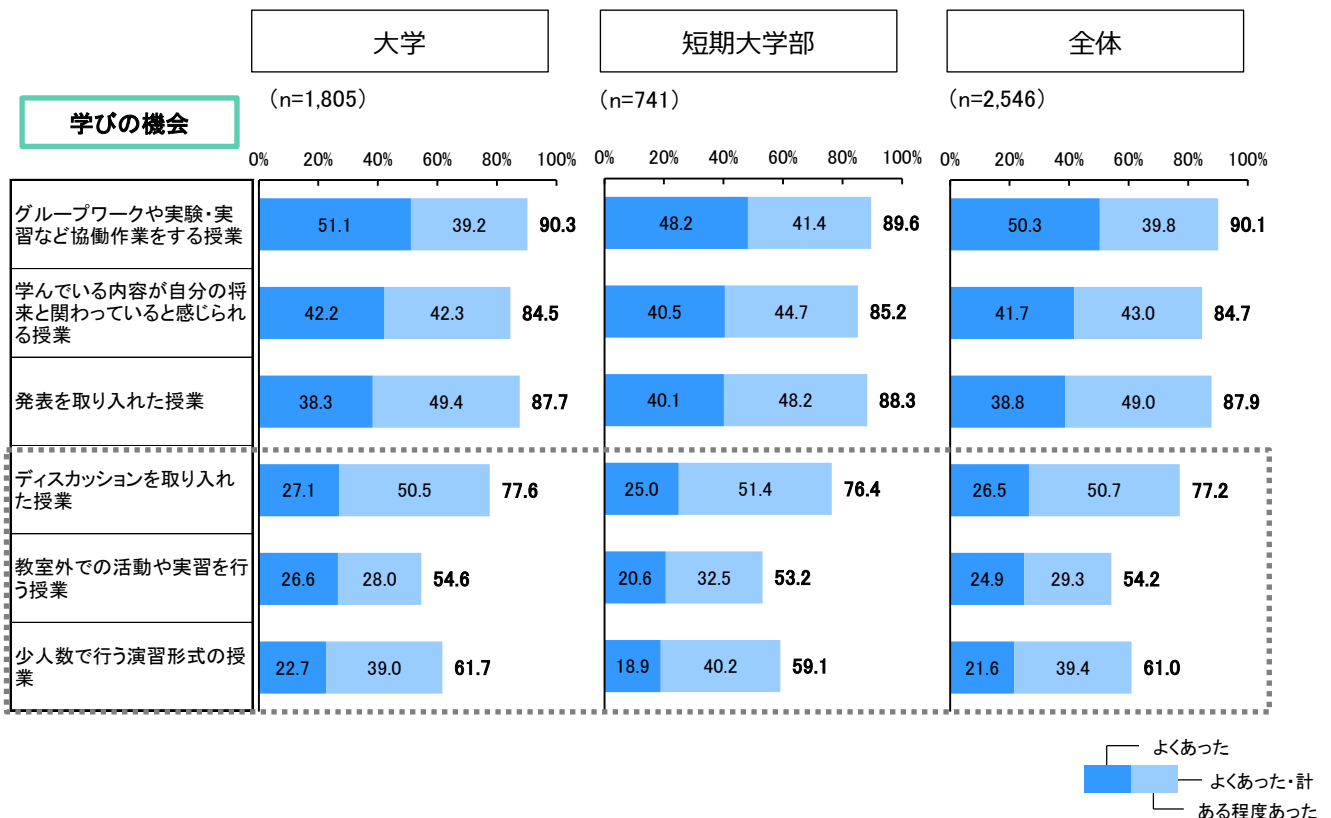
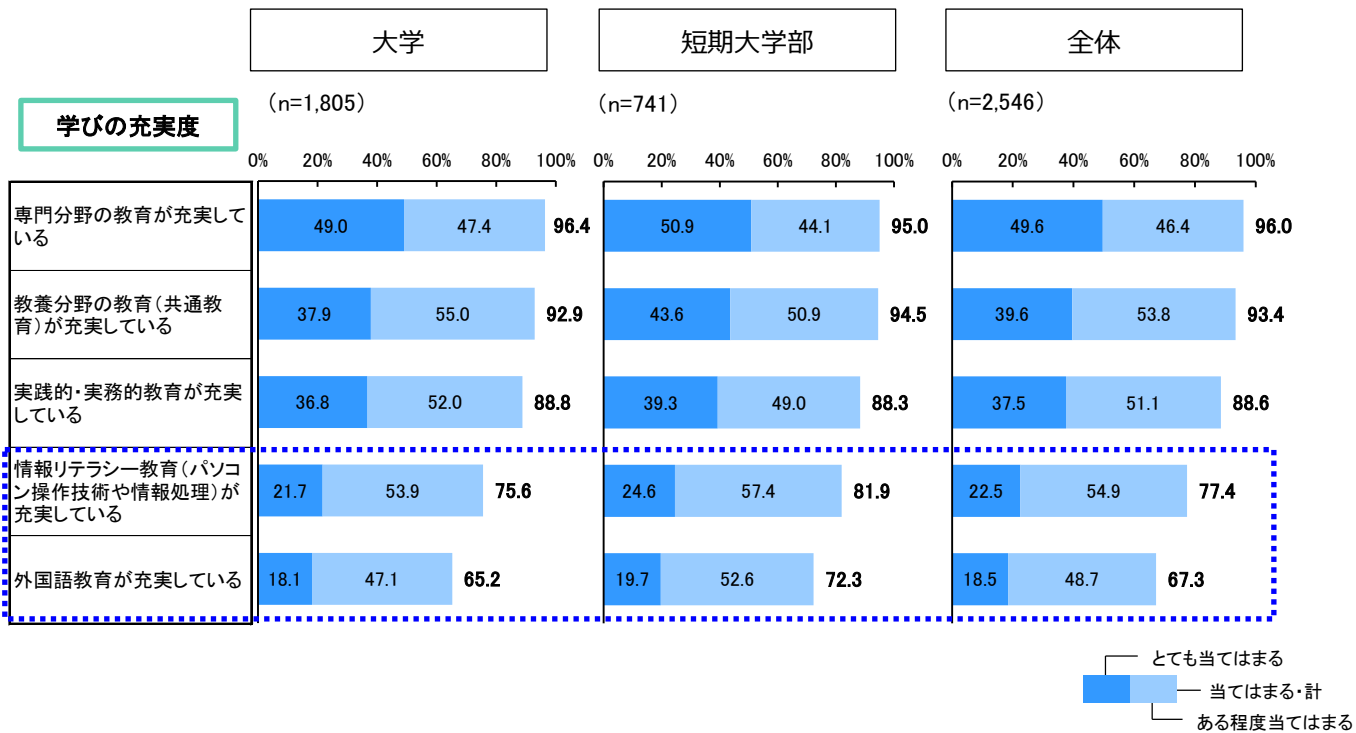
## 【短期大学部】

学部学科	調査数	項目	TOP1	TOP2計	TOP1平均	TOP2計平均
日本語文化学科	110	技能・表現 D <u>情報機器(ICT)活用技能</u> を含む諸技能と豊かな表現力を身に付けている。	10.9	69.1	15.2	82.7
		思考・判断 E 日本語・日本文学に関して身に付けた専門的知識を捉えかえし、 <u>批判的に考察する能力</u> を備えている。	10.9	73.6		
英語キャリア・コミュニケーション学科	87	知識・理解 B <u>英語の歴史や構造</u> に関して幅広く正確な知識を持っている。	5.7	69.0	10.5	76.2
		技能・表現 F <u>専門分野の英語を理解し</u> 、発信することができる。	6.9	67.8		
		思考・判断 J 専門知識に基づいた、 <u>クリティカルな思考力</u> を持っている。	6.9	69.0		
幼児教育学科	140	思考・判断 E 市民としての自覚に基づいた <u>思考力および創造的能力</u> を備えている。	19.3	85.7	29.7	95.0
心理・人間関係学科	82	技能・表現 D 自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。	7.3	76.8	18.4	79.6
		思考・判断 H 身の回りの様々な現象を <u>分析的・論理的に考える</u> ことができる。	9.8	69.5		
健康・スポーツ学科	76	思考・判断 F 実践力を向上させるための、 <u>論理的・実証的に思考する能力</u> を身に付けている。	21.1	90.8	30.4	95.3
食生活学科	121	技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。	14.0	76.9	21.5	88.7
		技能・表現 F ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる技能・表現力を身に付けている。	14.0	85.1		
生活造形学科	125	知識・理解 B 快適で健全な生活を形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。	19.2	91.2	25.6	91.8
		技能・表現 D 生活を構成する事象を定量的・ <u>論理的に分析し、問題の解決につなげる</u> ことのできる技能を有している。	17.6	87.2		

【単位: %】

# 調査結果から見えてくる今後の改善点【補足ポイント】

- ディプロマ・ポリシー項目のなかで修得度が低い「外国語を含めた語学や国際性」に関連する力と「情報収集やコンピューター活用力」に関連する力に関しては、教育内容の充実度を問う質問でも、他分野と比べて学びの充実度が低いという結果が出ており、優先度が高い改善点と言える。
- 「思考力や課題解決力」に関連する力に関しては、他の授業機会と比べて、学びの実感度が低い演習や実習、ディスカッション等の実践的な学びの機会を増やすことも有効ではないかと考える。





# 調査結果から見える今後の改善点【参考】

- 学科内におけるディプロマ・ポリシー項目の修得度平均値をみると、大学全体・短大全体の項目平均値と比べて、TOP1平均値、もしくはTOP2計平均値が特に低い学科は、日本語日本文学科、英語文化学科、心理・社会福祉学科、生活環境学科、情報メディア学科、日本語文化学科、英語キャリア・コミュニケーション学科、心理・人間関係学科である。
- 学科ごとにディプロマ・ポリシー項目が異なるため、学科間での比較には注意が必要だが、全体と比べて修得度が低い学科においては、カリキュラムや授業内容の見直しも視野に入れるべきであろう。

## DP項目の修得度 (学科別平均)

※TOP1:「とても身に付いた」、TOP2計:「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の%。  
 ※TOP1平均、TOP2計平均は、各学科のDP項目のTOP1、TOP2計の平均%。各学科の詳細は、P36以降参照。

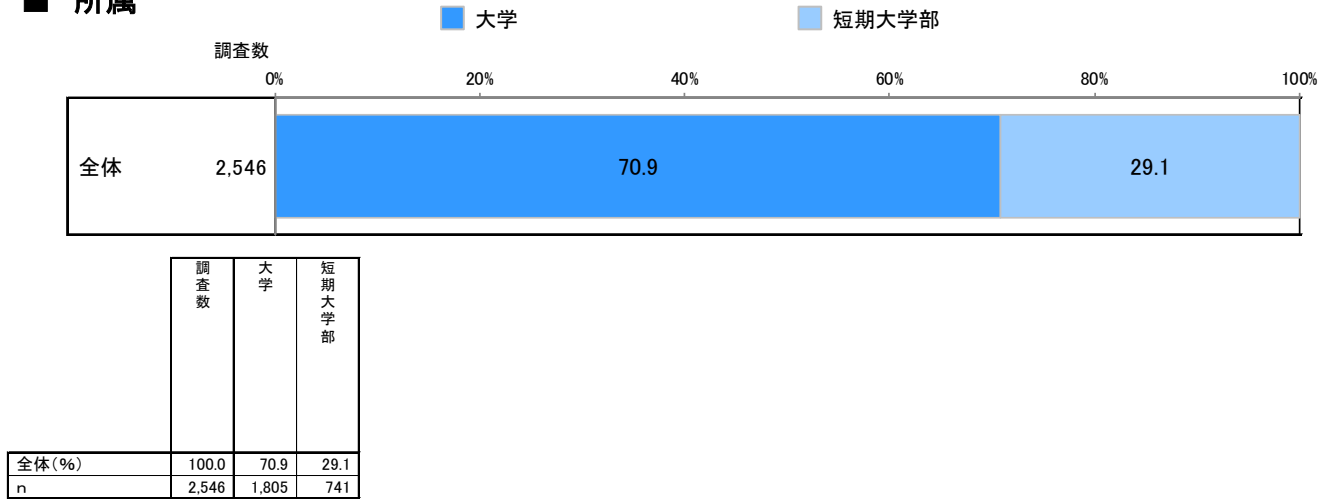
		調査数	TOP1 平均	TOP2計 平均	
全体		2,546	24.9	87.0	※222項目平均
大学全体		1,805	26.8	87.3	※148項目平均
大学・ 在籍 学科	日本語日本文学科	180	17.8	82.6	※9項目平均
	英語文化学科	207	12.7	78.6	※14項目平均
	教育学科	262	28.2	92.7	※8項目平均
	心理・社会福祉学科	154	18.2	76.5	※14項目平均
	健康・スポーツ科学科	122	29.2	90.4	※10項目平均
	生活環境学科	136	11.8	83.0	※9項目平均
	食物栄養学科	202	31.1	94.2	※15項目平均
	情報メディア学科	158	14.0	84.4	※7項目平均
	建築学科	45	31.1	93.8	※9項目平均
	演奏学科	20	35.0	93.3	※12項目平均
	応用音楽学科	20	35.0	80.7	※14項目平均
	薬学科	172	39.2	95.6	※9項目平均
	健康生命薬科学科	48	20.4	83.8	※9項目平均
	看護学科	79	51.5	99.4	※9項目平均
短期大学部全体		741	21.0	86.3	※74項目平均
短期 大学 部・ 在籍 学科	日本語文化学科	110	15.2	82.7	※8項目平均
	英語キャリア・コミュニケーション学科	87	10.5	76.2	※13項目平均
	幼児教育学科	140	29.7	95.0	※8項目平均
	心理・人間関係学科	82	18.4	79.6	※12項目平均
	健康・スポーツ学科	76	30.4	95.3	※10項目平均
	食生活学科	121	21.5	88.7	※14項目平均
	生活造形学科	125	25.6	91.8	※9項目平均

【単位: %】

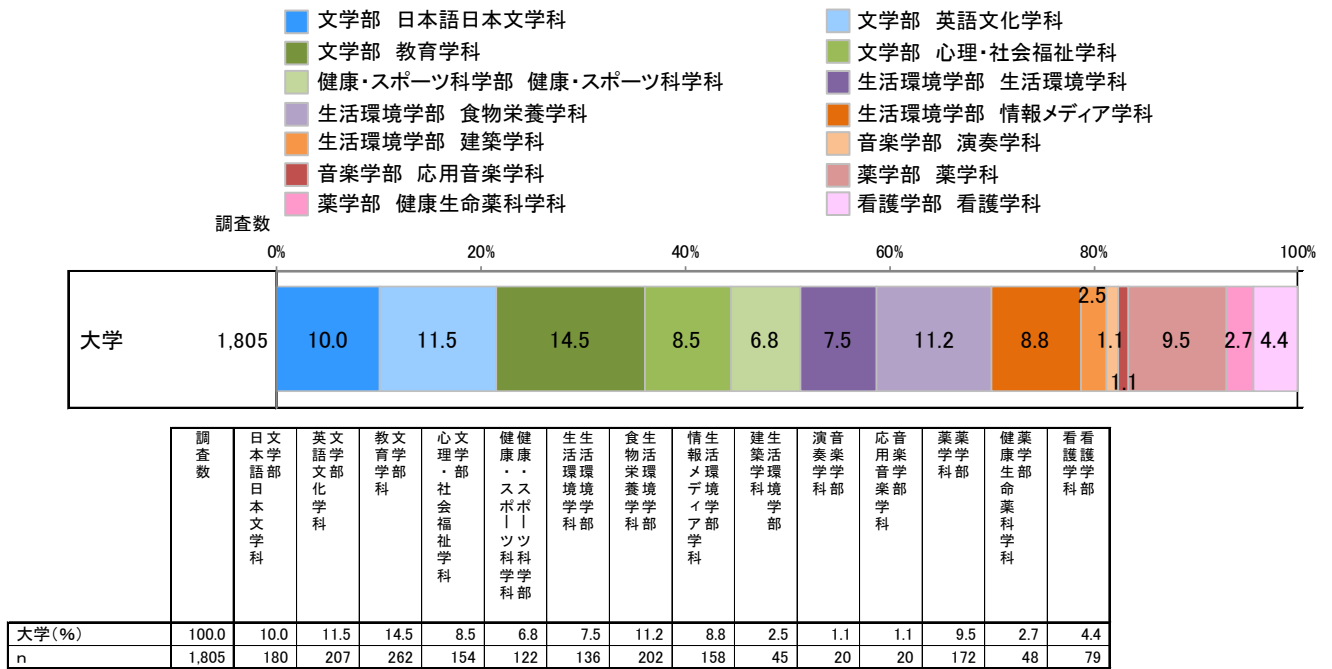
全体+10ポイント以上
  全体-5ポイント以上  
 全体+5ポイント以上
  全体-10ポイント以上

**アンケート結果 詳細内容**  
**【回答者のプロフィール】**

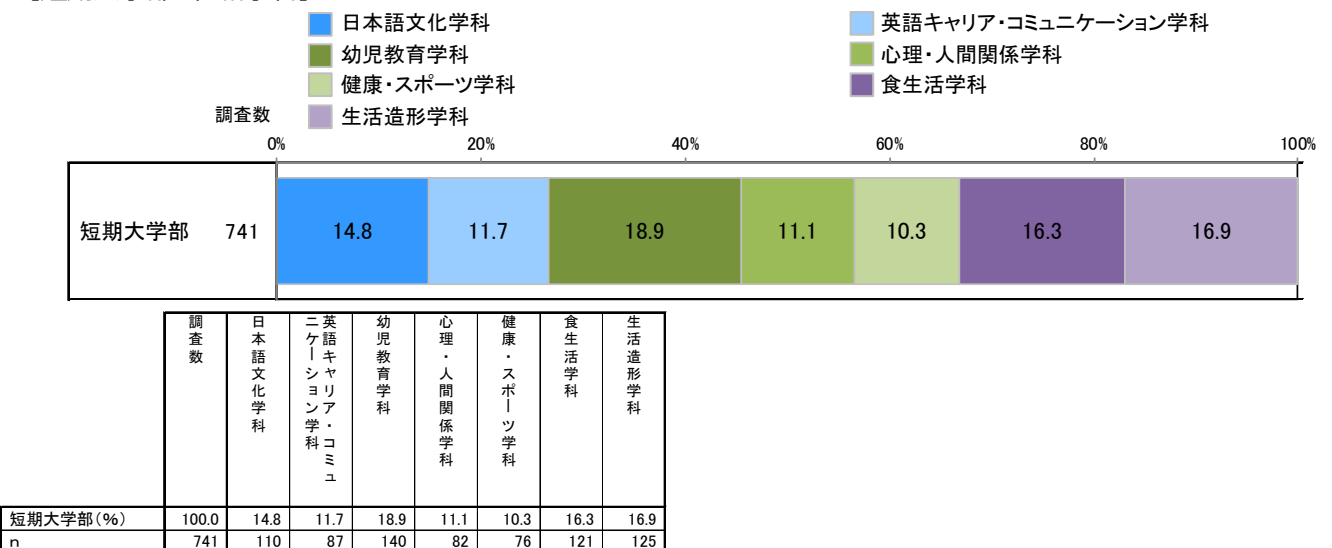
## ■ 所属



### 【大学 在籍学部・学科】



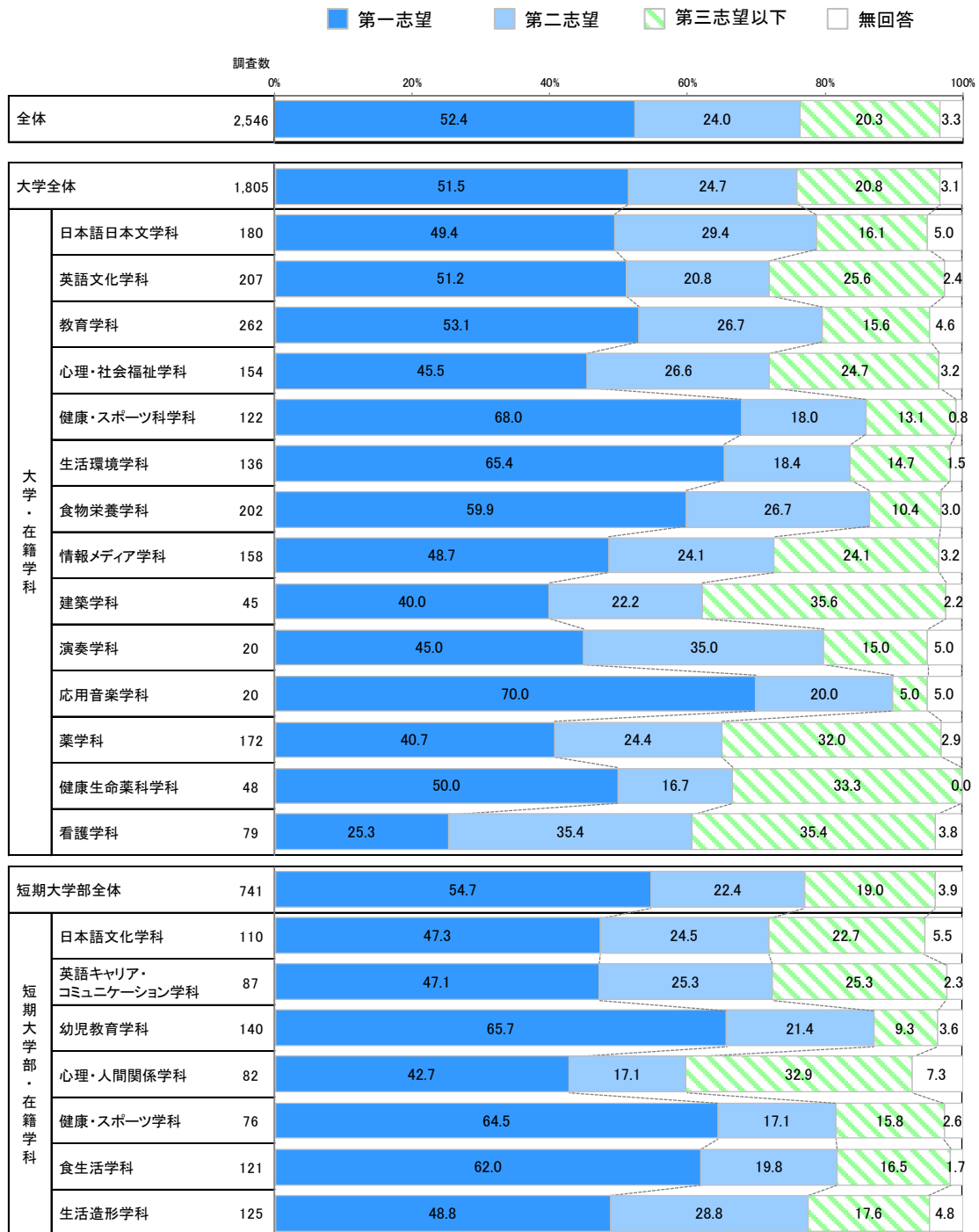
### 【短期大学部 在籍学科】



- 大学、短大ともに、「第一志望」が半数を占める。
- 「第一志望」が特に高いのは、大学の健康・スポーツ科学科、生活環境学科、応用音楽学科、および短大の幼児教育学科、健康・スポーツ学科、食生活学科で、いずれも6割を超える。
- 対して、大学の建築学科、薬学科、看護学科は、「第一志望」が2割～4割と低い。

Q1 本学はどの程度の志望順位でしたか。

## ■ 志望度

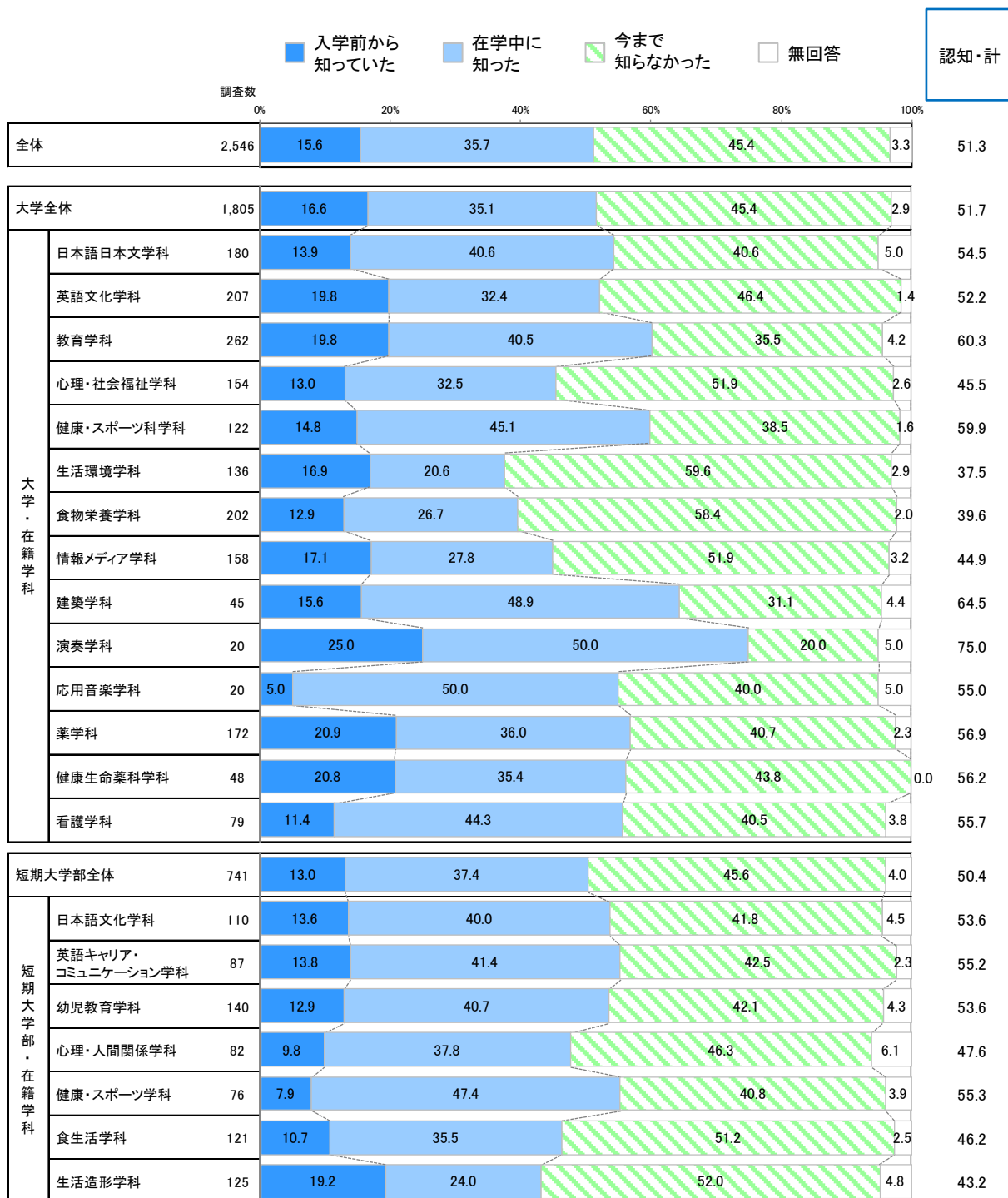


**アンケート結果 詳細内容**  
**【立学の精神、ディプロマ・ポリシーの浸透度】**

# 「立学の精神」の浸透度

- 大学、短大ともに、半数近くの人が「立学の精神」を卒業まで知らない。「立学の精神」を理解して入学した人は、大学、短大ともに、1割強と少ない。
- 全学科を比べると、「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせた卒業時点での認知・計が最も高いのは演奏学科であり、7割半の学生が「立学の精神」を認知している。対して、生活環境学科、食物栄養学科は認知・計が低く、6割弱が「立学の精神」を知らない。

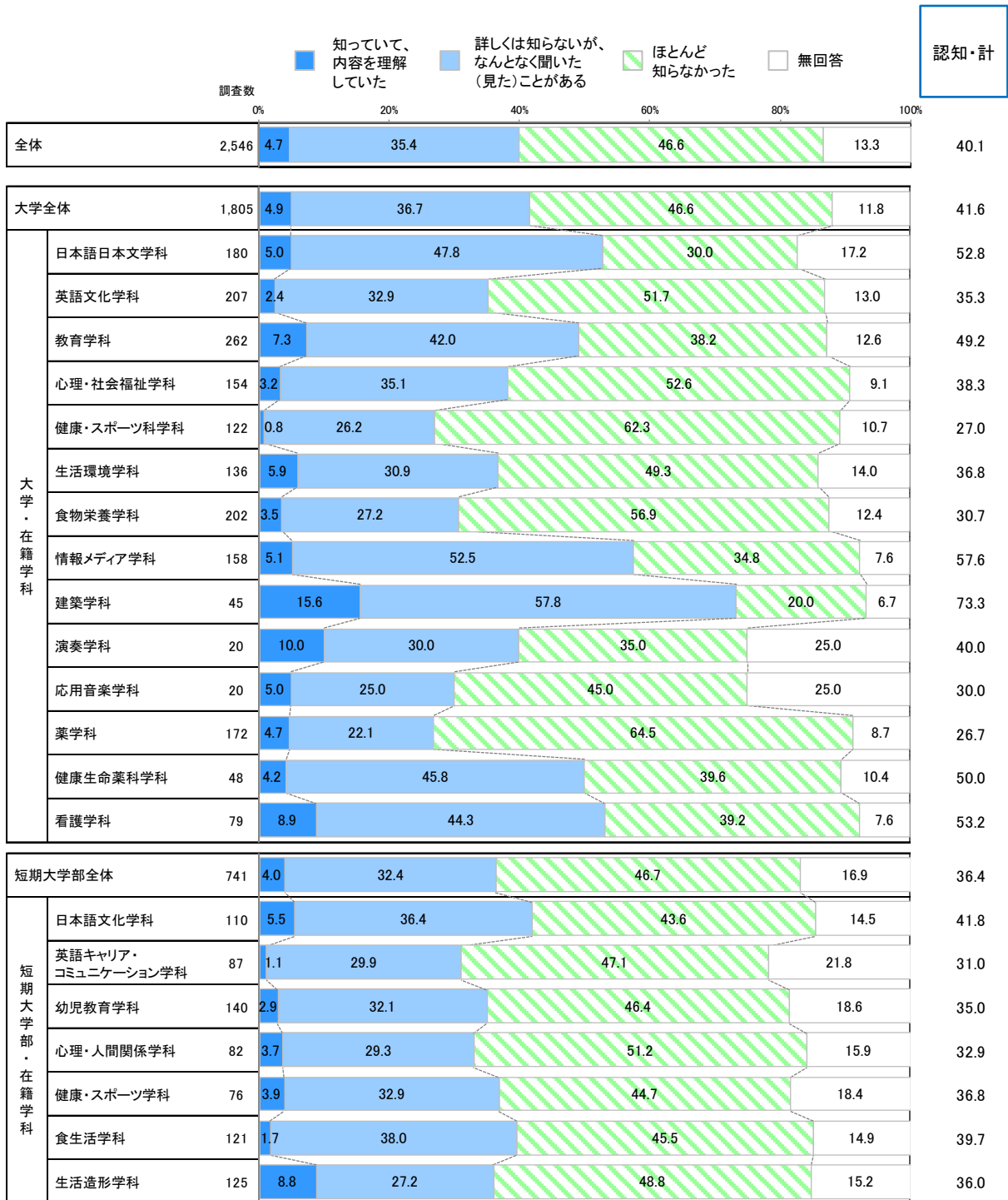
Q2 本学では、立学の精神の中で、「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を兼ね備えた有為な女性を育成することを掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。



# ディプロマ・ポリシーの浸透度

- 大学、短大ともに、「ほとんど知らなかった」が最も多い。
- 「詳しくは知らないが、なんとなく聞いたことがある」も多く、「内容を理解していた」は、1割にも満たず、5%程度にとどまる。
- 学科別でみると、「内容を理解していた」「詳しくは知らないが、なんとなく聞いたことがある」を合わせた卒業時点での認知・計が最も高いのは建築学科で7割強、対して、低いのは大学の健康・スポーツ科学科、薬学科でいずれも2割台にとどまる。

Q4 本学では、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を設定しています。  
あなたは、別紙にある所属学科のディプロマ・ポリシーの内容を知っていましたか。



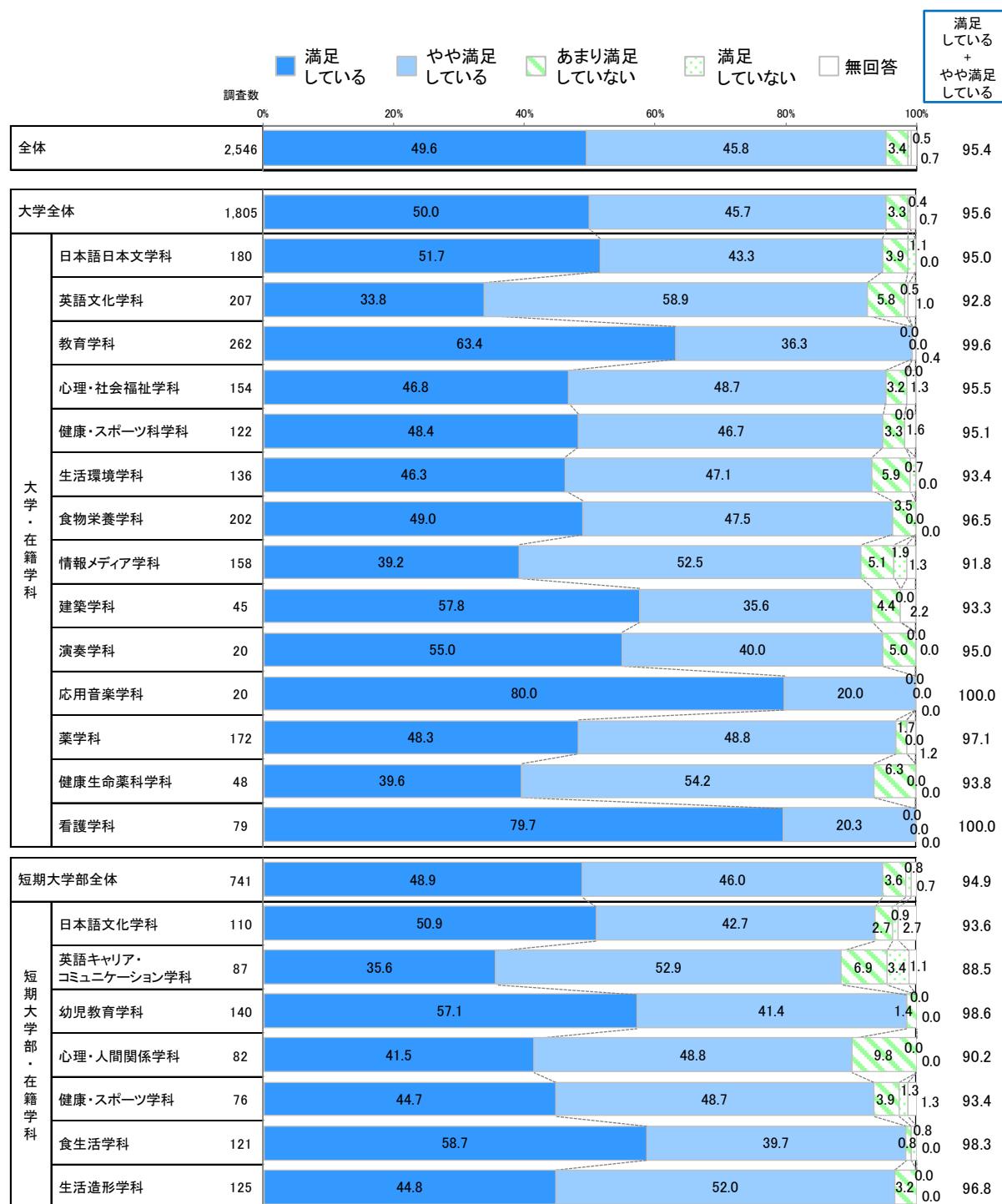
**アンケート結果 詳細内容**  
**【満足度】**



# 教育内容の満足度

- 大学、短大ともに、教育満足度(TOP2計)は約95%と非常に高い。
- 学科別で見ると、教育学科、応用音楽学科、看護学科は「満足している」(TOP1)が6割以上と高い。対して、大学の英語文化学科、情報メディア学科、健康生命薬科学科および短大の英語キャリア・コミュニケーション学科は、「満足している」(TOP1)が3割台と低め。

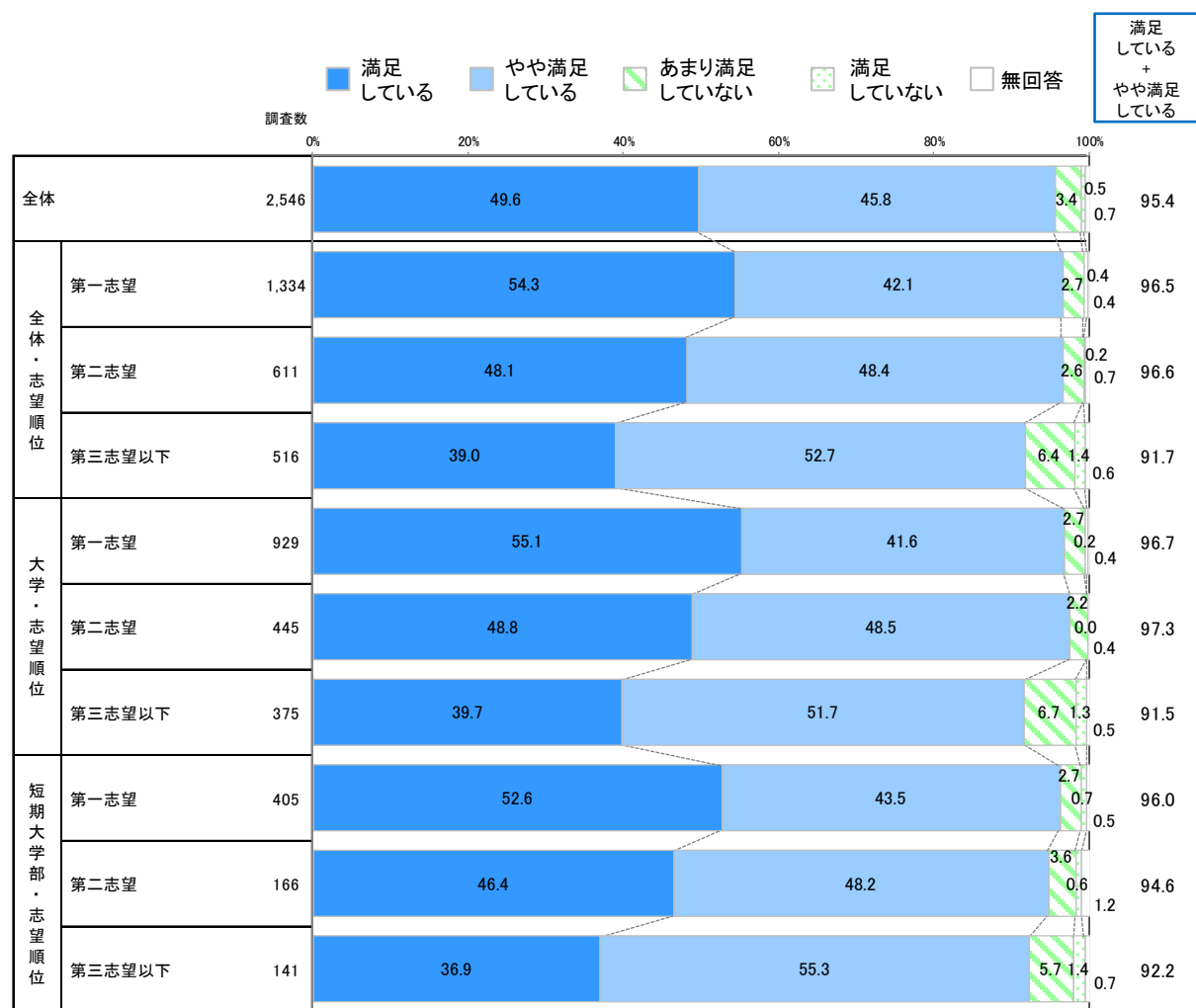
Q7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。



# 教育内容の満足度(志望度別)

- 大学、短大ともに、第三志望以下でも9割以上の学生が、教育内容に満足している。
- ただし、「満足している」(TOP1)は、志望度が下がるにつれて低くなる傾向がみられる。

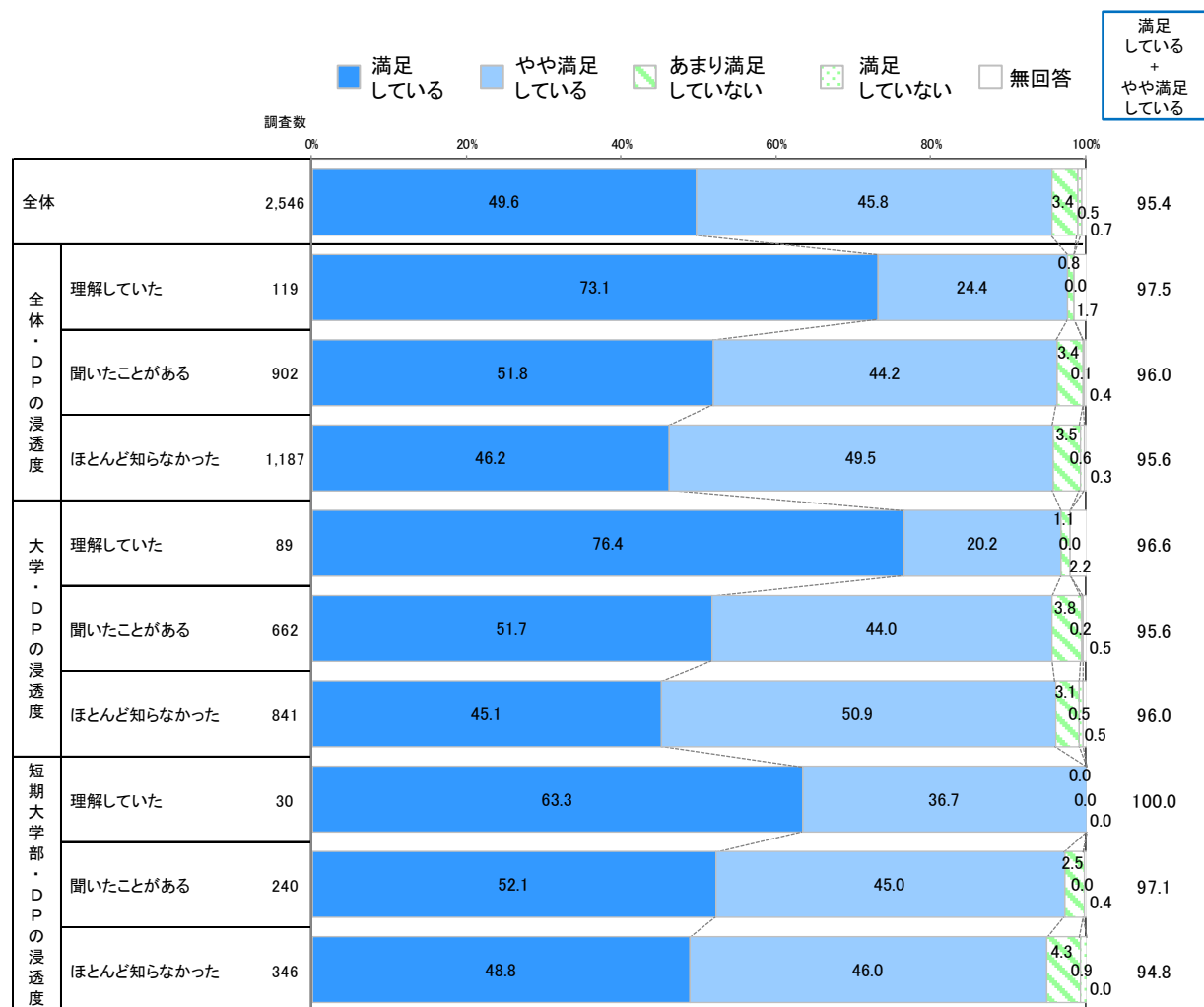
Q7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。



# 教育内容の満足度(ディプロマ・ポリシーの浸透度別)

- 大学、短大ともに、ディプロマ・ポリシーを理解している人は、6割以上が「満足している」(TOP1)。
- ディプロマ・ポリシーの理解が明確なほど、「満足している」(TOP1)はより高くなる。

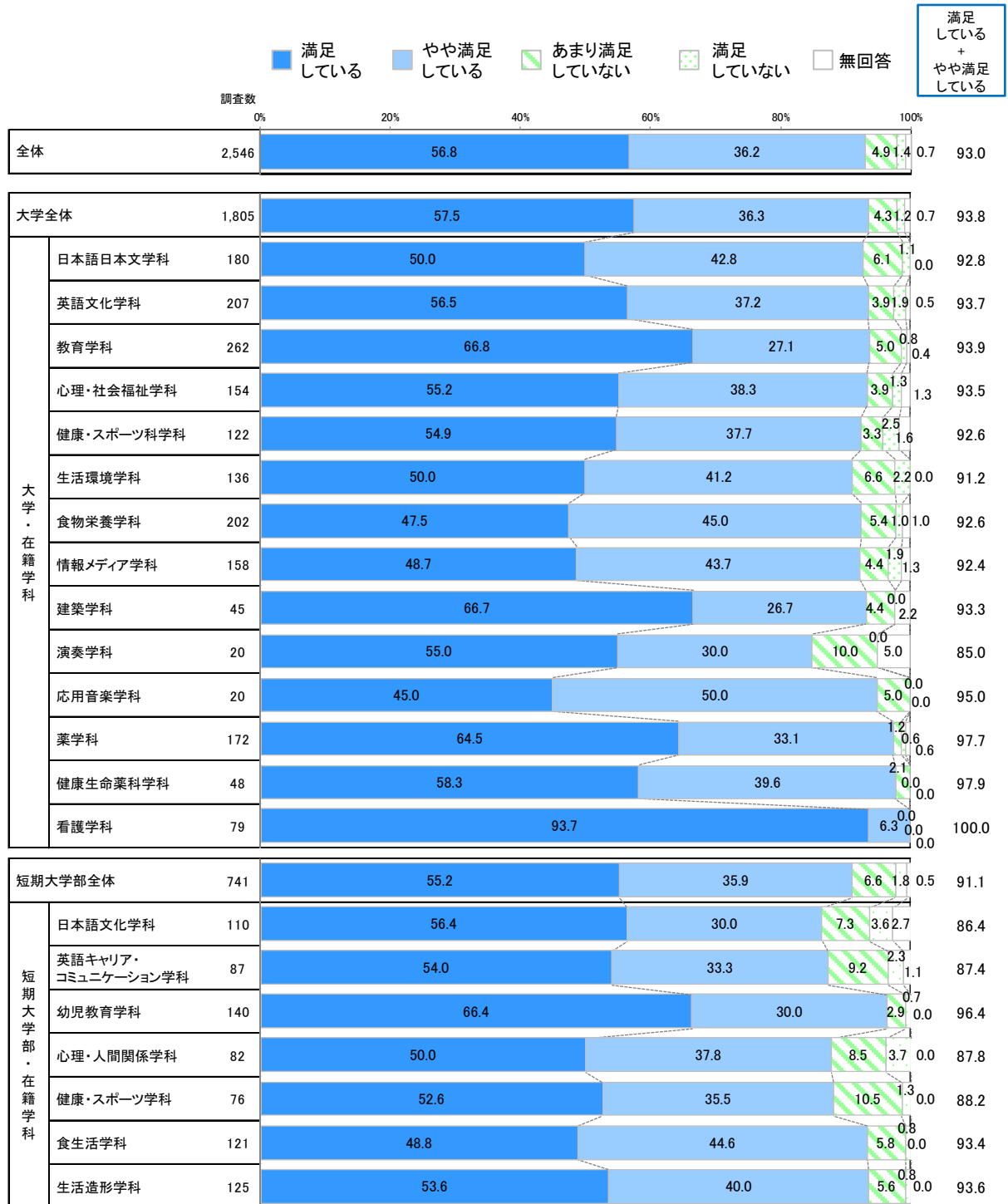
Q7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。



# 卒業後の進路の満足度

- 大学、短大ともに、進路満足度(TOP2計)は9割以上と非常に高い。
- 学科別で見ると、教育学科、建築学科、看護学科は「満足している」(TOP1)が高く、なかでも看護学科は特に高く、9割を超える学生が「満足している」(TOP1)と回答。対して、応用音楽学科は、「満足している」(TOP1)が45.0%と低め。

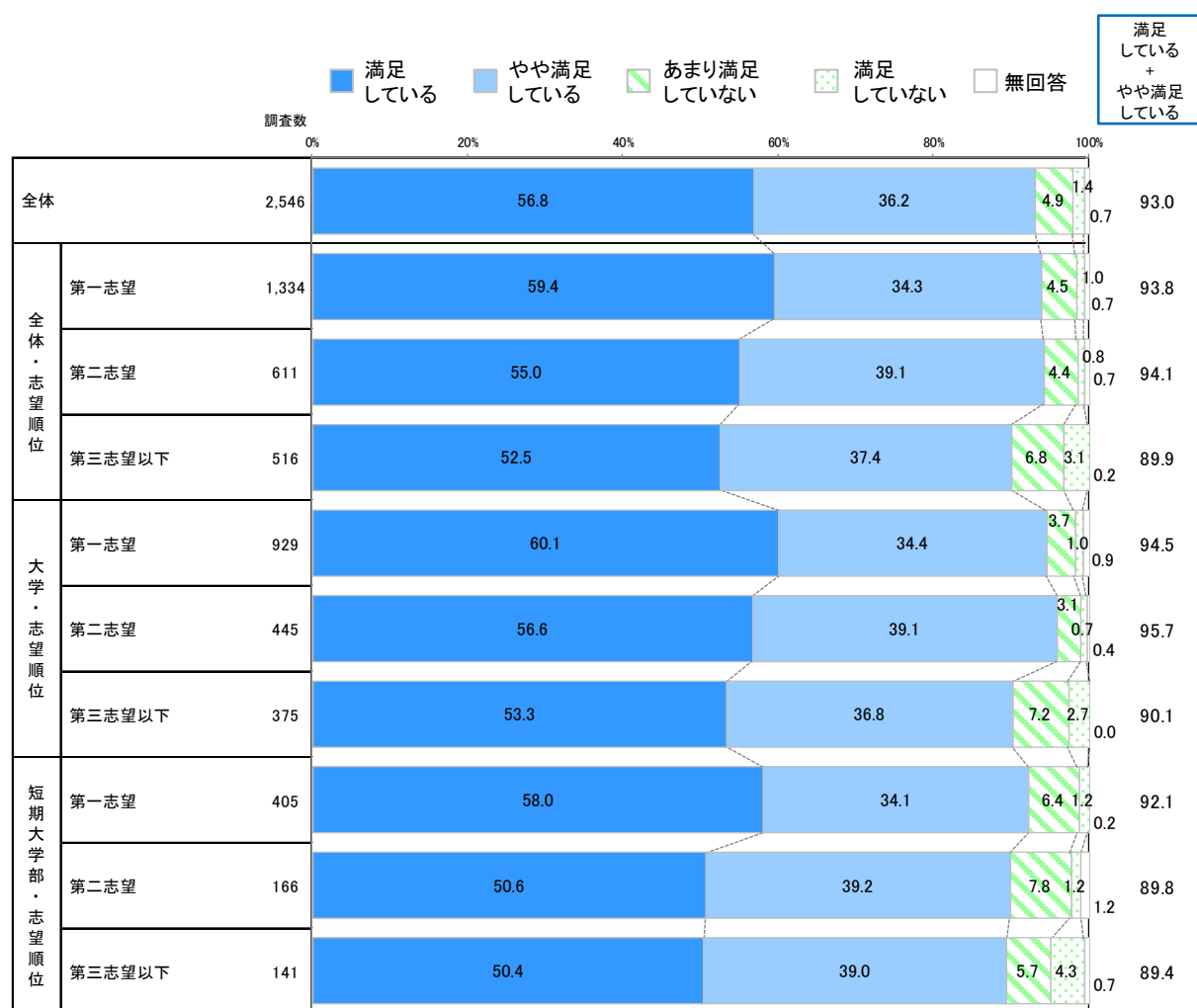
Q8 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。



# 卒業後の進路の満足度(志望度別)

■ 大学、短大ともに、志望順位の高低で、進路の満足度は変わらない。

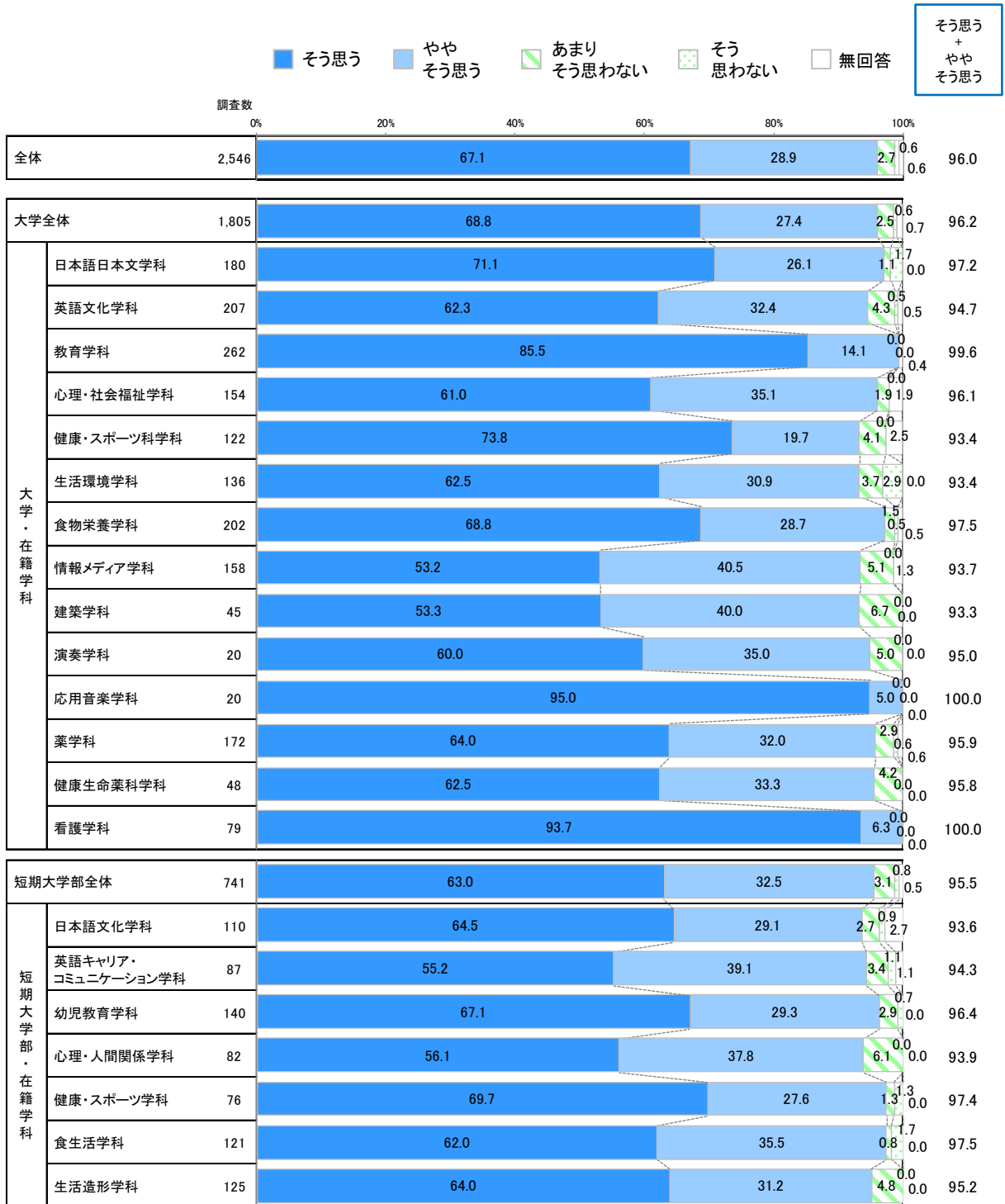
Q8 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。



# 総合満足度

- 大学、短大ともに、総合満足度(TOP2計)は95%以上と非常に高い。
- 学科別でみると、教育学科、応用音楽学科、看護学科は総合満足度(TOP2計)に加えて「満足している」(TOP1)も非常に高く、応用音楽学科、看護学科では9割を超える。対して、大学の情報メディア学科、建築学科、短大の英語キャリア・コミュニケーション学科、心理・人間関係学科は、「満足している」(TOP1)が5割台と低め。

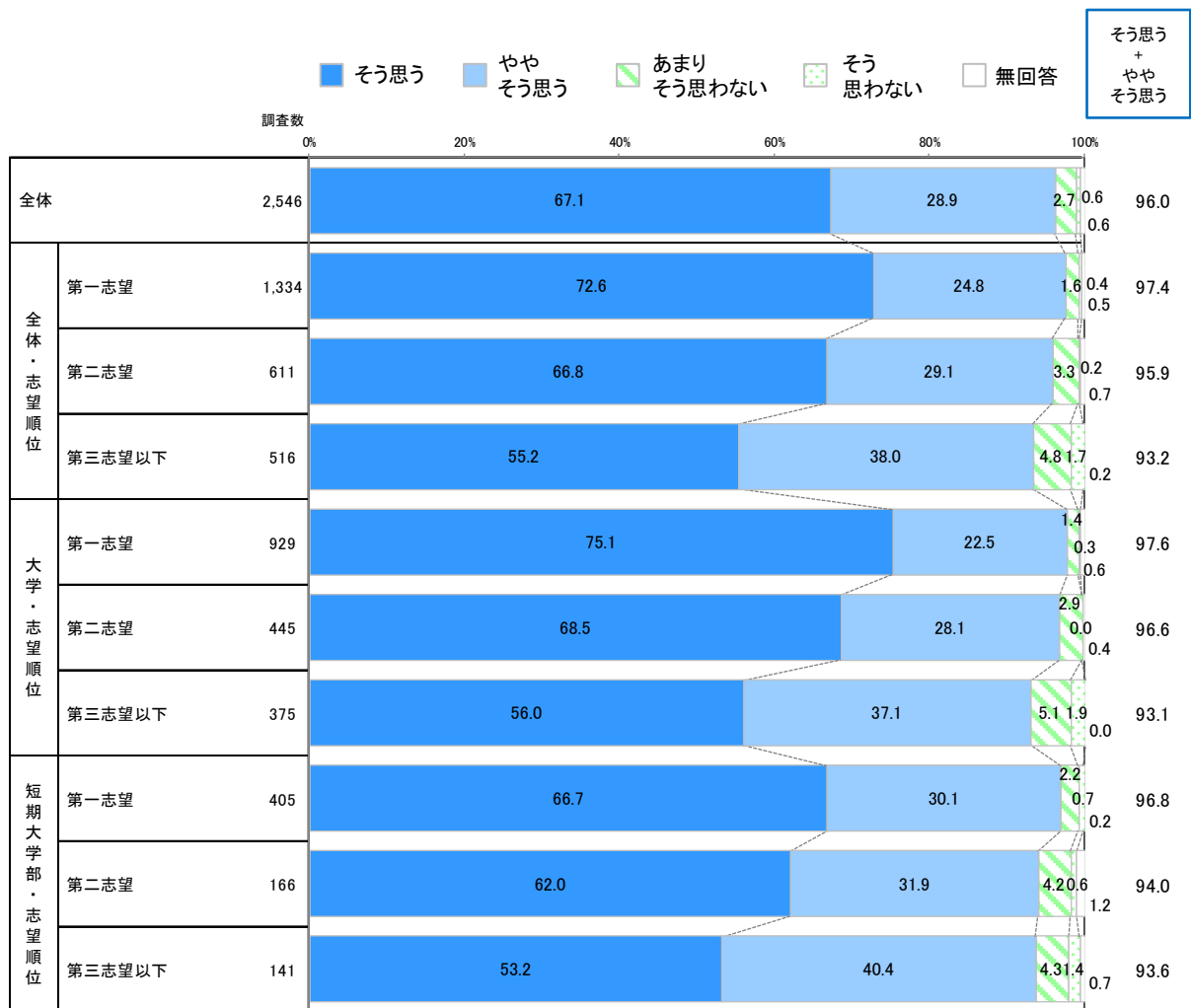
Q9 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。



# 総合満足度(志望度別)

- 大学、短大ともに、志望度の低い層でも、9割を超える学生が大学生活に満足している。
- ただし、「満足している」(TOP1)は、志望度が下がるにつれて低くなる傾向がみられる。

Q9 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。



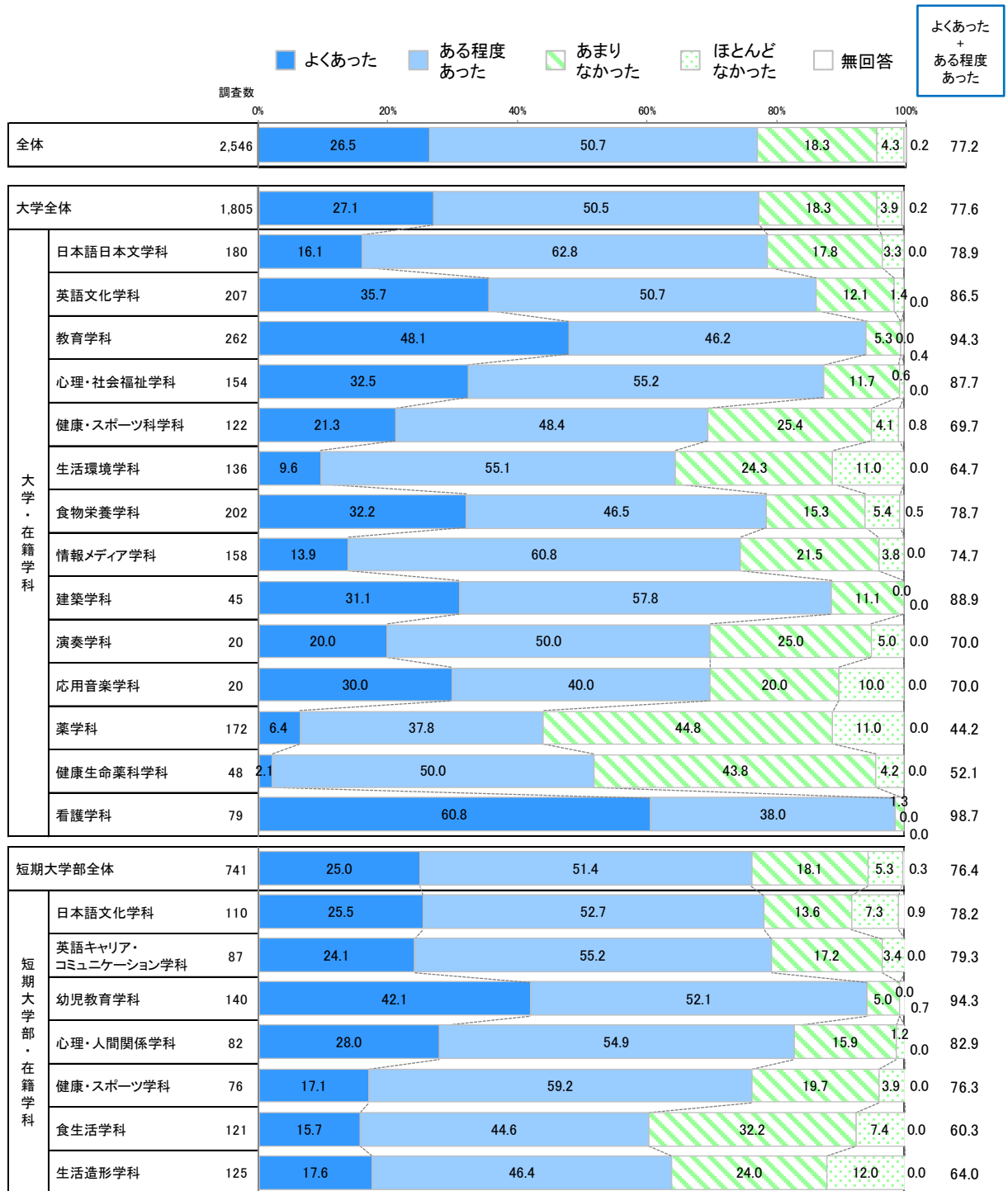
**アンケート結果 詳細内容**  
**【修学状況】**



- ディスカッションを取り入れた授業は、大学、短大ともに、75%以上が体験している。
- 体験率(TOP2計)を学科別でみると、教育学科、心理・社会福祉学科、建築学科、看護学科、幼児教育学科は9割前後と高い。対して、生活環境学科、薬学科、健康生命薬科学科、食生活学科、生活造形学科は6割以下と低め。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

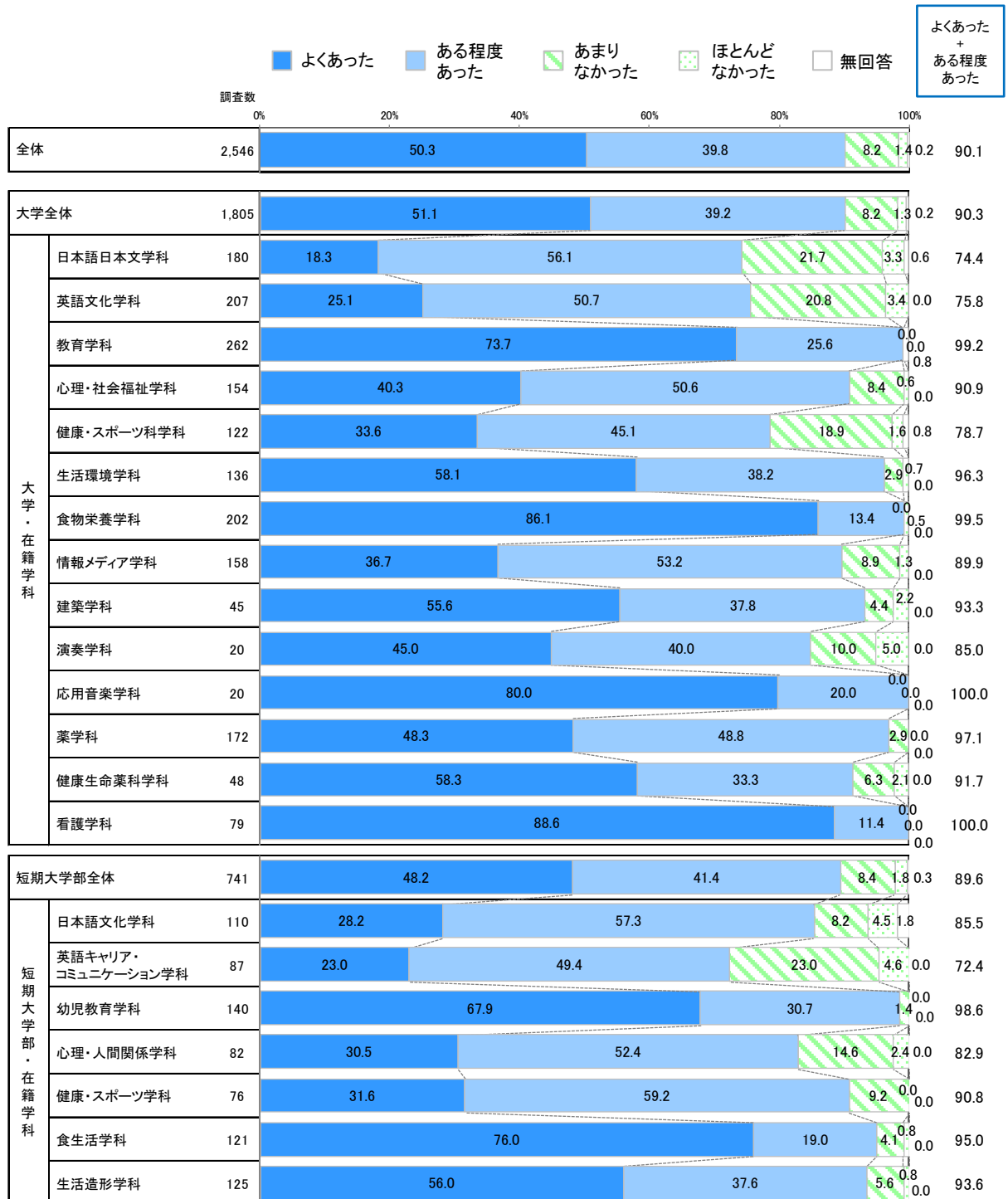
<ディスカッションを取り入れた授業>



- グループワークや実験・実習など協働作業をする授業は、大学、短大ともに、9割程度が体験している。
- 体験率(TOP2計)を学科別でみると、日本語日本文学科、英語文化学科、健康・スポーツ科学科、英語キャリア・コミュニケーション学科は7割台と低め。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

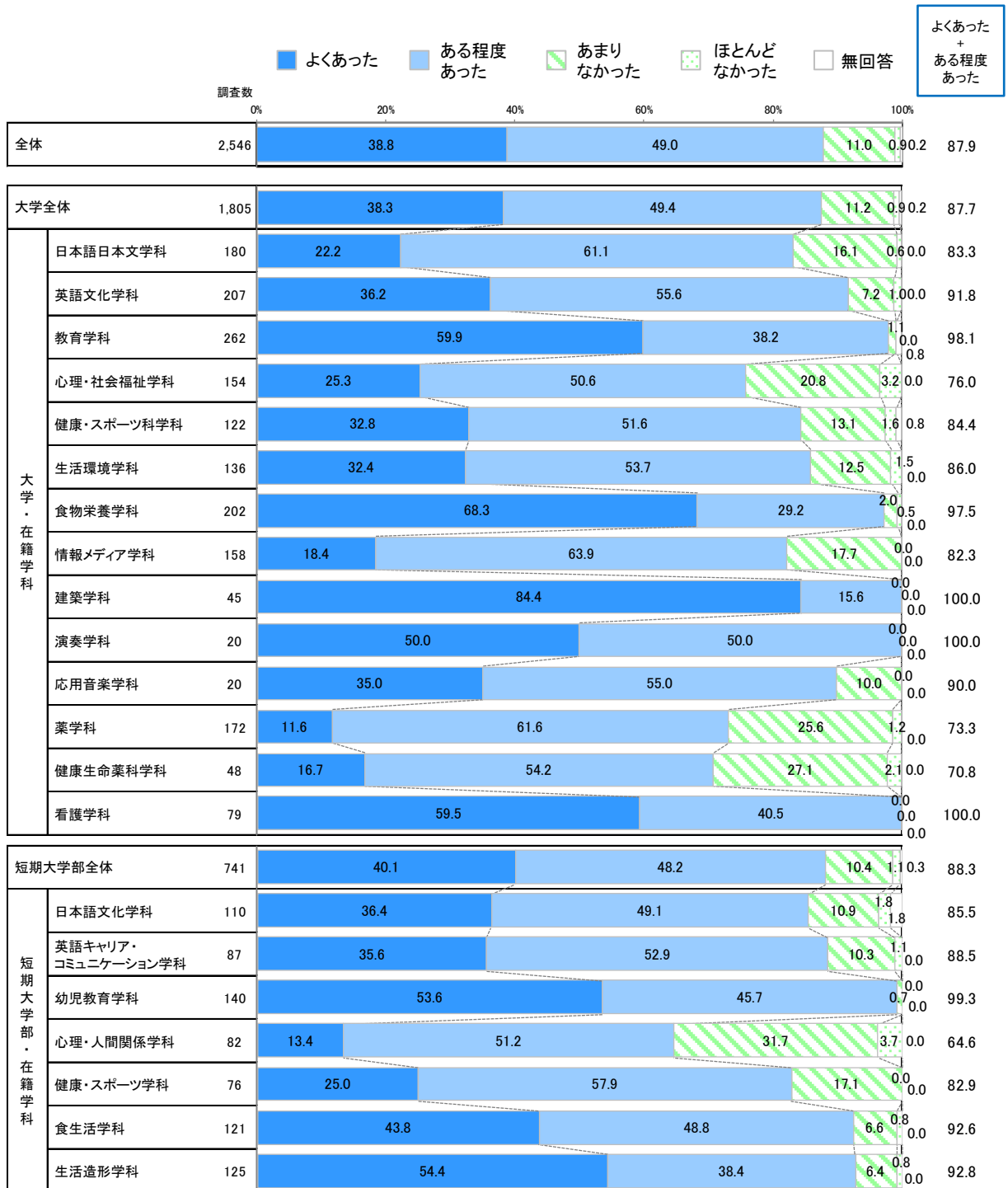
＜グループワークや実験・実習など協働作業をする授業＞



- 発表を取り入れた授業は、大学、短大ともに、9割近くが体験している。
- 体験率(TOP2計)を学科別でみると、建築学科、演奏学科、看護学科は100%、教育学科、幼児教育学科もほぼ100%に近い。心理・社会福祉学科、薬学科、健康生命薬科学科、心理・人間関係学科は7割前後と低め。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

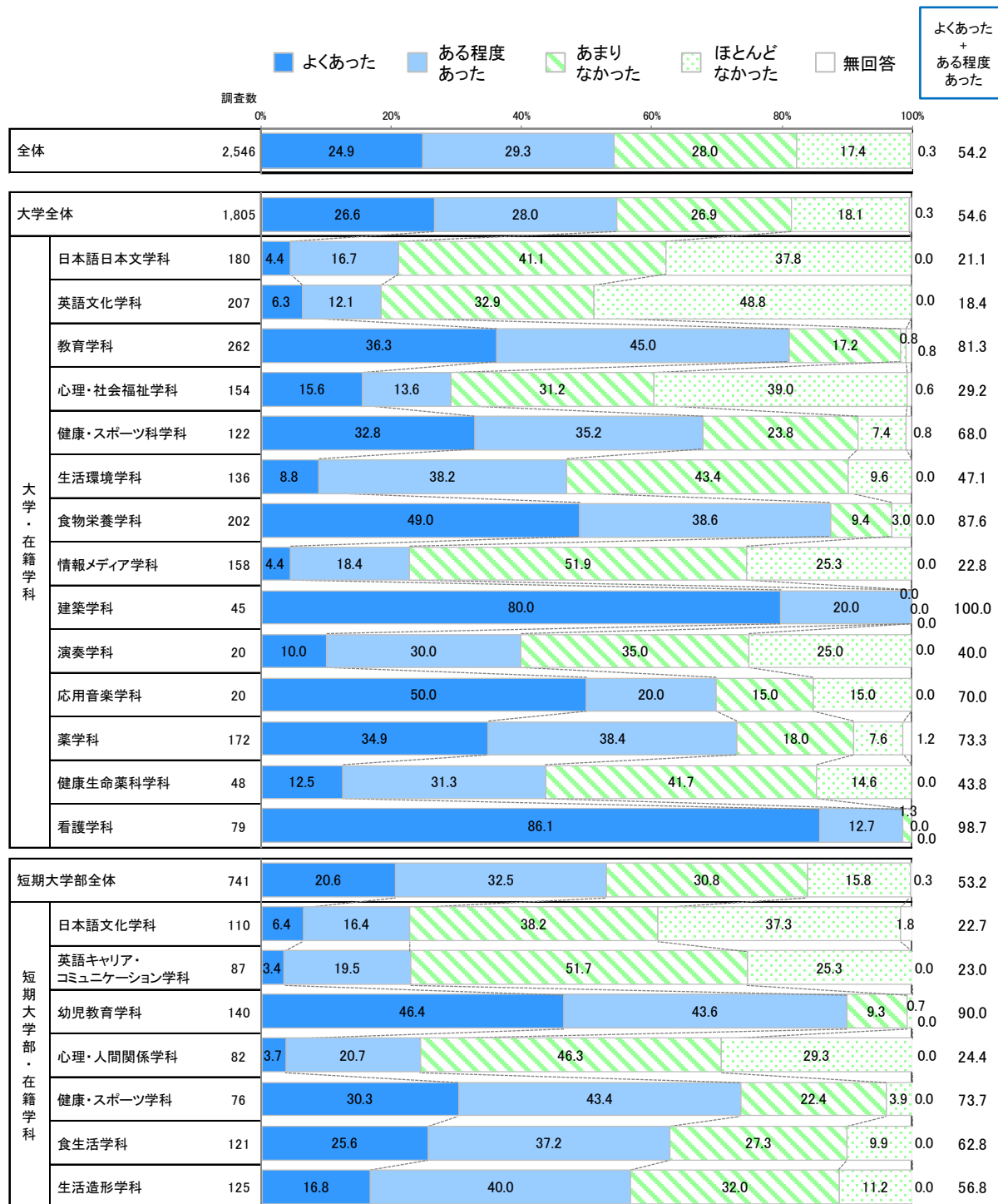
<発表を取り入れた授業>



- 教室外での活動や実習を行う授業は、大学、短大ともに体験率は5割程度と、他の授業機会と比べると低い。
- 体験率(TOP2計)は学科間でバラつきがあり、教育学科、食物栄養学科、建築学科、看護学科、幼児教育学科など体験率が8割を超える学科がある一方で、日本語日本文学科、英語文化学科、心理・社会福祉学科、情報メディア学科、日本語文化学科、英語キャリア・コミュニケーション学科、心理・人間関係学科の体験率は2割程度にとどまっている。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

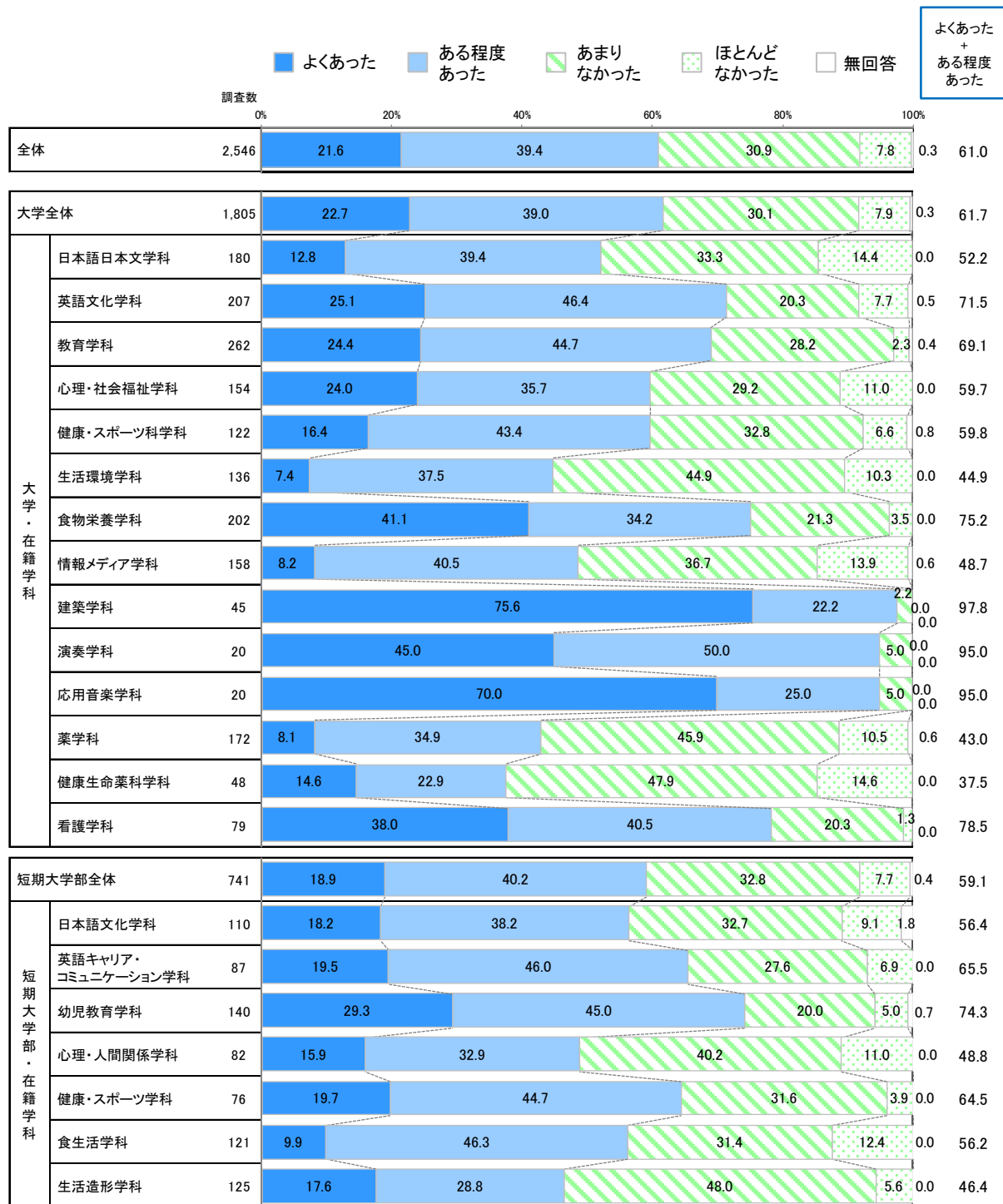
<教室外での活動や実習を行う授業>



- 少人数で行う演習形式の授業は、大学、短大ともに、6割程度と他の授業機会と比べると低い。
- 体験率(TOP2計)は学科間でバラつきがあり、英語文化学科、食物栄養学科、建築学科、演奏学科、応用音楽学科、看護学科、幼児教育学科など体験率が7~9割を示す学科がある一方で、生活環境学科、情報メディア学科、薬学科、健康生命薬科学科、心理・人間関係学科、生活造形学科の体験率は4~5割程度にとどまっている。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

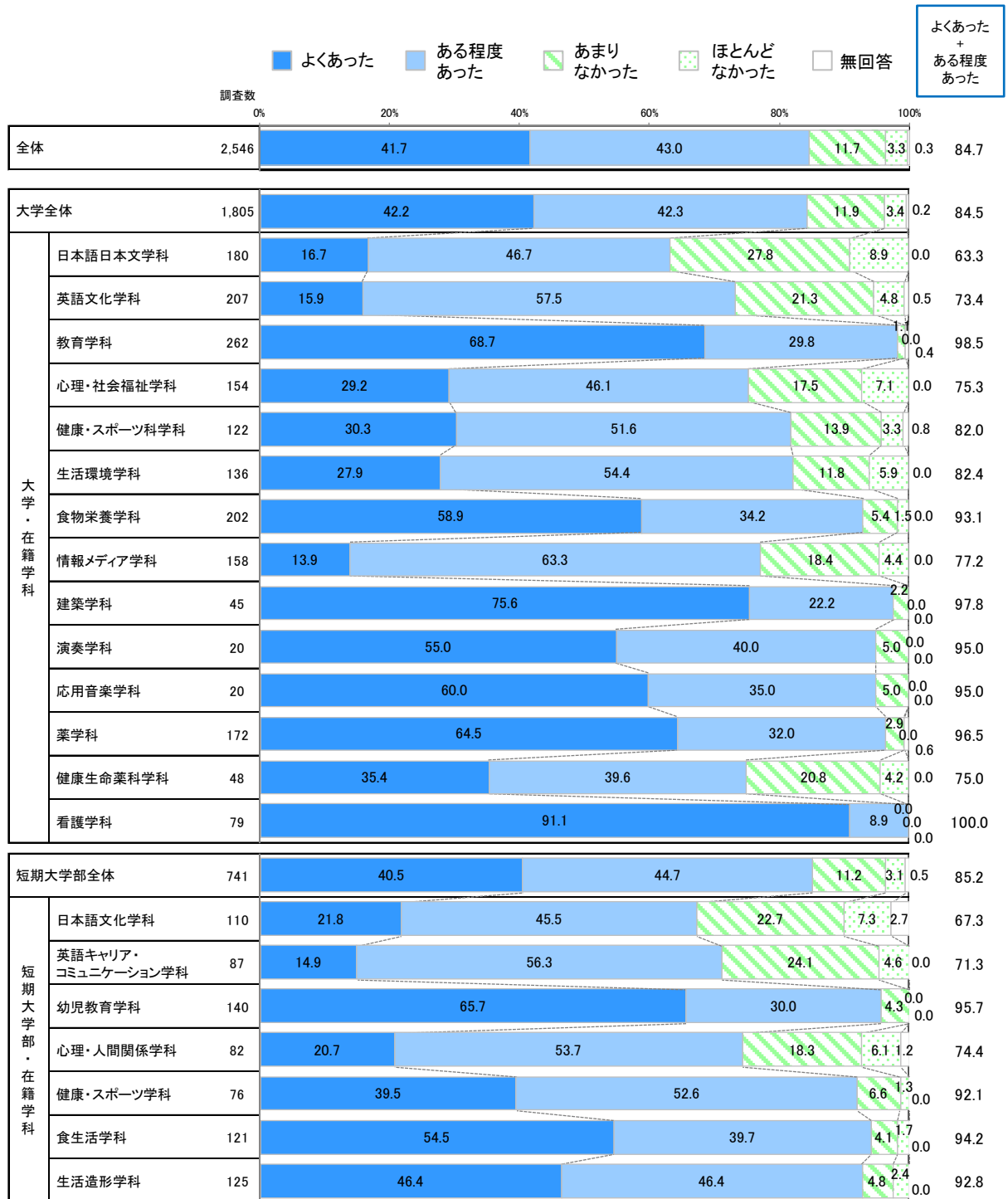
<少人数で行う演習形式の授業>



- 学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業は、大学、短大ともに、8割強が体験している。
- 体験率(TOP2計)は学科別でも総じて高いが、大学では日本語日本文学科、英語文化学科、短大では日本語文化学科、英語キャリア・コミュニケーション学科、心理・人間関係学科は、6~7割と他学科と比べると低い。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

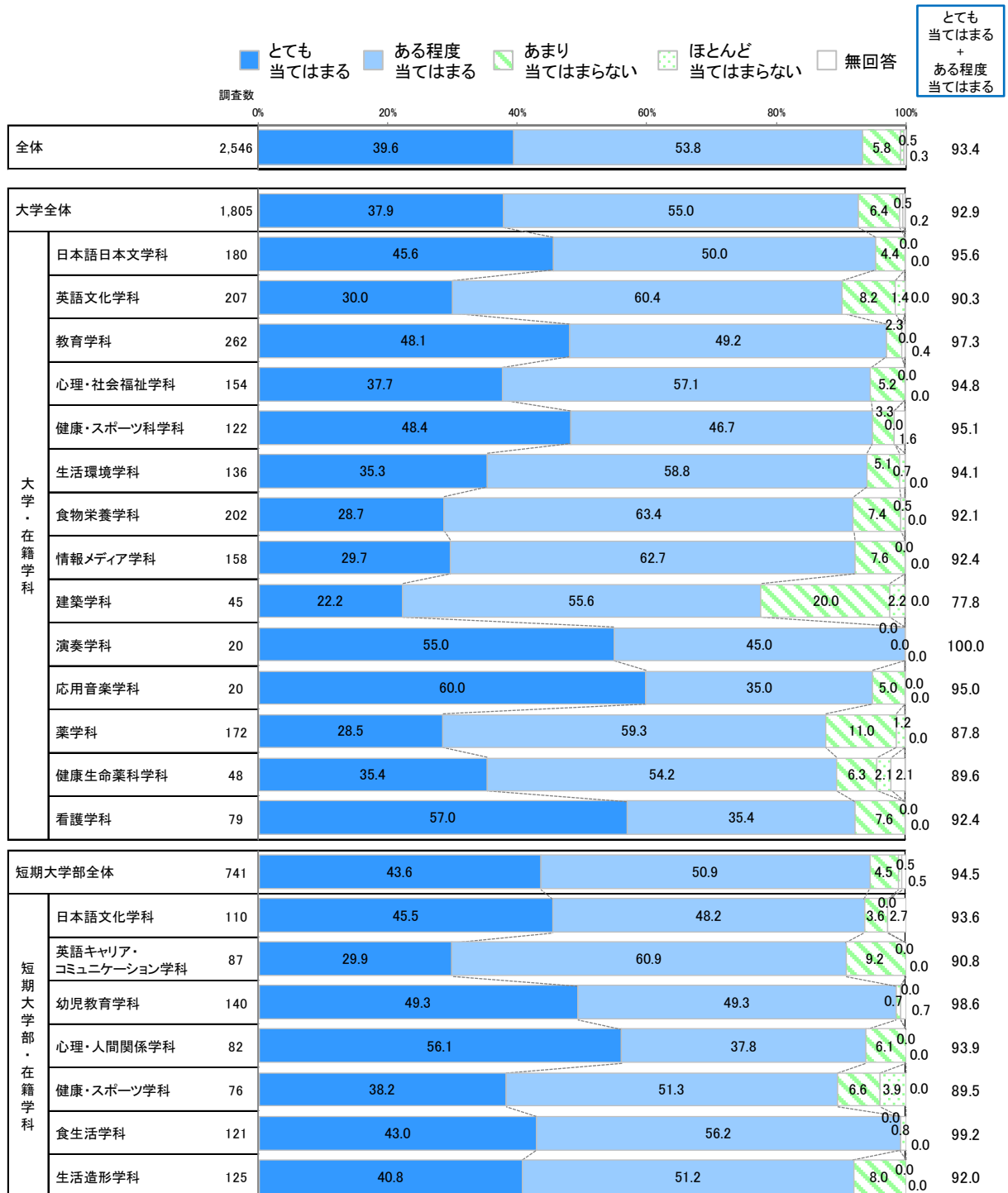
<学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業>



- 教養分野の教育(共通教育)の充実度(TOP2計)は、大学、短大ともに、9割強と非常に高い。「とても当てはまる」(TOP1)も4割前後を示しているが、専門教育(※次ページ)の充実度と比べると高くはない。
- 充実度(TOP2計)は学科別でも総じて高いが、建築学科は8割弱とやや低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

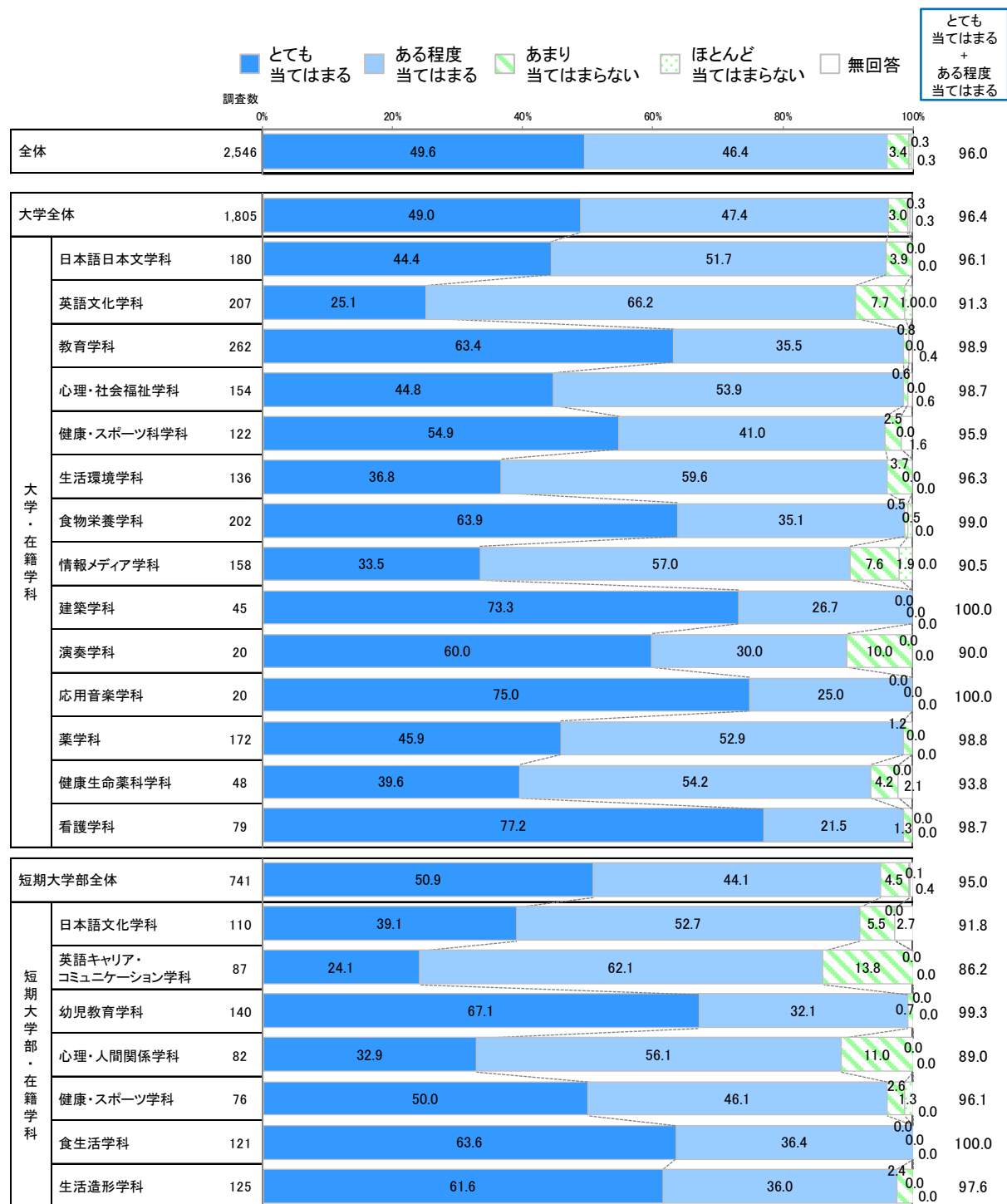
<教養分野の教育(共通教育)が充実している>



- 専門分野の教育の充実度(TOP2計)は、大学、短大ともに95%を超えており非常に高い。
- 充実度(TOP2計)は学科別でも総じて高いが、英語文化学科、情報メディア学科、英語キャリア・コミュニケーション学科、心理・人間関係学科は、「とても当てはまる」(TOP1)が低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

## <専門分野の教育が充実している>

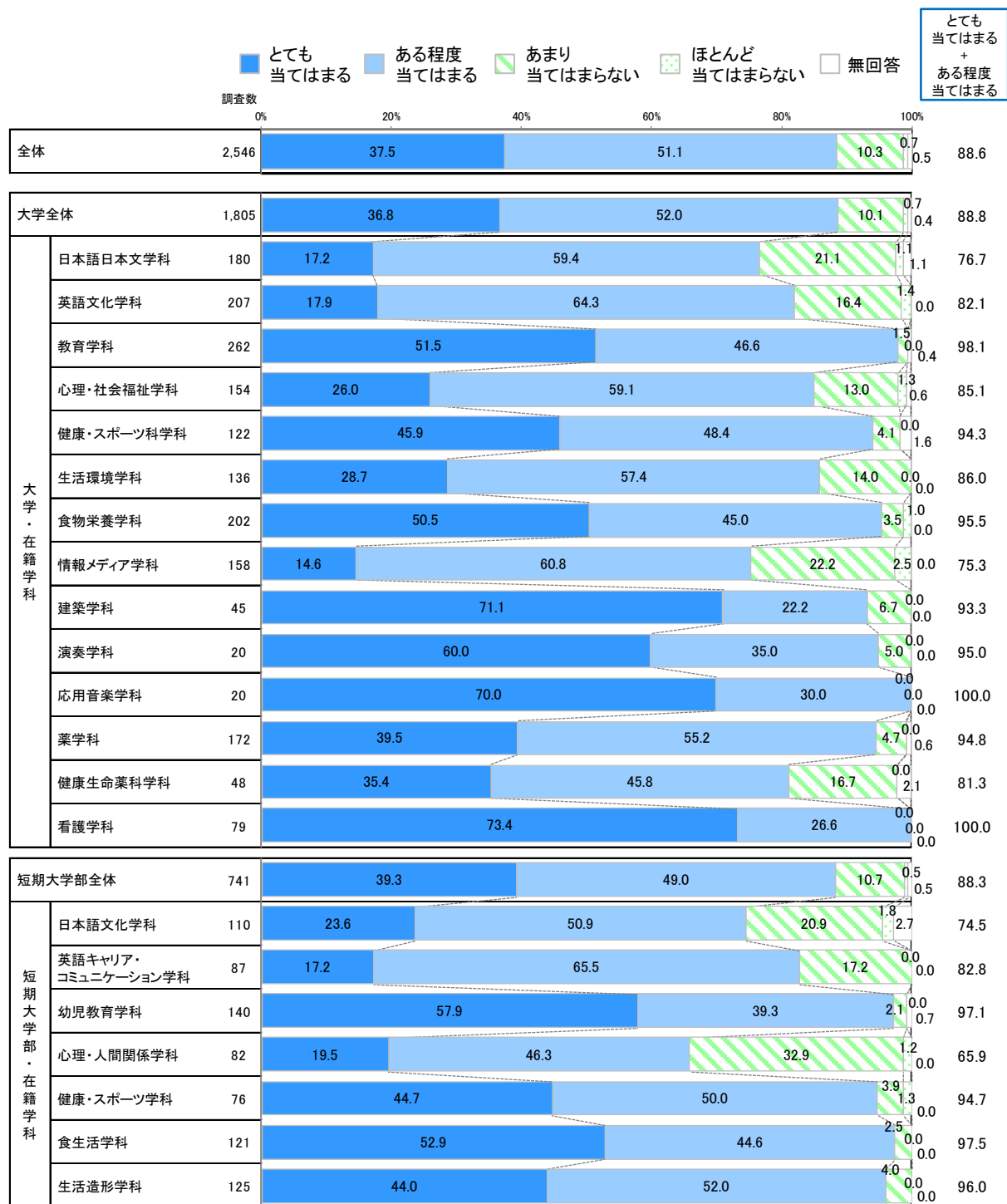




- 実践的・実務的教育の充実度(TOP2計)は、大学、短大ともに、9割弱と高い。
- 学科別でみると、応用音楽学科、看護学科は充実度(TOP2計)が100%。対して、日本語日本文学科、情報メディア学科、日本語文化学科、心理・人間関係学科は、充実度(TOP2計)が6~7割と低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

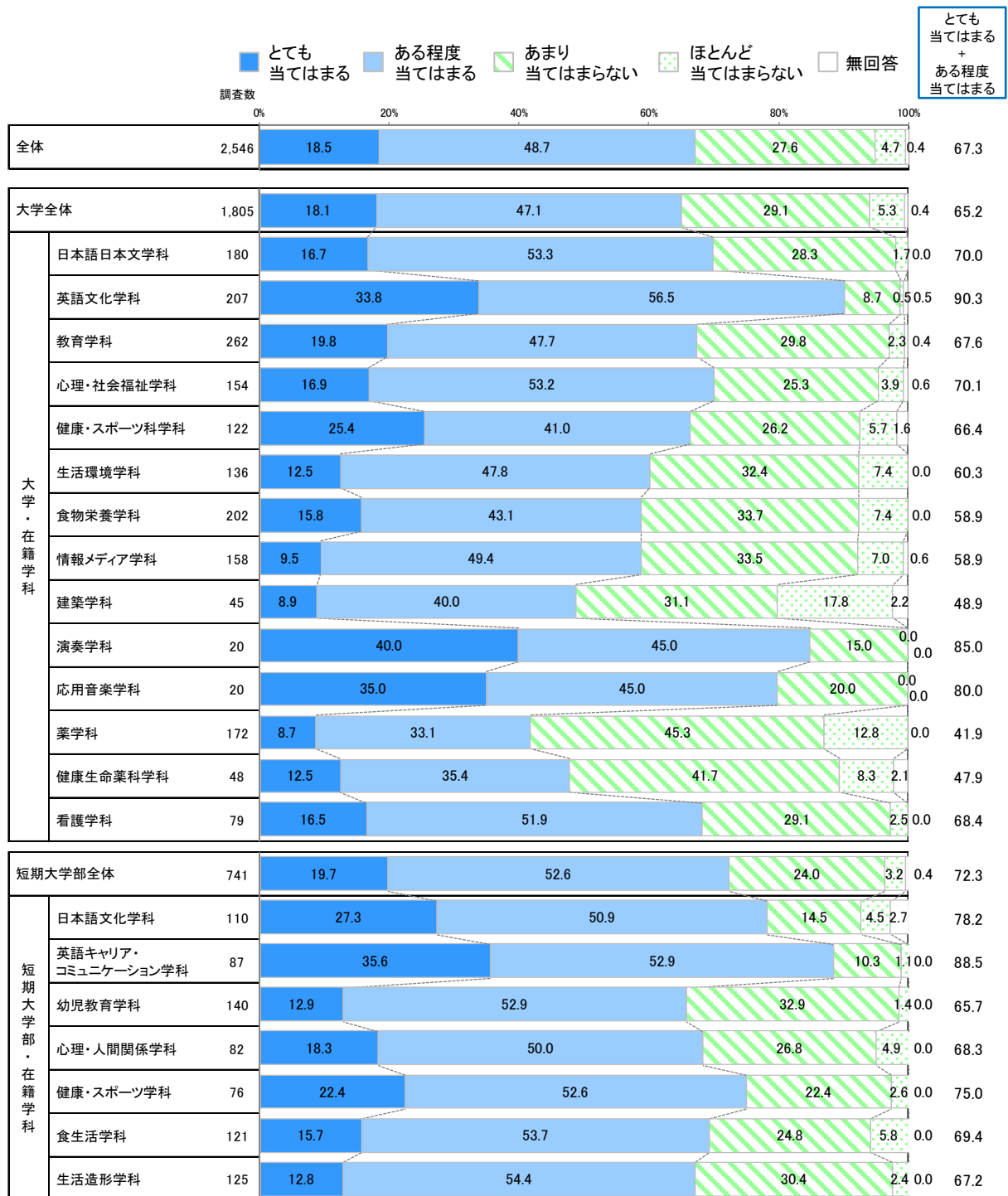
## <実践的・実務的教育が充実している>



■ 外国語教育の充実度(TOP2計)は、大学では6割半ば、短大では7割強。他の教育分野と比べると充実度(TOP2計)は低い。英語文化学科、英語キャリア・コミュニケーション学科でも、「とても当てはまる」(TOP1)は3割程度にとどまる。その他の学科では、建築学科、薬学科、健康生命薬科学科は充実度(TOP2計)が4割台と低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

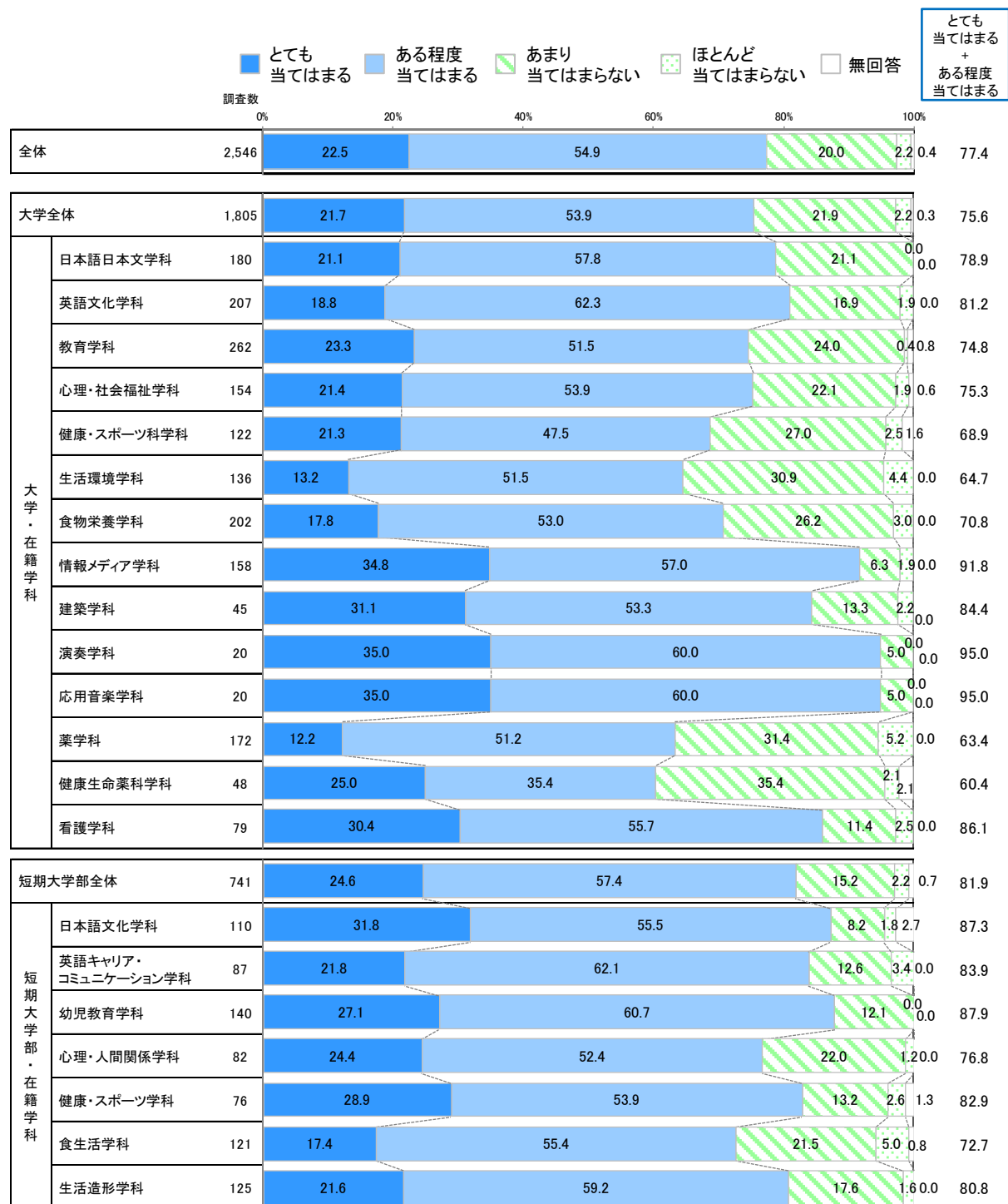
## <外国語教育が充実している>



- 情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)の充実度(TOP2計)は、大学では7割強、短大では8割強だが、他の教育分野と比べると充実度(TOP2計)は低い。「とても当てはまる」(TOP1)も2割程度にとどまる。
- 学科別で見ると、情報メディア学科、演奏学科、応用音楽学科、幼児教育学科の充実度(TOP2計)が9割前後と高い。対して、大学の健康・スポーツ科学科、生活環境学科、薬学科、健康生命薬科学科は充実度(TOP2計)が6割台と低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

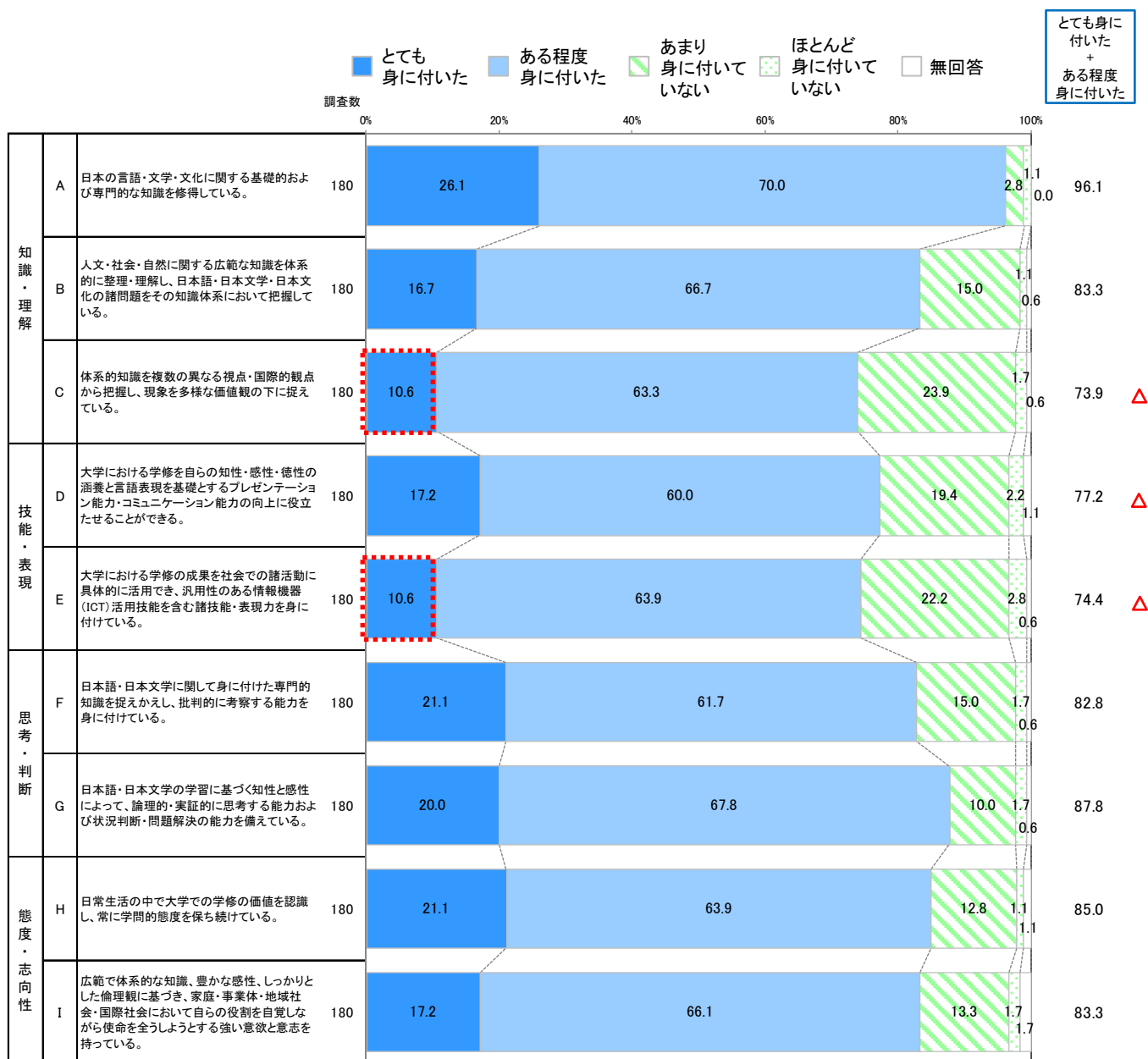
## <情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している>



**アンケート結果 詳細内容**  
**【ディプロマ・ポリシーの修得度】**

- 修得度(TOP2計)は、7～9割と概ね高い。(ただし、ディプロマ・ポリシー9項目の「とても身に付いた」(TOP1)の平均値は、大学全体148項目の平均値と比べて低い。※P8参照。)
- 「知識・理解 C」「技能・表現 D」「技能・表現 E」の修得度(TOP2計)は、他の項目と比べるとやや低め。特に「知識・理解 C」「技能・表現 E」は、「とても身に付いた」(TOP1)も1割とかなり低い。

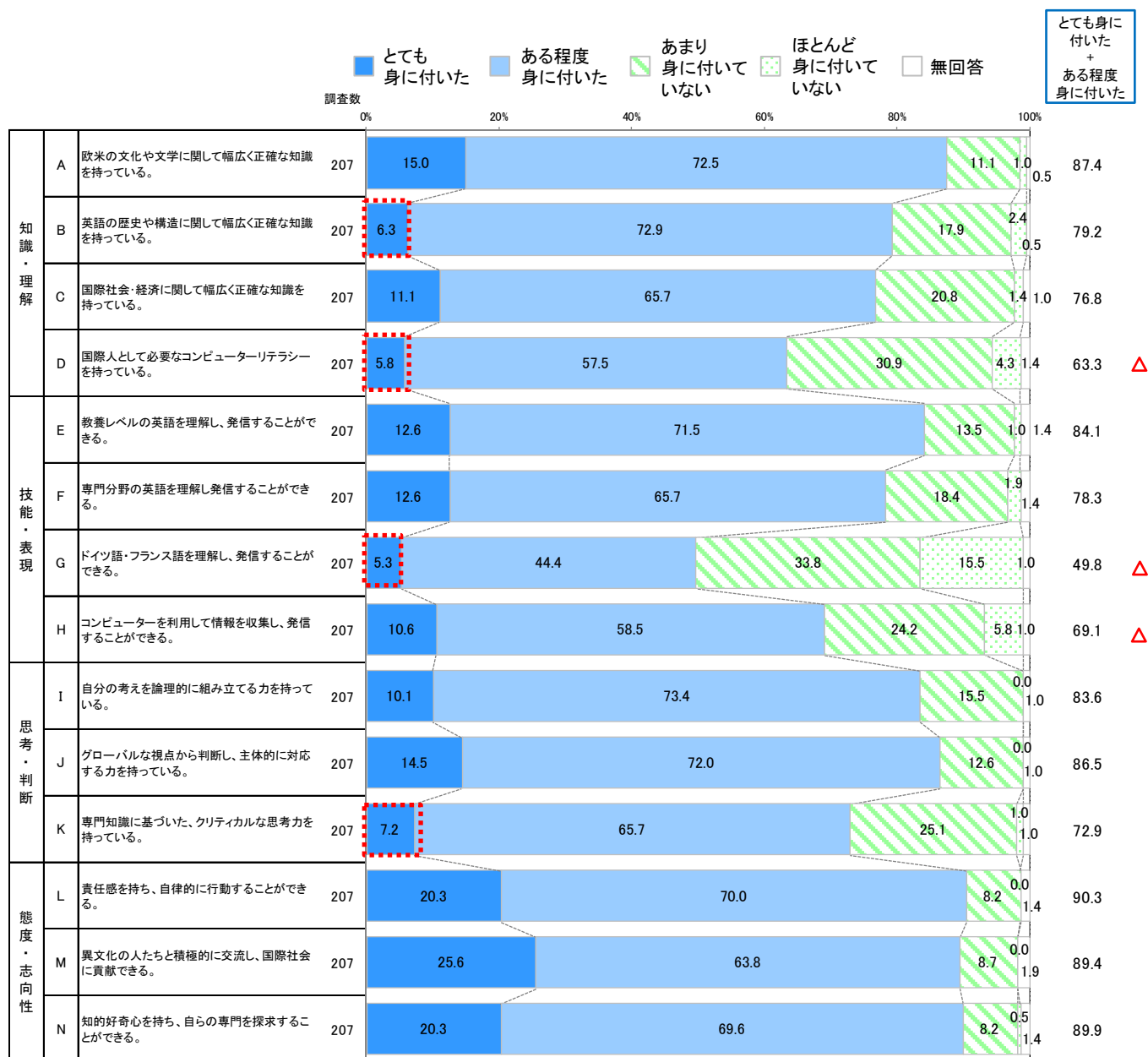
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



# 修得した能力【文学部 英語文化学科】

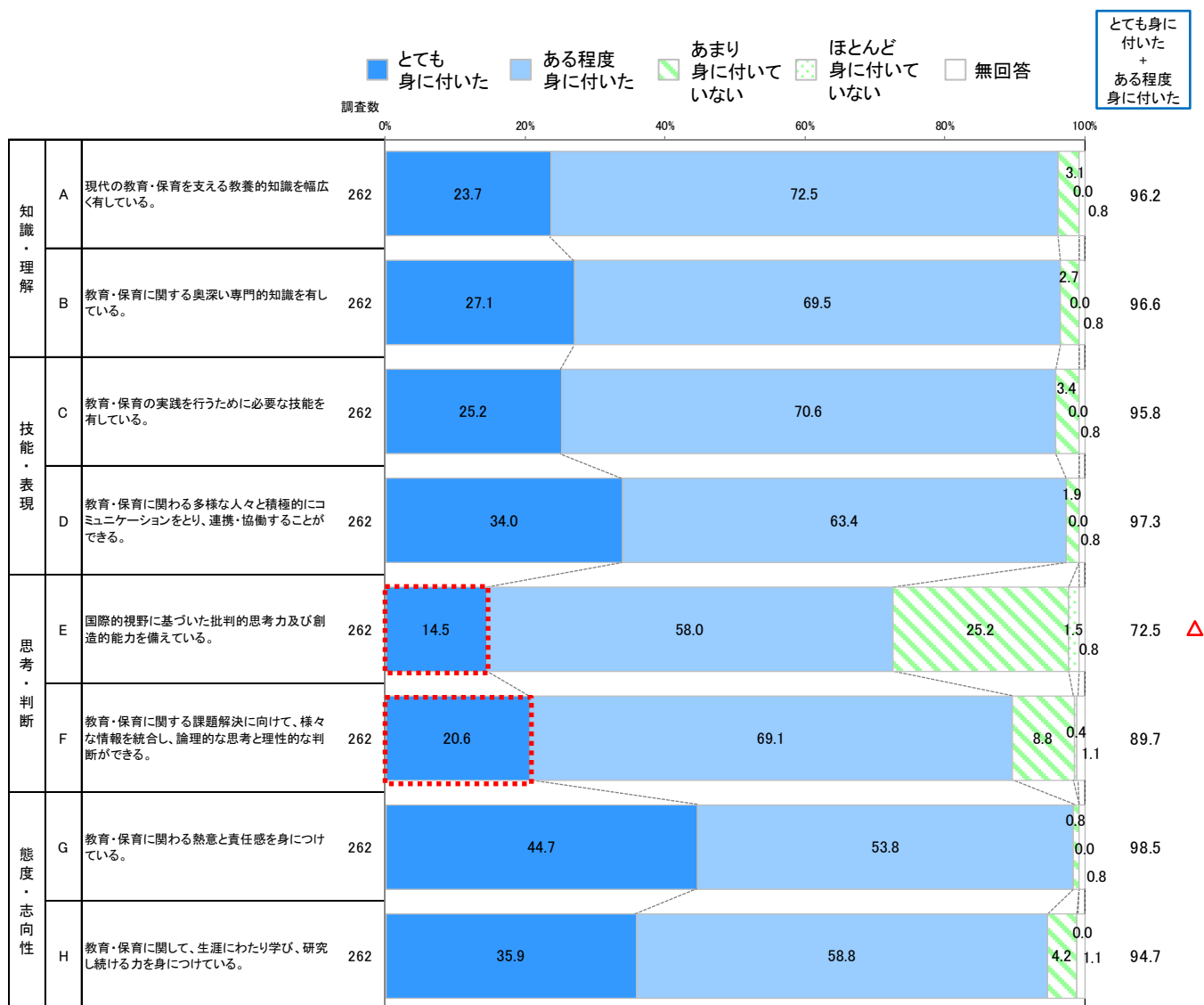
- 修得度(TOP2計)は、項目によってバラつきが大きい。(また、ディプロマ・ポリシー14項目の「とても身に付いた」(TOP1)の平均値とTOP2計の平均値は、大学全体148項目の平均値と比べて低い。※P8参照。)
- 修得度(TOP2計)が7割を切る項目は、「知識・理解 D」「技能・表現 G」「技能・表現 H」。「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「知識・理解 B」「知識・理解 D」「技能・表現 G」「思考・判断 K」で、いずれも1割を下回る。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



- 修得度(TOP2計)は、7～9割と概ね高い。
- 「思考・判断 E」の修得度(TOP2計)は、他の項目と比べるとやや低め。「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「思考・判断 E」「思考・判断 F」。

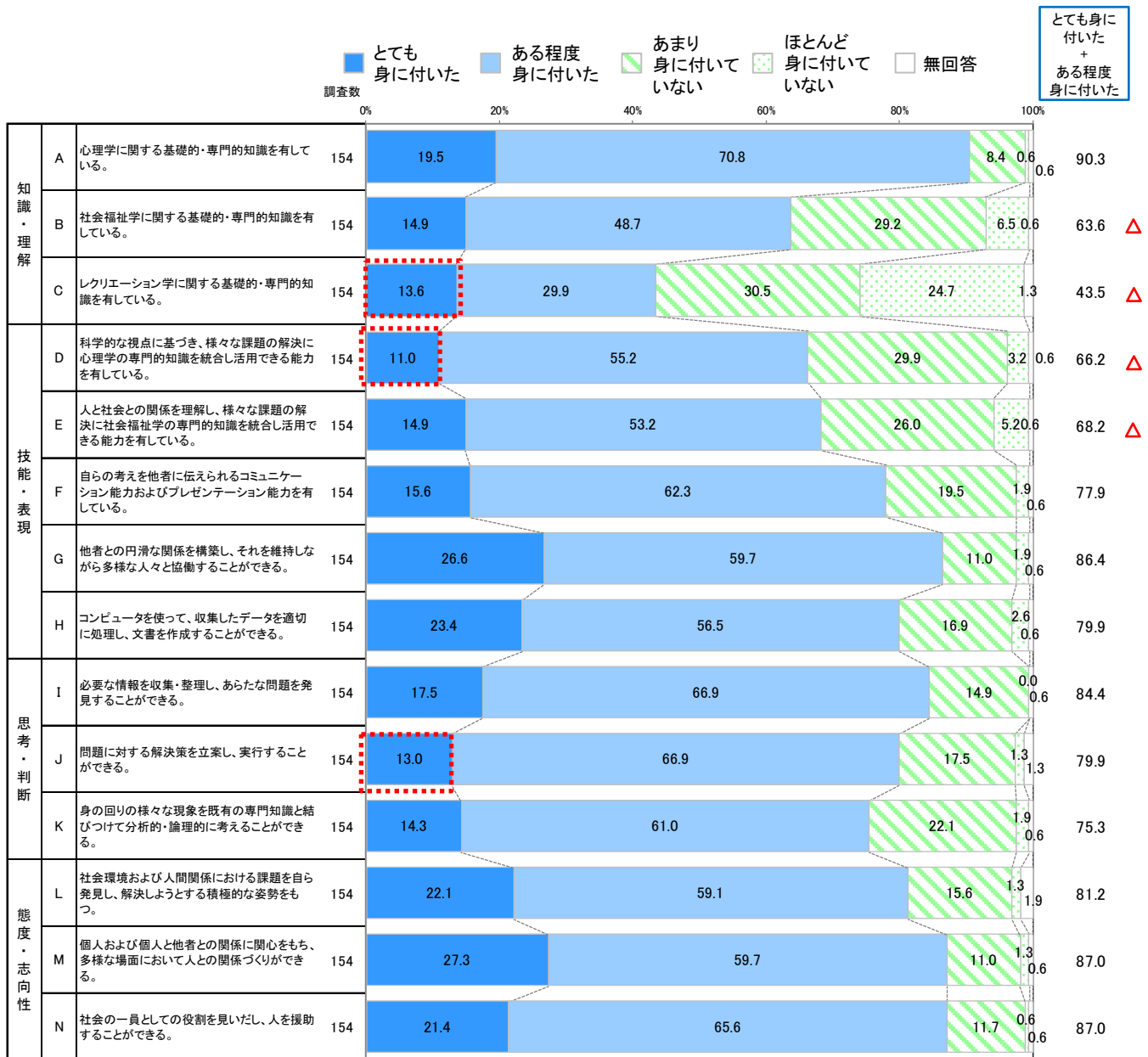
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



# 修得した能力【文学部 心理・社会福祉学科】

- 修得度(TOP2計)は、4～9割と、項目によってバラつきが大きい。(また、ディプロマ・ポリシー14項目の「とても身に付いた」(TOP1)の平均値とTOP2計の平均値は、大学全体148項目の平均値と比べて低い。※P8参照。)
- 修得度(TOP2計)が7割を切る項目は、「知識・理解 B」「知識・理解 C」「技能・表現 D」「技能・表現 E」。「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「知識・理解 C」「技能・表現 D」「思考・判断 J」。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

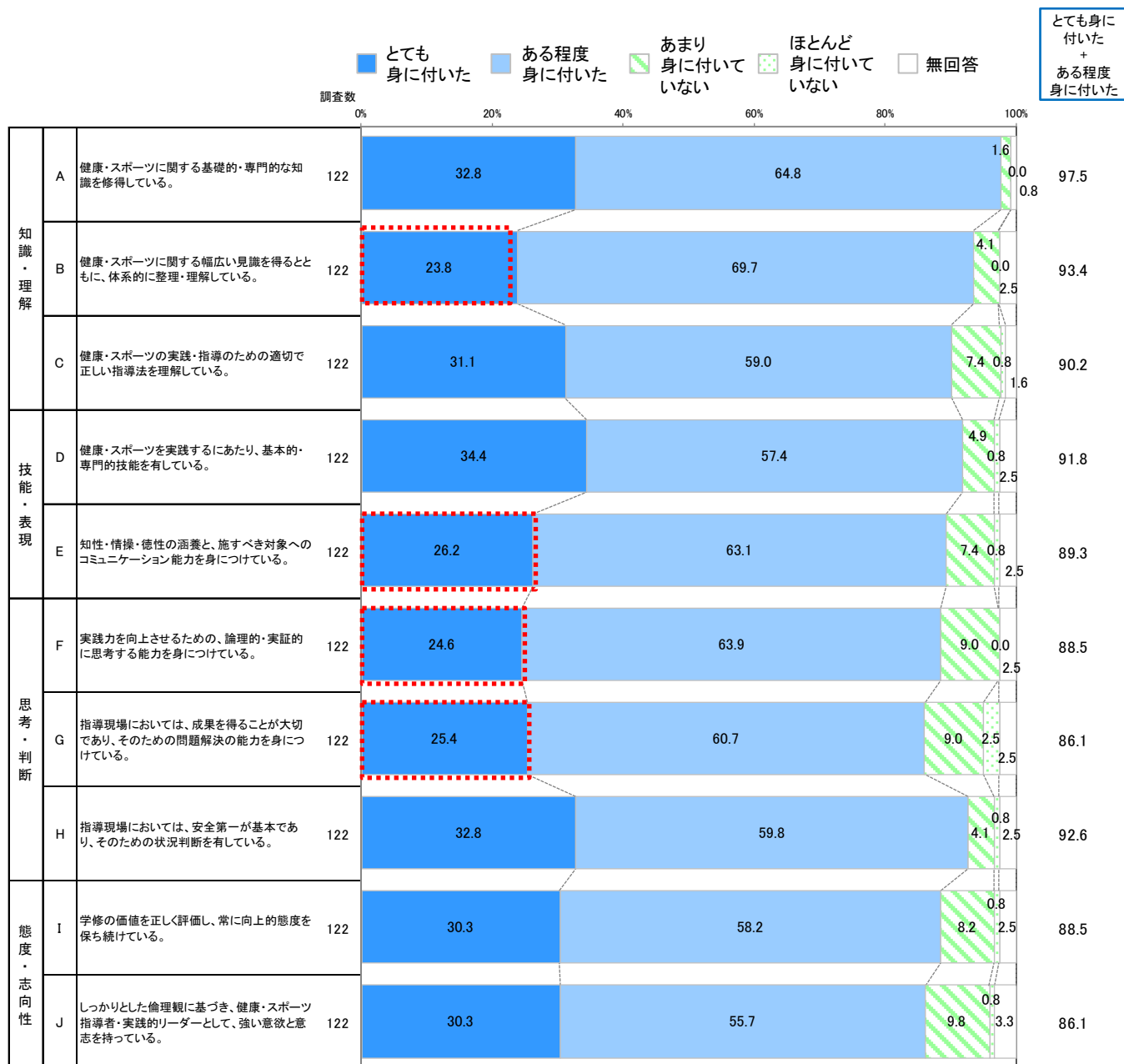




# 修得した能力【健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科】

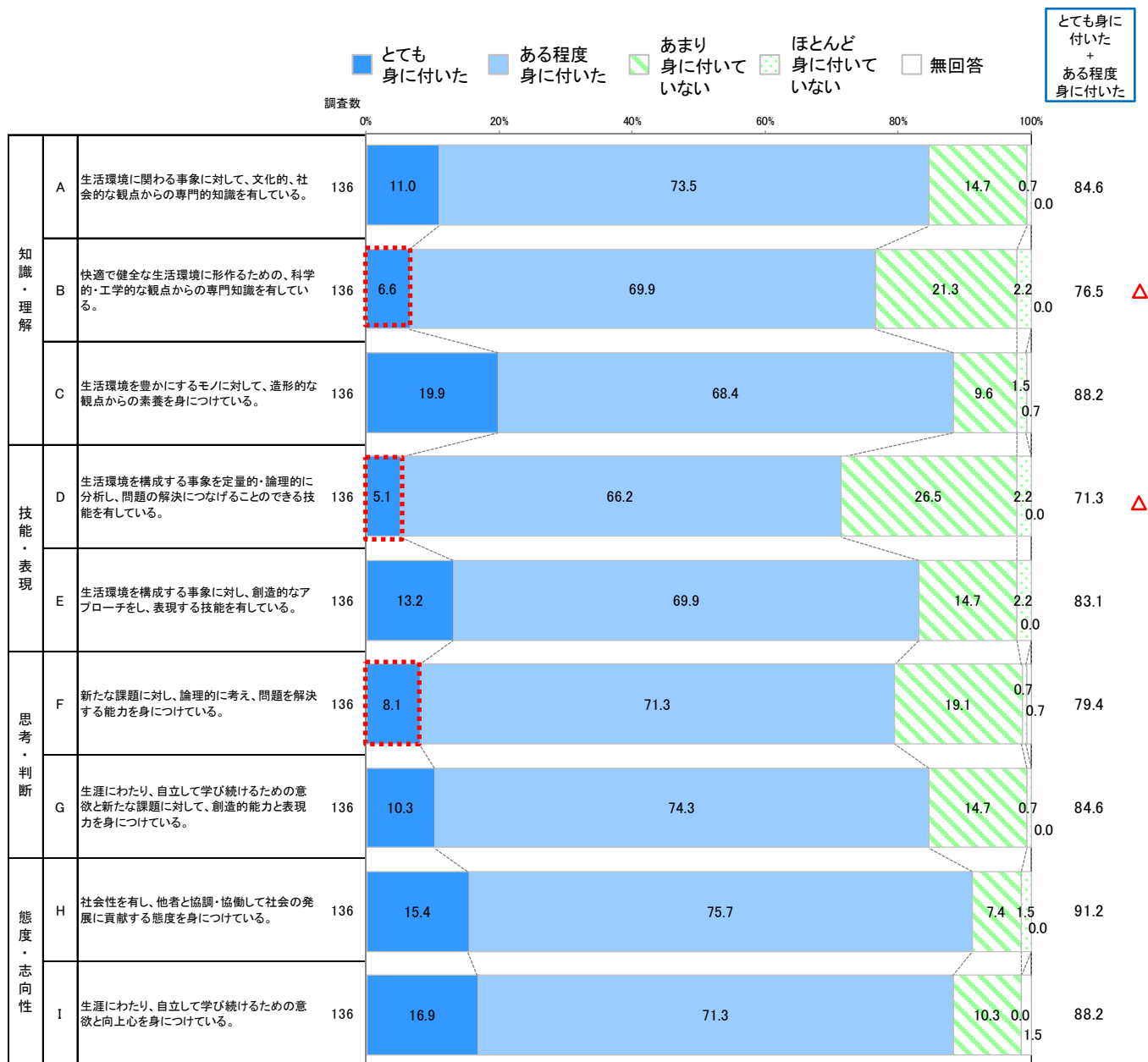
- 修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が比較的低いのは、「知識・理解 B」「技能・表現 E」「思考・判断 F」「思考・判断 G」で、いずれも2割台にとどまっている。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



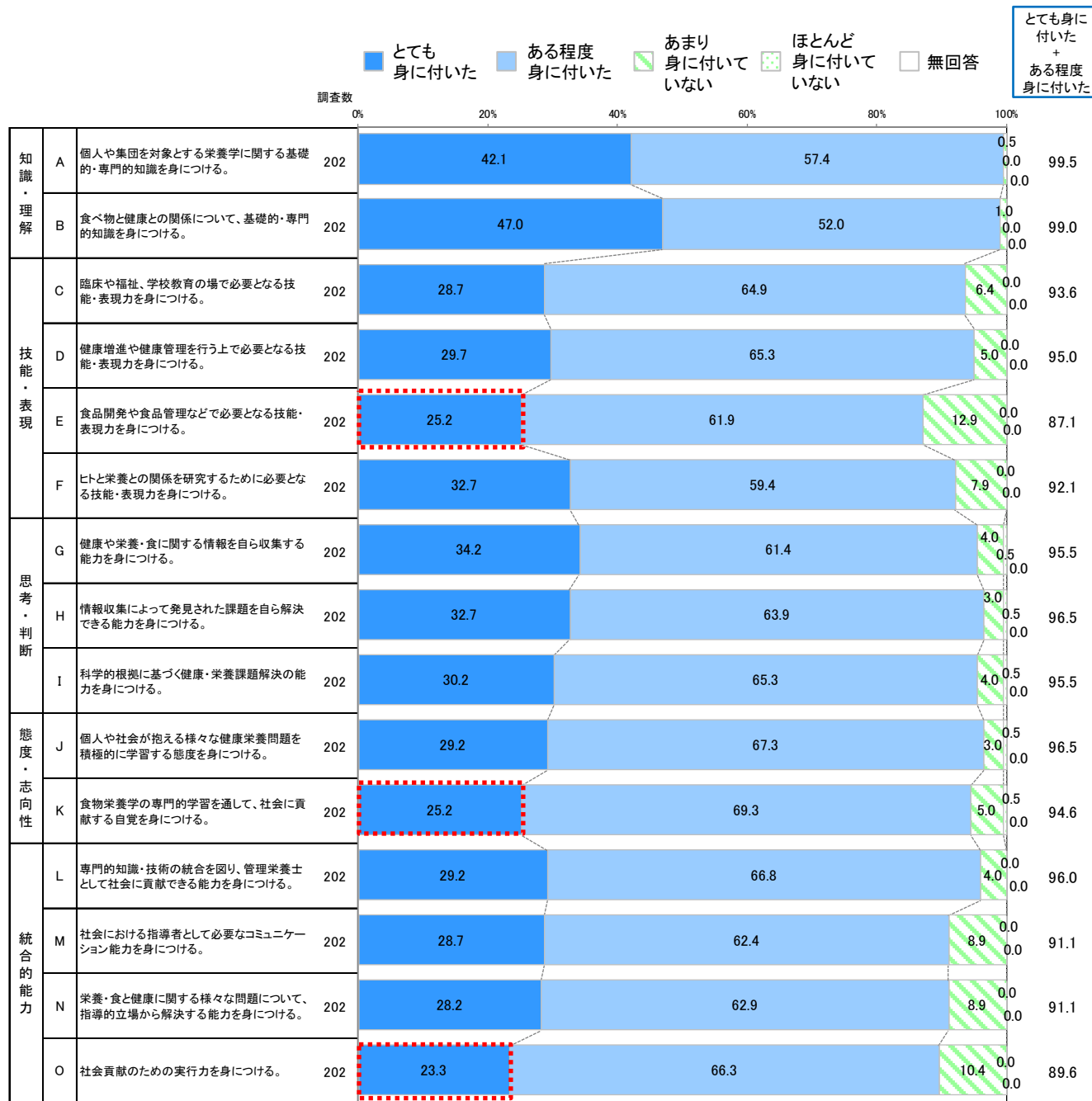
- 修得度(TOP2計)は、7～9割と概ね高い。(ただし、ディプロマ・ポリシー9項目の「とても身に付いた」(TOP1)の平均値は、大学全体148項目の平均値と比べて低い。※P8参照。)
- 「知識・理解 B」「技能・表現 D」の修得度(TOP2計)は、他の項目と比べるとやや低め。「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「知識・理解 B」「技能・表現 D」「思考・判断 F」で、いずれも1割を下回る。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



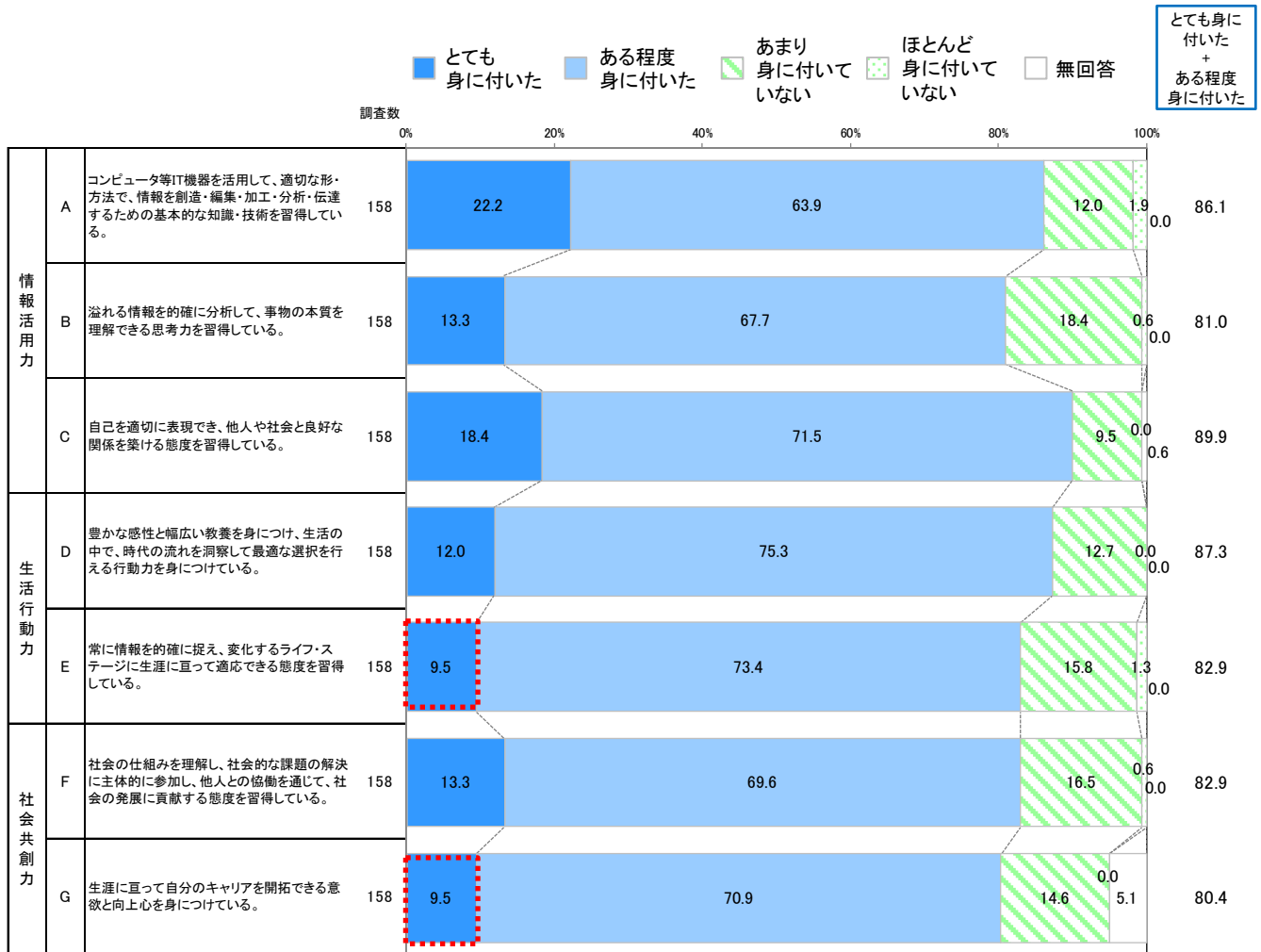
- 修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「技能・表現 E」「態度・志向性 K」「統合的能力 O」で、いずれも2割台半ばにとどまる。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



- 修得度(TOP2計)は、いずれの項目も8割台と全体的に高い。(ただし、ディプロマ・ポリシー7項目の「とても身に付いた」(TOP1)の平均値は、大学全体148項目の平均値と比べて低い。※P8参照。)
- 「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「生活行動力 E」「社会共創力 G」で、ともに1割に満たない。

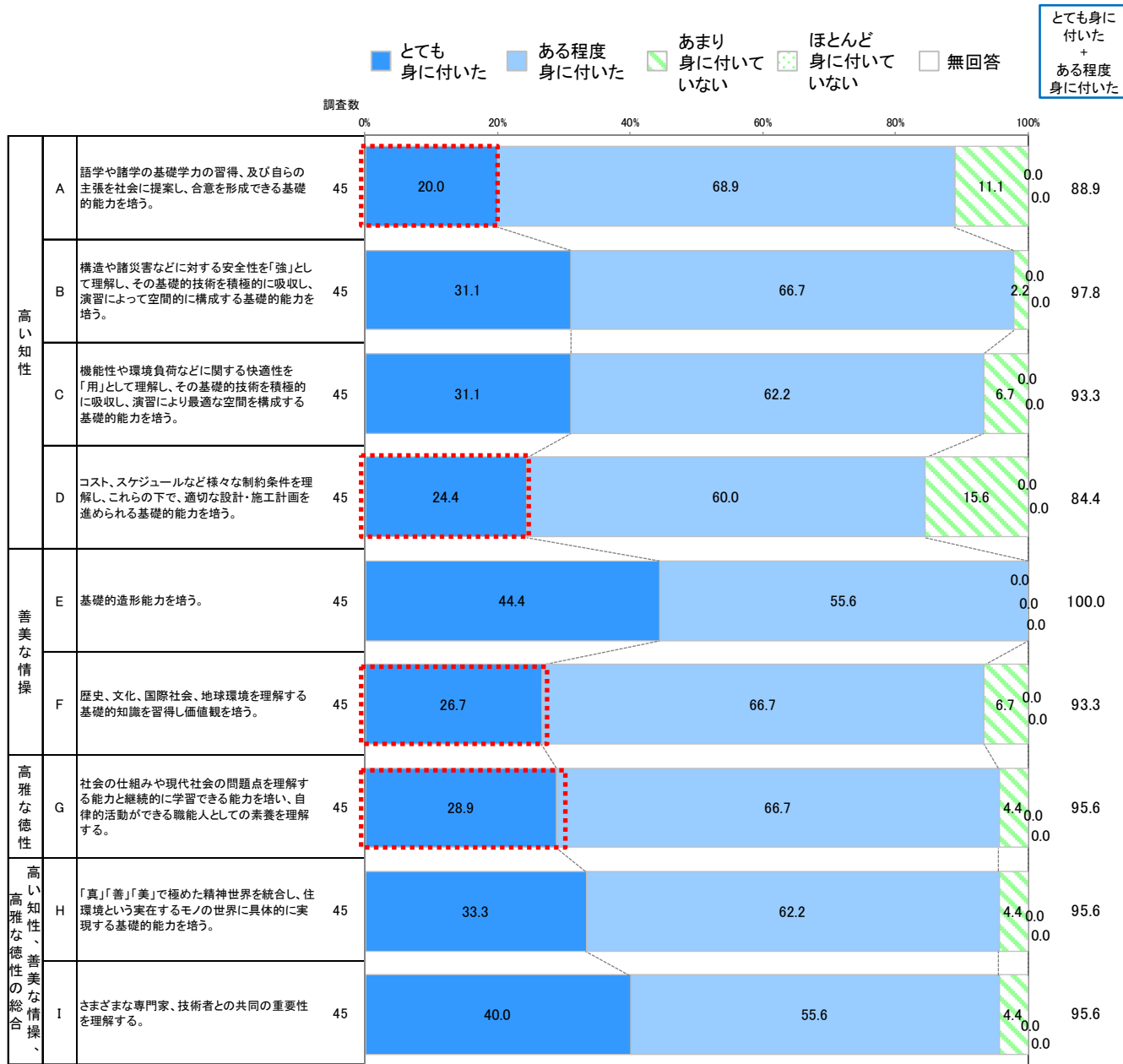
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



# 修得した能力【生活環境学部 建築学科】

- 修得度(TOP2計)は、8~10割と全体的にかなり高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「高い知性 A」「高い知性 D」「善美な情操 F」「高雅な徳性 G」で、いずれも2割台にとどまる。

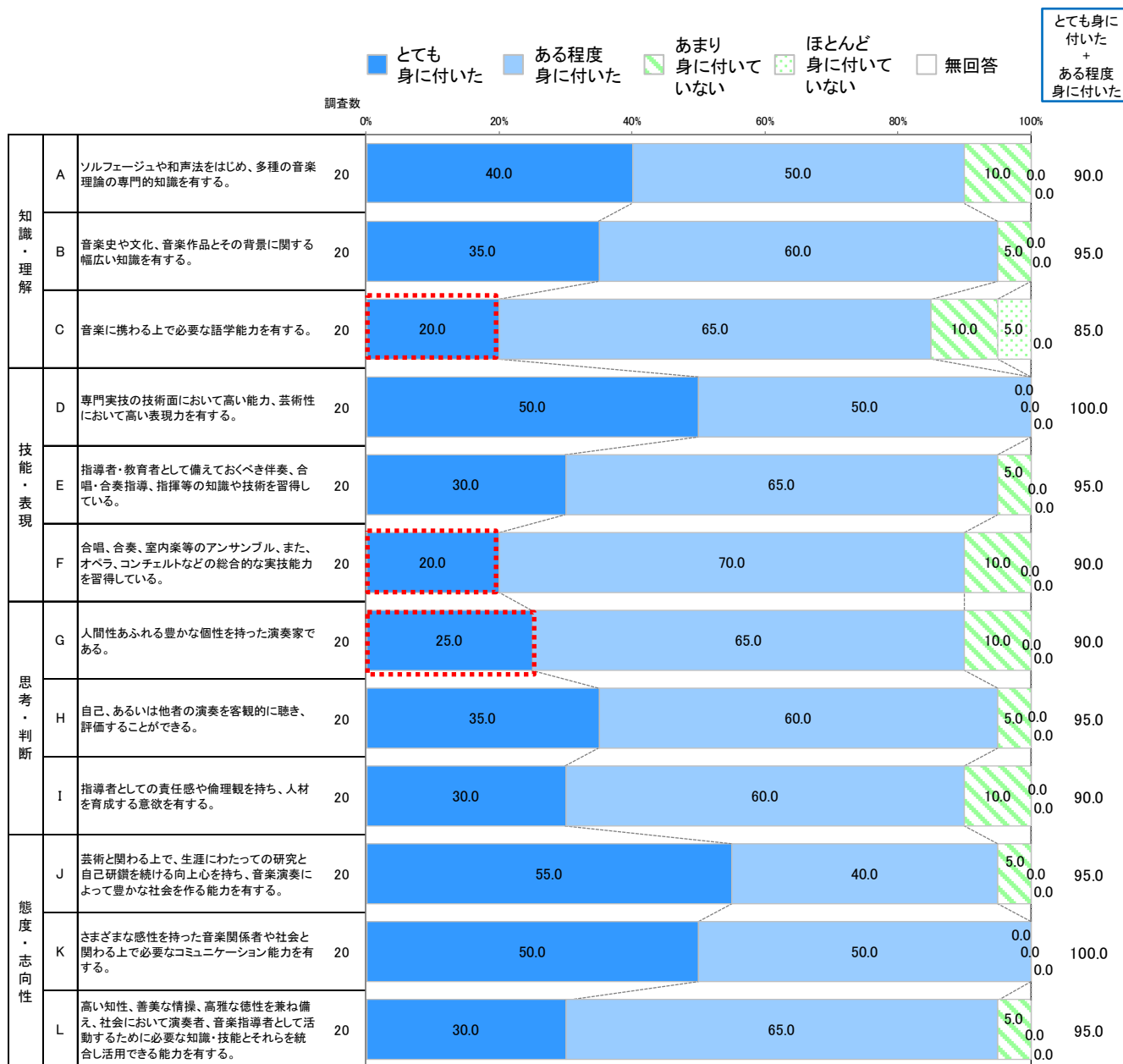
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



# 修得した能力【音楽学部 演奏学科】

- 修得度(TOP2計)は、8～10割と全体的にかなり高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「知識・理解 C」「技能・表現 F」「思考・判断 G」で、いずれも2割台にとどまる。

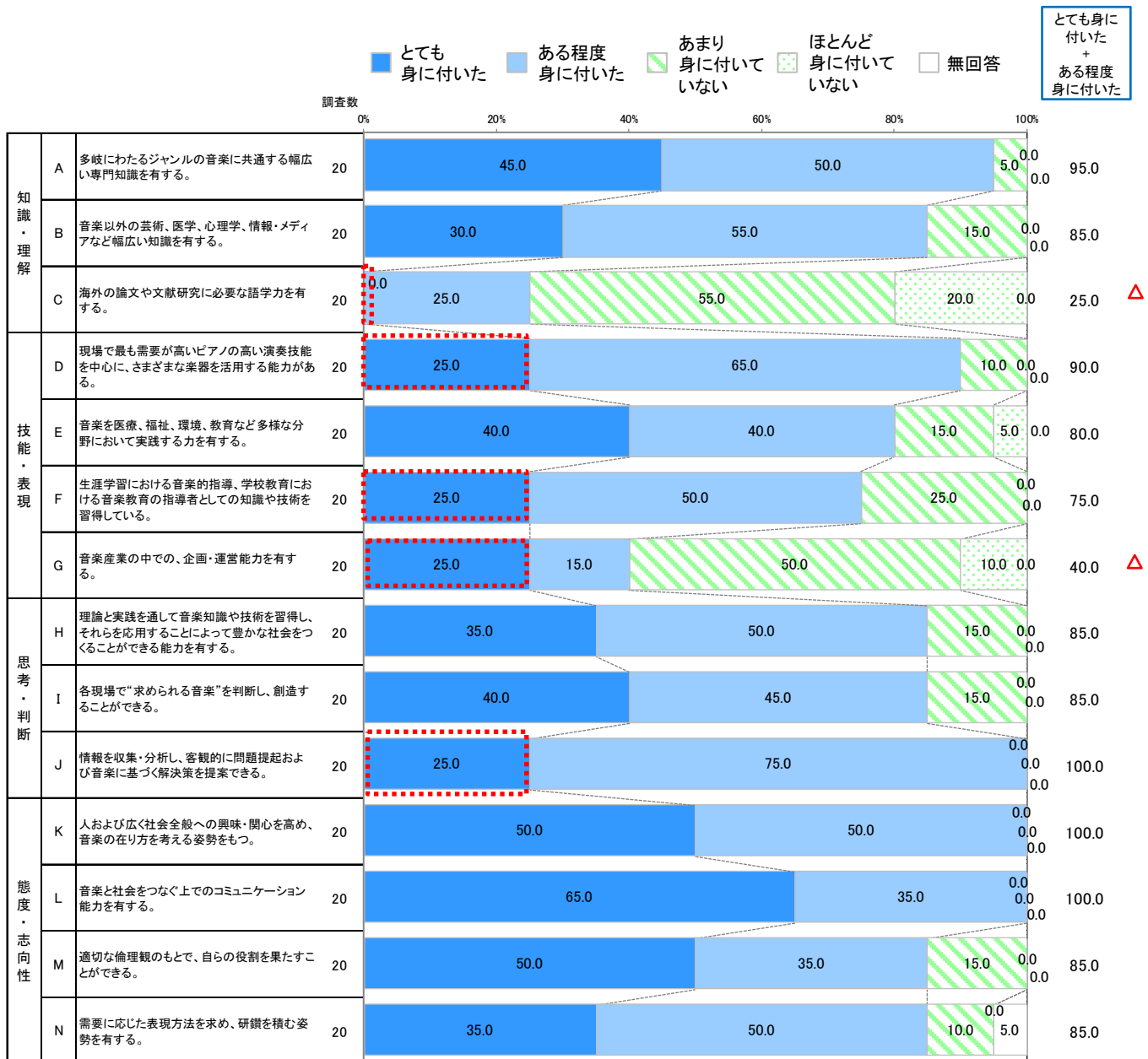
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



# 修得した能力【音楽学部 応用音楽学科】

- 修得度(TOP2計)は、2~10割と、項目によって非常にバラつきが大きい。
- 「知識・理解 C」「技能・表現 G」の修得度(TOP2計)は、他の項目と比べるとかなり低め。「とても身に付いた」(TOP1)が最も低いのは、「知識・理解 C」で0%。「技能・表現 D」「技能・表現 F」「技能・表現 G」「思考・判断 J」も25.0%と、他の項目と比べると低い。

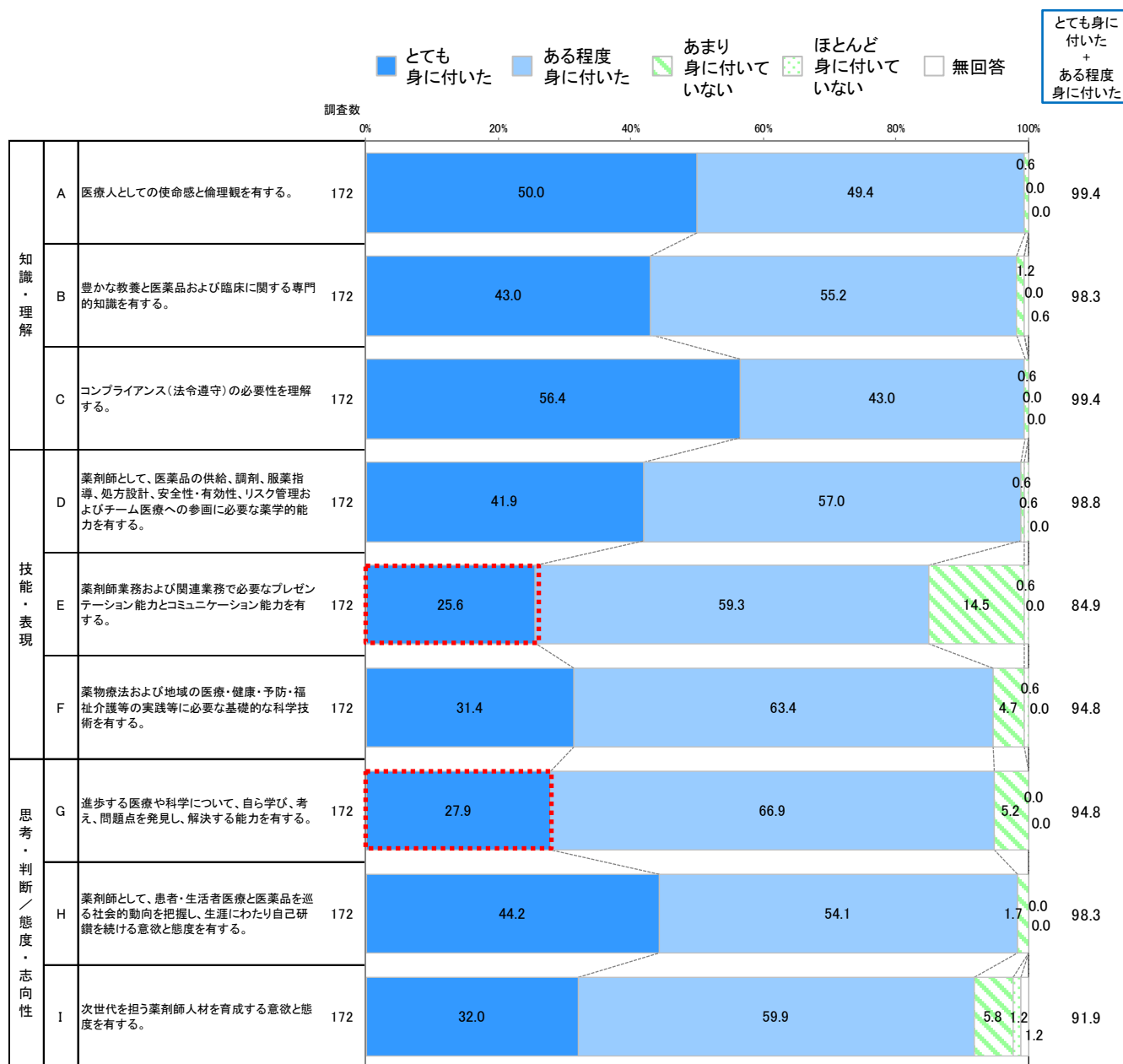
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



# 修得した能力【薬学部 薬学科】

- 修得度(TOP2計)は、8～9割と全体的にかなり高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「技能・表現 E」「思考・判断／態度・志向性 G」で、ともに2割台にとどまる。

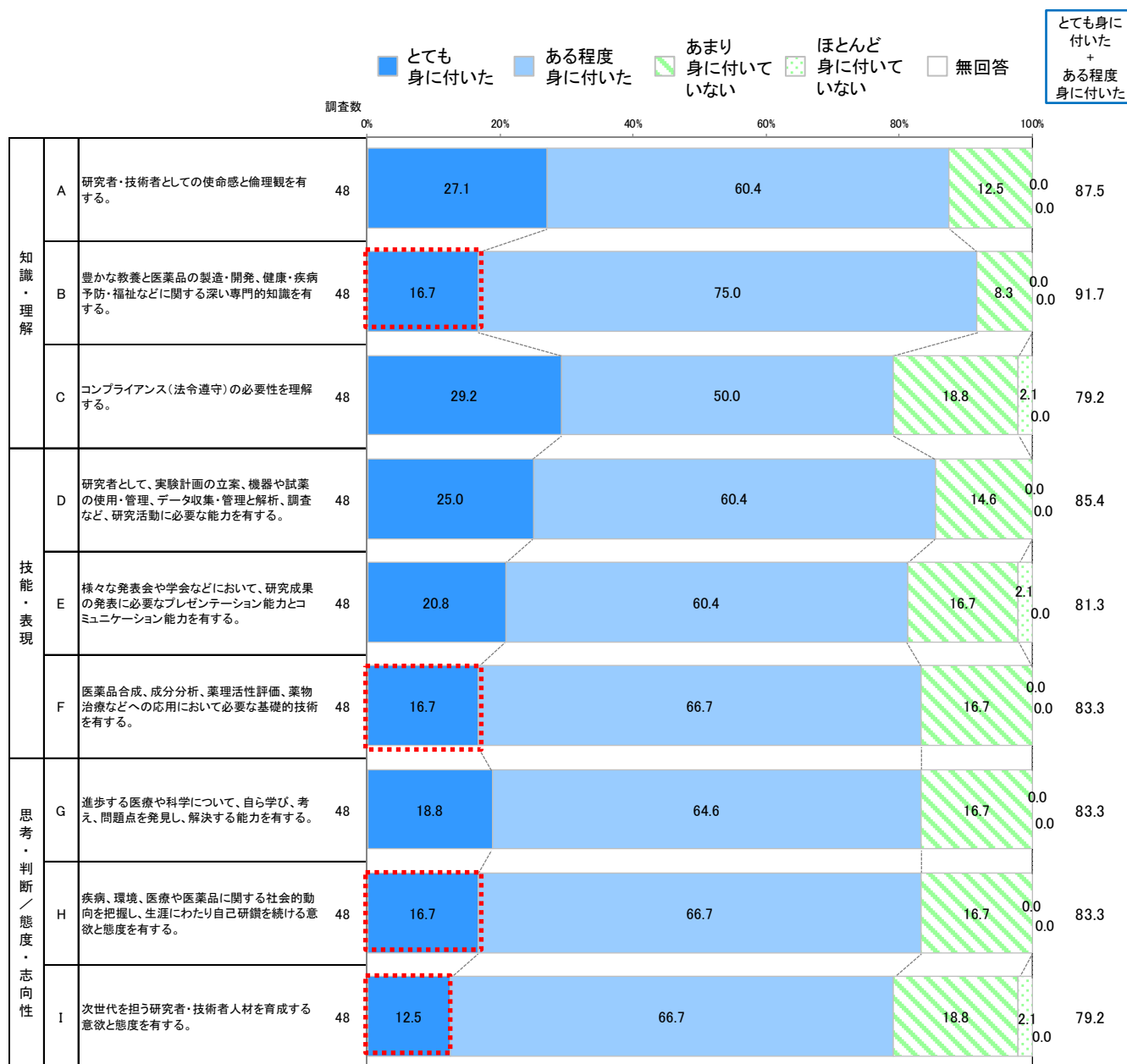
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。





- 修得度(TOP2計)は、7~9割と概ね高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「知識・理解 B」「技能・表現 F」「思考・判断／態度・志向性 H」「思考・判断／態度・志向性 I」で、いずれも1割台にとどまる。

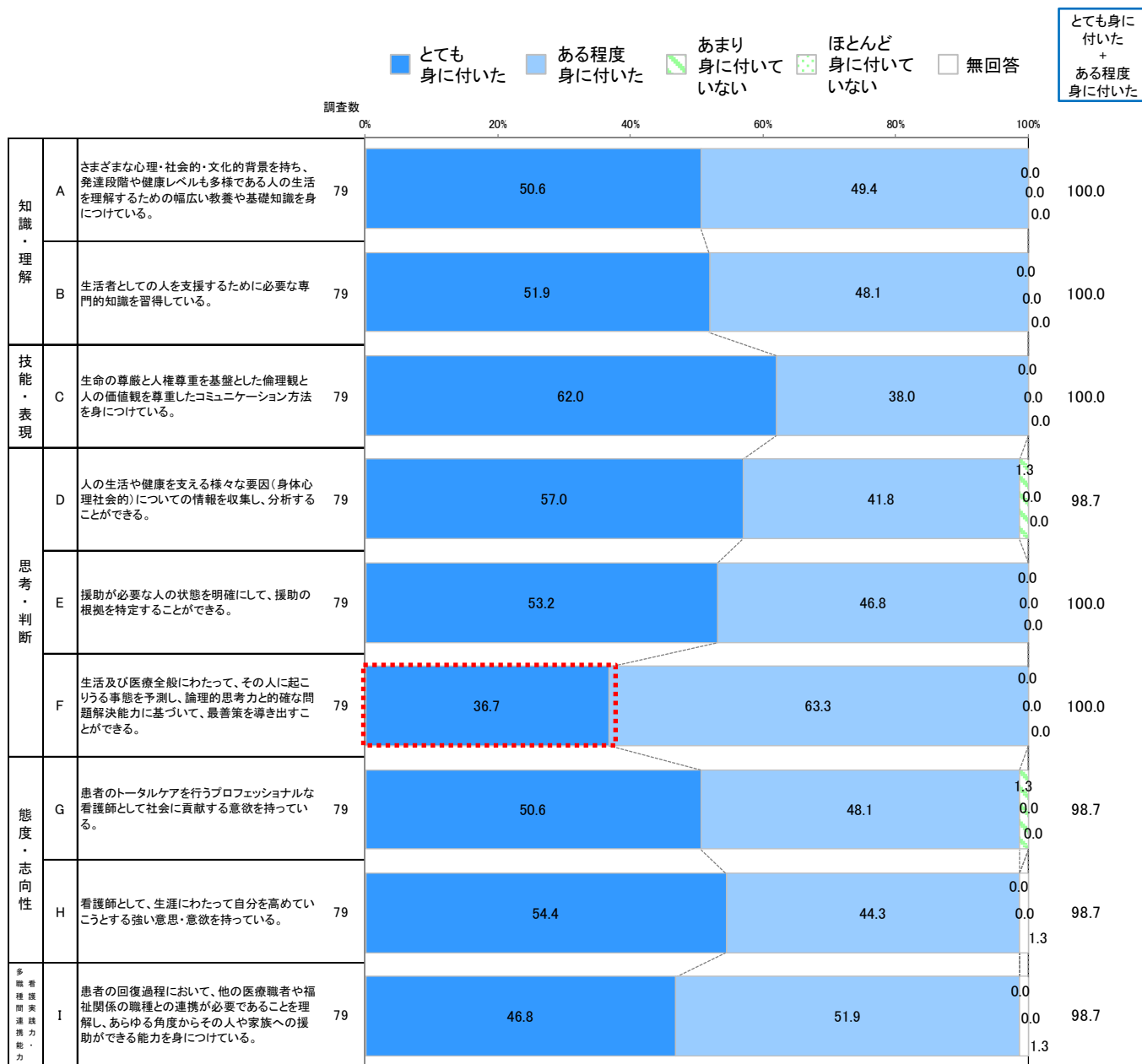
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



# 修得した能力【看護学部 看護学科】

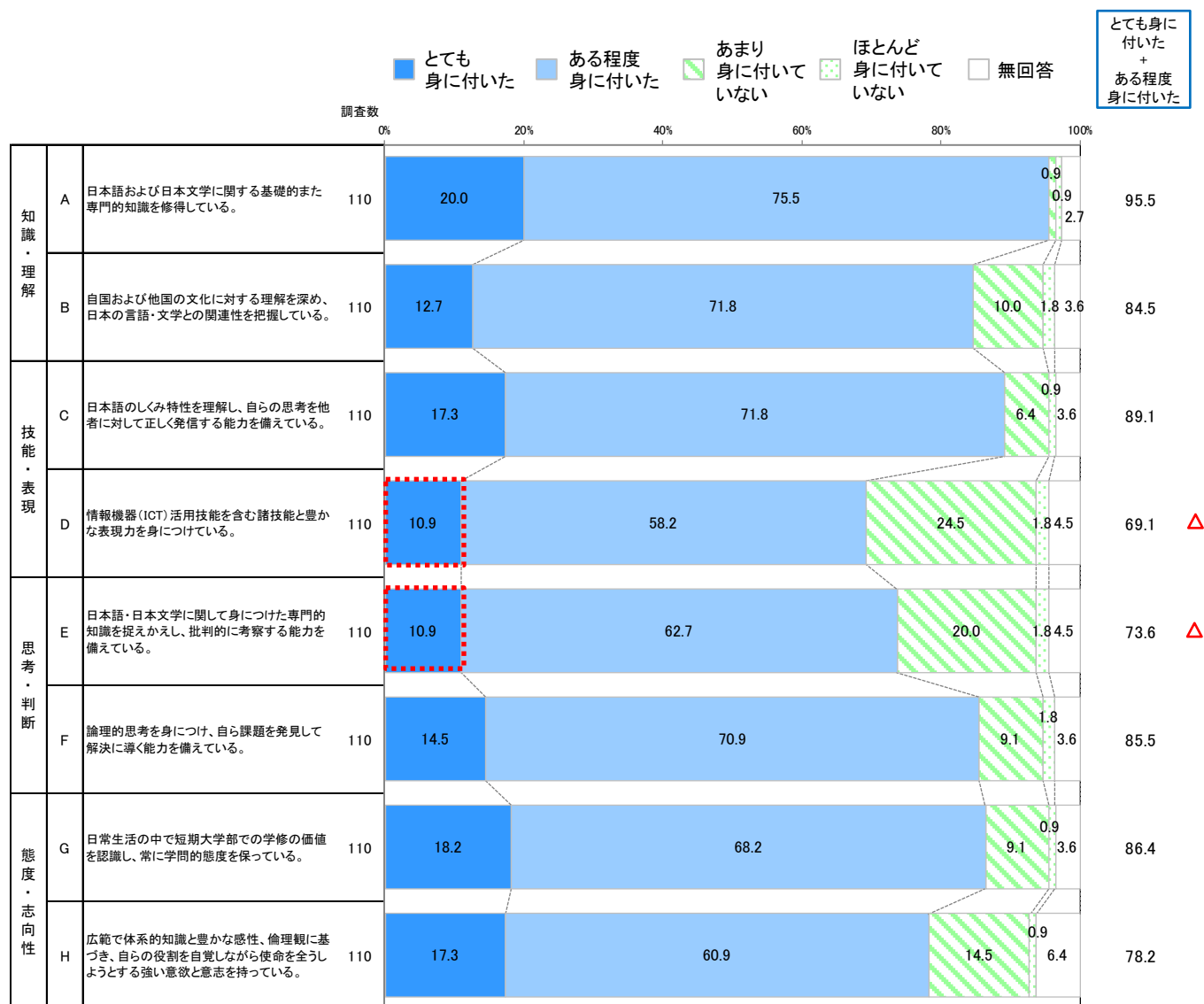
- 修得度(TOP2計)は、いずれの項目も9~10割とかなり高い。また、ほとんどの項目で、「とても身に付いた」(TOP1)が半数を超えている。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が最も低いのは、「思考・判断 F」で36.7%だが、他の学科の最低値と比べるとかなり高い。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



- 修得度(TOP2計)は、6～9割と、項目によってバラつきがある。(また、ディプロマ・ポリシー8項目の「とても身に付いた」(TOP1)の平均値は、短大全体74項目の平均値と比べて低い。※P8参照。)
- 「技能・表現 D」「思考・判断 E」の修得度(TOP2計)は、他の項目と比べるとやや低め。「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「技能・表現 D」「思考・判断 E」で、ともに10.9%にとどまる。

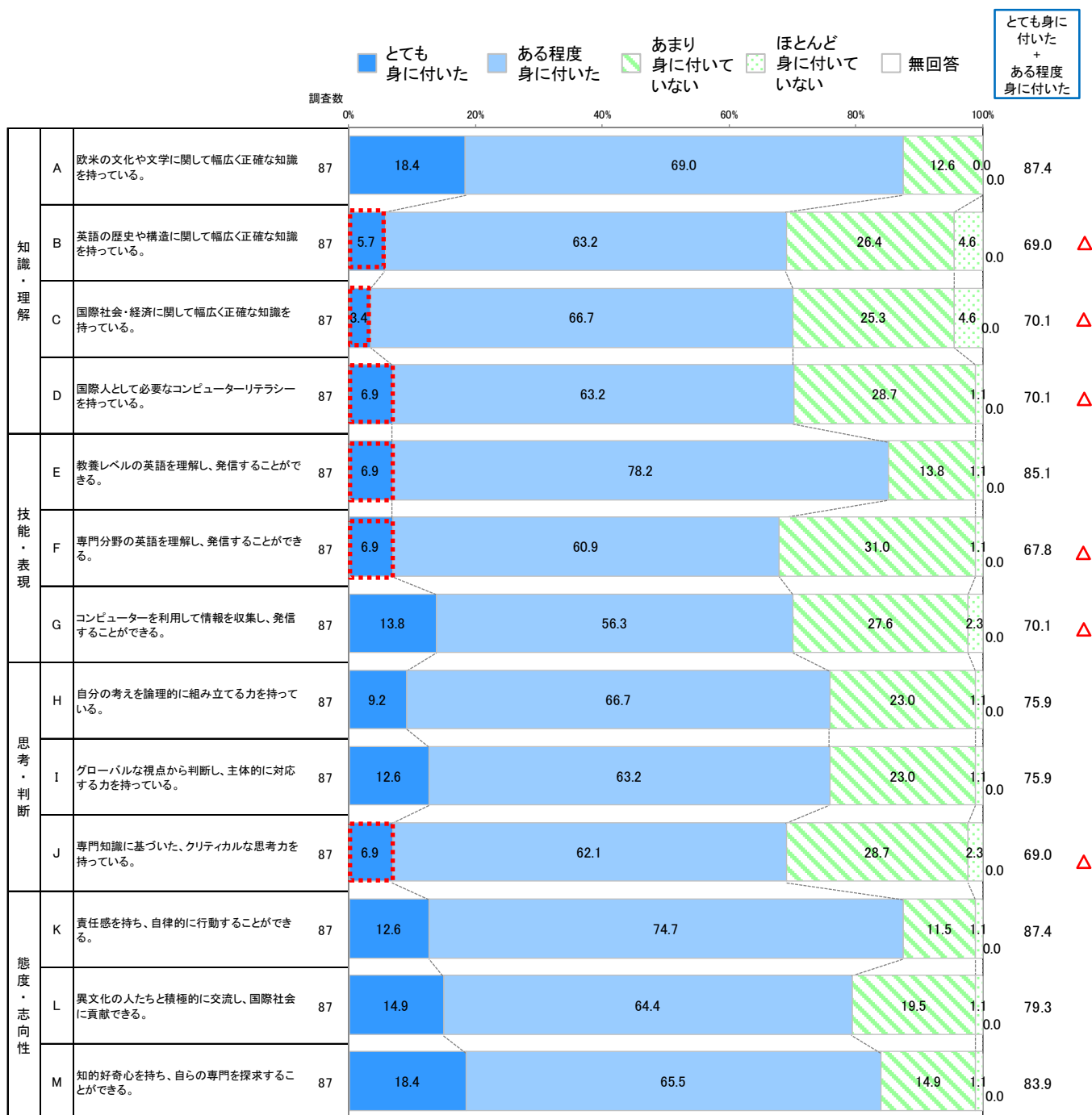
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



# 修得した能力【短期大学部 英語キャリア・コミュニケーション学科】

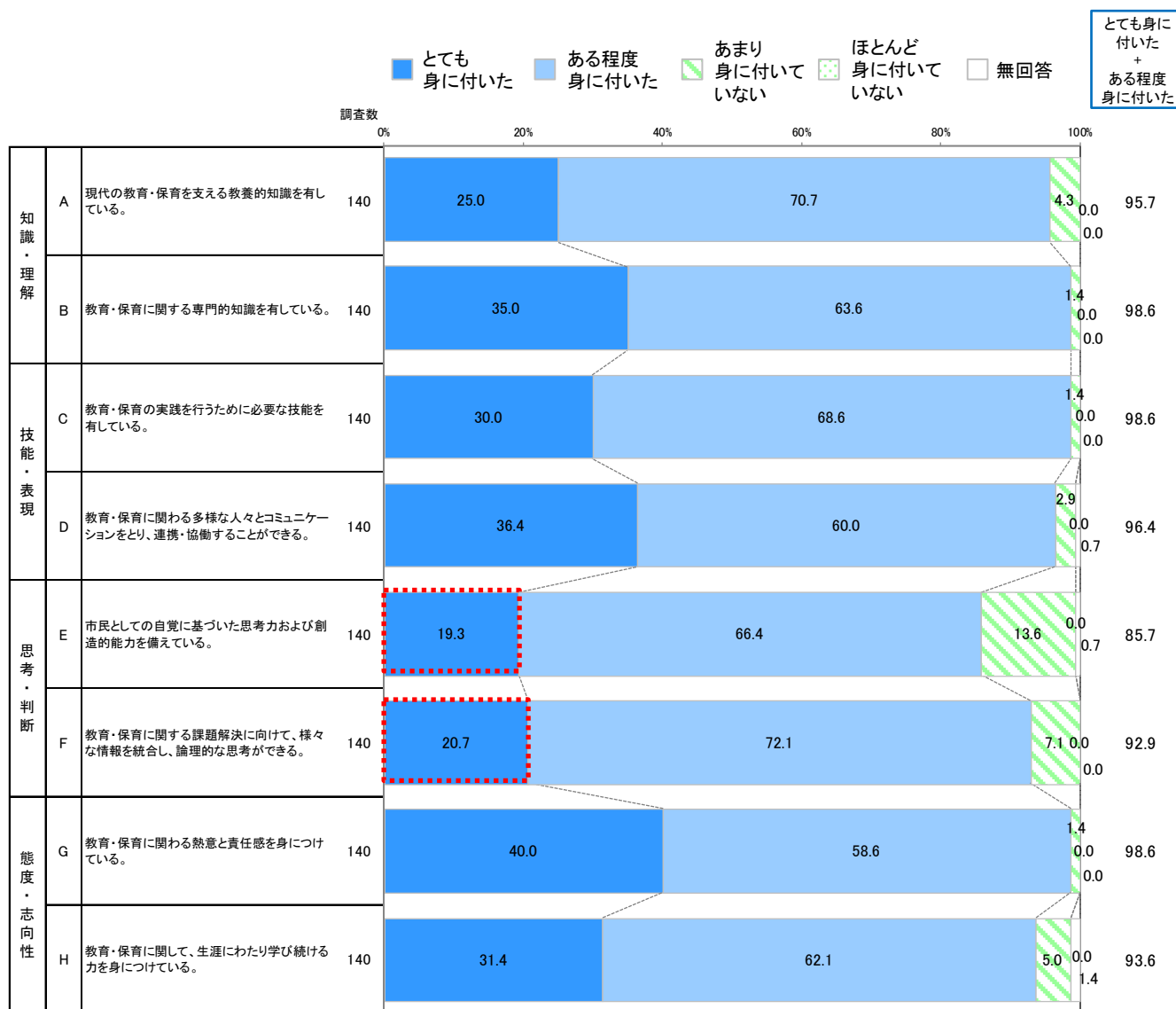
- 修得度(TOP2計)は、6～8割と、他の学科と比べると全体的に低め。(また、ディプロマ・ポリシー13項目の「とても身に付いた」(TOP1)の平均値とTOP2計の平均値は、短大全体74項目の平均値と比べて低い。※P8参照。)
- なかでも、「知識・理解 B」「知識・理解 C」「知識・理解 D」「技能・表現 F」「技能・表現 G」「思考・判断 J」は、いずれも修得度(TOP2計)が7割前後にとどまる。「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「知識・理解 B」「知識・理解 C」「知識・理解 D」「技能・表現 E」「技能・表現 F」「思考・判断 J」で、いずれも1割を下回る。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



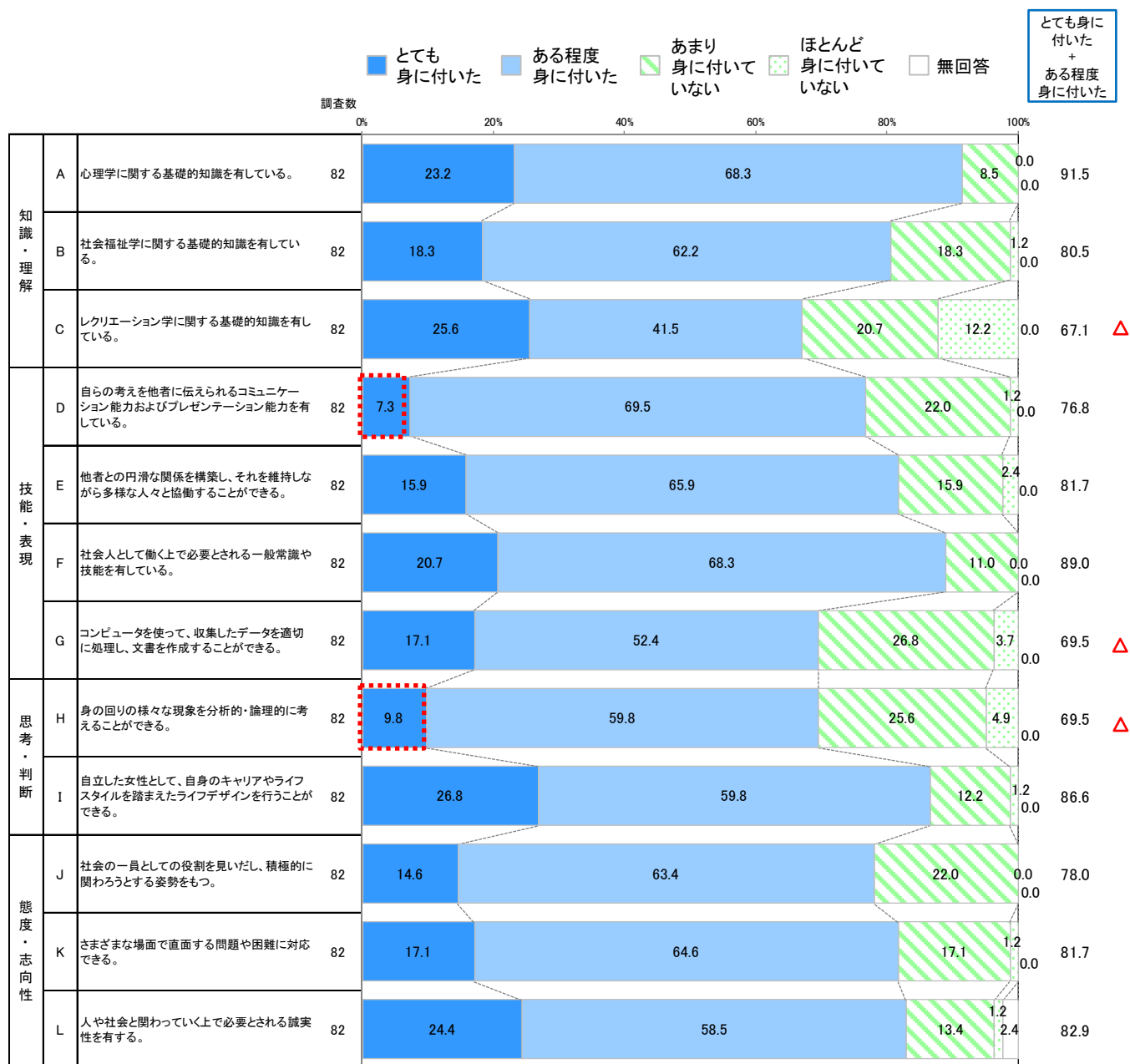
- 修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が比較的低いのは、「思考・判断 E」「思考・判断 F」で、ともに2割程度。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



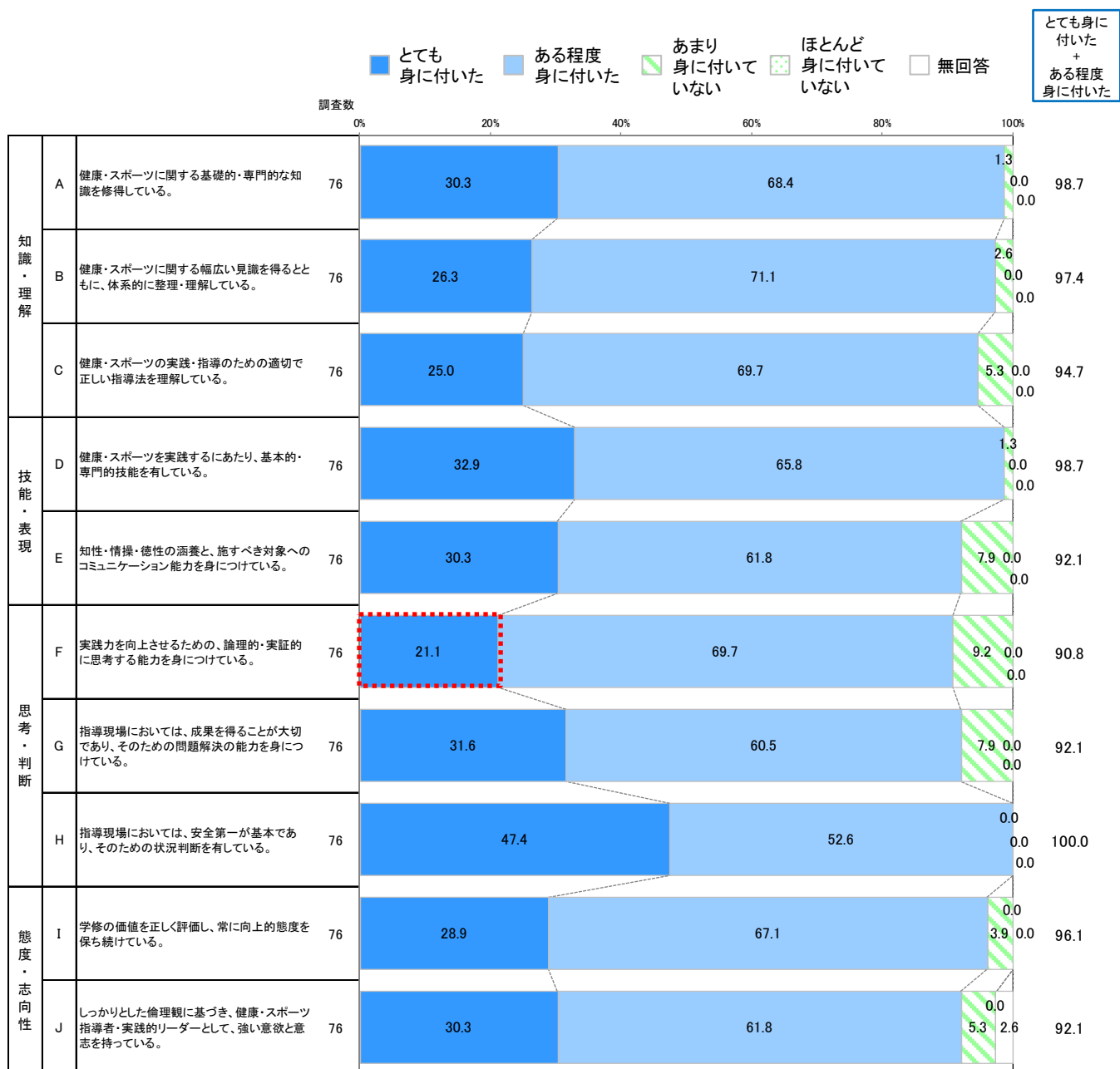
- 修得度(TOP2計)は、6～9割と、項目によってバラつきがある。(また、ディプロマ・ポリシー12項目の「とても身に付いた」(TOP1)の平均値とTOP2計の平均値は、短大全体74項目の平均値と比べて低い。※P8参照。)
- 修得度(TOP2計)が7割を切る項目は、「知識・理解 C」「技能・表現 G」「思考・判断 H」。「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「技能・表現 D」「思考・判断 H」で、ともに1割を下回る。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



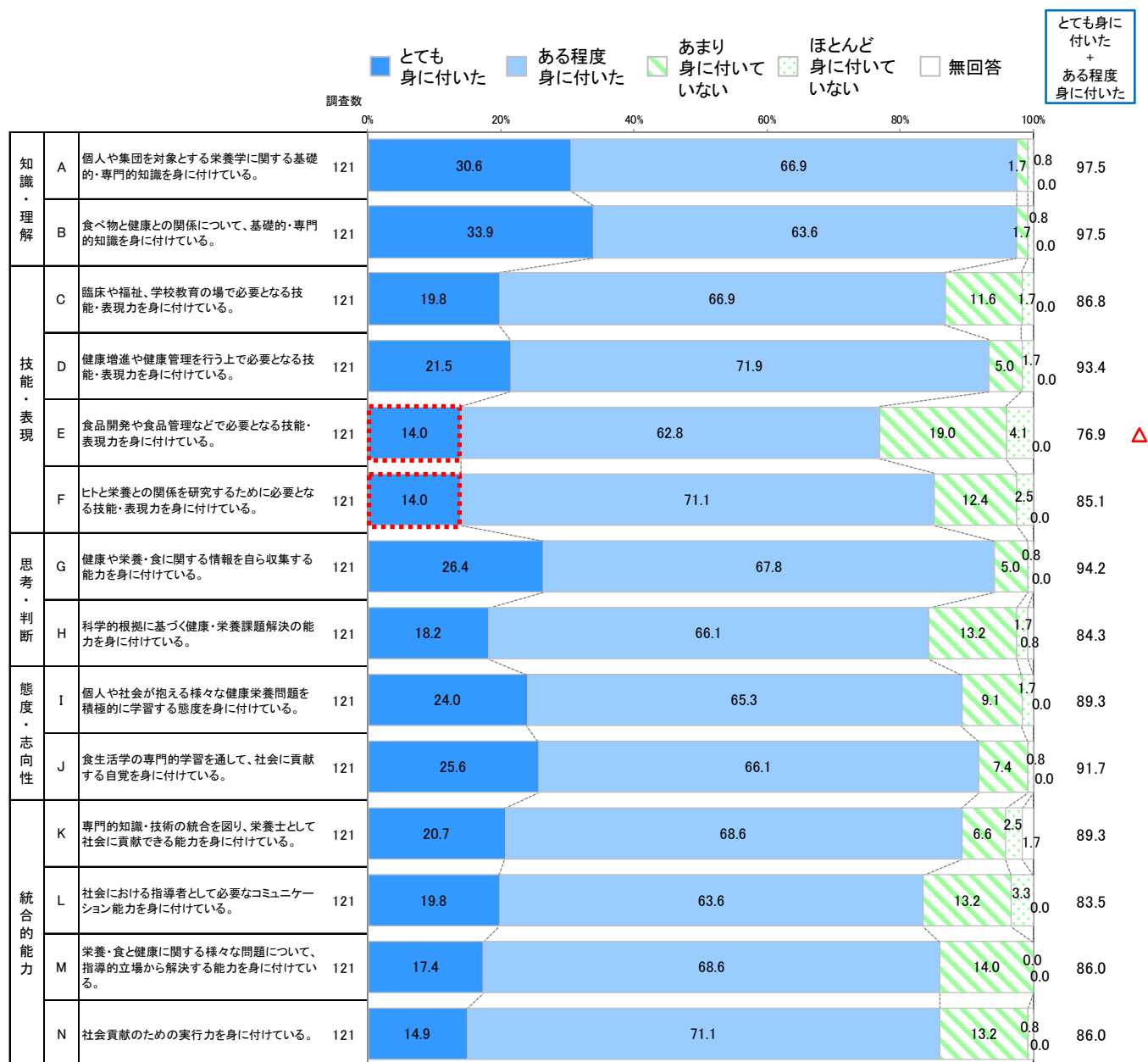
- 修得度(TOP2計)は、9~10割と全体的にかなり高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が最も低いのは、「思考・判断 F」で2割程度。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



- 修得度(TOP2計)は、7～9割と概ね高い。
- 「技能・表現 E」の修得度(TOP2計)は、他の項目と比べると、7割台とやや低め。「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「技能・表現 E」「技能・表現 F」で、ともに14.0%。

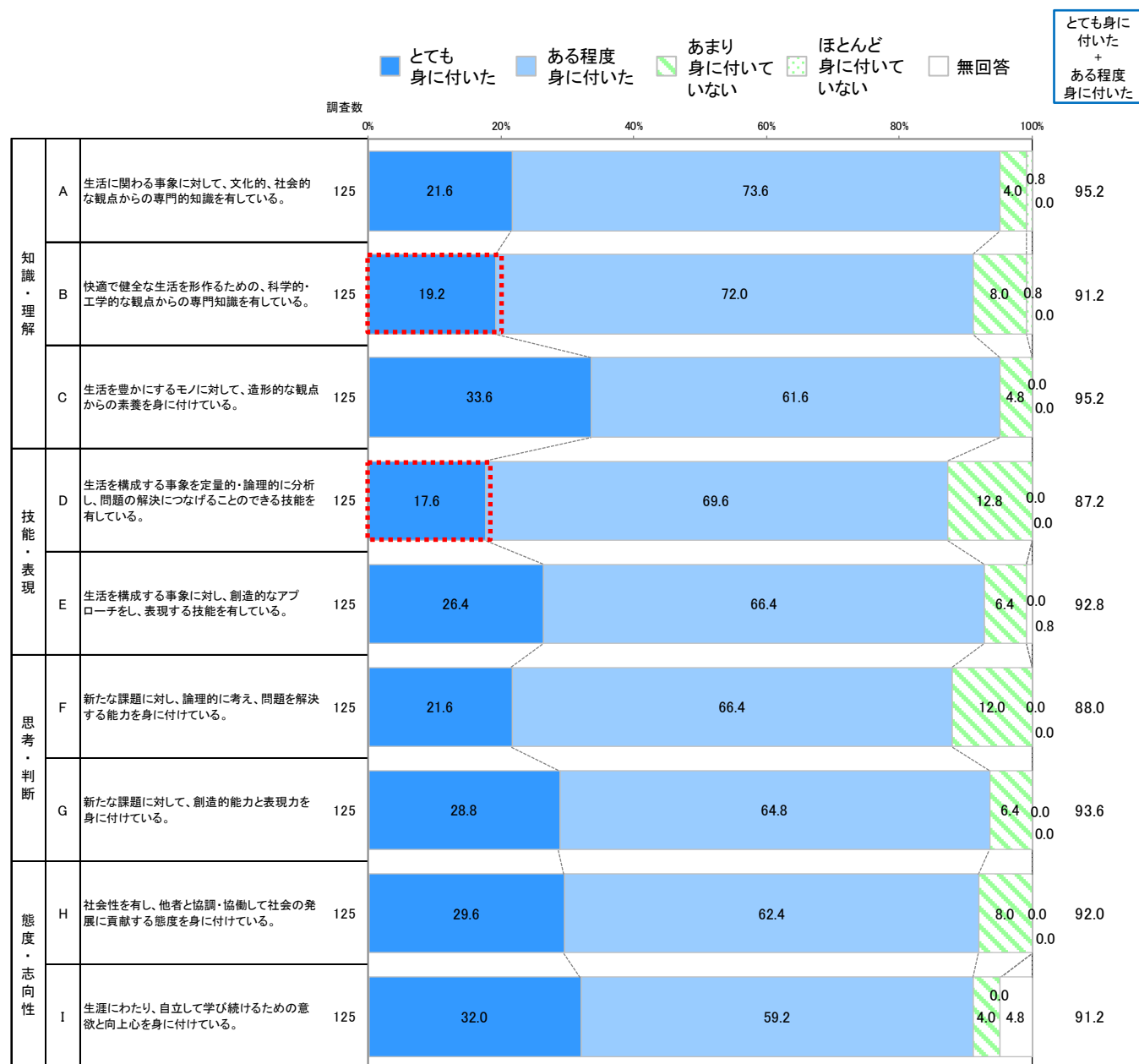
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。





- 修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。
- 「とても身に付いた」(TOP1)が低いのは、「知識・理解 B」「技能・表現 D」で、ともに1割台にとどまる。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



## 学科別サマリー

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は、大学全体とほぼ同等であり、約半数を占める。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、大学全体と同様、「今まで知らなかった」が約4割を占める。</li> <li>DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて5割強と、認知率は大学全体より高いが、「理解している」学生は5.0%と大学全体と同様に低い。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は大学全体と同様に非常に高く、95%以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は92.8%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は97.2%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「協働作業」「将来との関わりを感じる授業」「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、大学全体より15ポイント以上低い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、大学全体と比べて非常に低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」(BOTTOM2計)を合わせると8割弱を占める。</li> <li>「少人数の演習形式」の体験率も大学全体と比べて低いが、差は10ポイント以内にとどまる。「ディスカッション」や「発表」の体験率は大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「実務教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると非常に低い。特に「とてもあてはまる」(TOP1)は大学全体と比べて20ポイント以上低い。</li> <li>「共通教育」「専門教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」は大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、7～9割と概ね高い。</li> <li>同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「体系的知識を複数の異なる視点・国際的な観点から把握する」「大学における学修をプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上に役立たせることができる」「情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能・表現力を身に付けている」の3つ。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「体系的知識を複数の異なる視点・国際的な観点から把握する」「大学における学修をプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上に役立たせることができる」の修得度は実務教育の充実度と相関が強い。また、「情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能・表現力を身に付けている」は、情報リテラシー教育と実務教育の充実度と相関がある。※P80の相関係数参照
- 学科の学問特性上、座学も重要だが、実践型の学びの機会を増やし、その知識やスキルが社会でどのように応用できるのかという将来とのつながりを実感させることができると、上記DP項目の修得度上昇も期待できるのではない。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は、大学全体とほぼ同等であり、約半数を占める。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、大学全体と同様、「今まで知らなかった」が約4割を占める。</li> <li>DPも同様に、理解している人は5%以下と少なく、存在すら知らない学生は半数を超える。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、9割以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は93.7%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は94.7%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「協働作業」「将来との関わりを感じる授業」「教室外の活動」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10ポイント以上低い。なかでも、「教室外の活動」の体験率は大学内で最も低く、「あまりなかった」「ほとんどない」(BOTTOM2計)が8割以上を占める。</li> <li>「ディスカッション」や「少人数の演習」の体験率は大学全体より高い。「発表」の体験率は、大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「専門教育」の充実度は、TOP2で見ると大学全体と同程度だが、「とても当てはまる」(TOP1)は、大学全体より非常に低い。「外国語教育」は学科の特性上、大学全体より当然高いが、「とても当てはまる」(TOP1)は3割程度にとどまる。</li> <li>「共通教育」「実務教育」「情報リテラシー教育」は大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、4～9割とDP項目ごとのバラツキが大きい。</li> <li>同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が特に低いのは、「国際人としてのコンピューターリテラシー」や「ドイツ語・フランス語の理解・発信」。また、「とても身についた」(TOP1)でみると、「英語の歴史や構造への理解」「専門知識に基づくクリティカルな思考力」の修得度が低い。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「国際人としてのコンピューターリテラシー」の修得度は、情報リテラシー教育の充実度の他に、将来との関わりを感じられる授業、教室外の活動を行う授業の体験率と相関がある。また、「ドイツ語・フランス語の理解や発信」の修得度も、教室外の活動を行う授業の体験率と相関がある。※P81の相関係数参照
- 「英語の歴史や構造への理解」は、ディスカッションや少人数演習形式の体験率と相関があり、「専門知識に基づくクリティカルな思考力」は、将来との関わりを感じる授業の体験率および実務教育の充実度に強い相関を示す。※P81の相関係数参照
- 学科の学問特性上、座学も重要だが、実践的な学びや教室外での学びを多く取り入れ、自身の外国語力や国際性を社会で活かせるイメージを持たせられると、上記DP項目の修得度上昇も期待できるのではないかと。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は、大学全体とほぼ同等であり、約半数を占める。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせると6割を超え、大学全体より高い。「今まで知らなかった」は大学全体より低い。</li> <li>DPは、「理解している」「聞いたことがある」割合が全体の半数程度で大学全体より高いが、「ほとんど知らない」学生は4割近くいる。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、全体の100%近くが満足している。「満足している」(TOP1)の割合は6割を超える。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は93.9%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は99.6%と、同様に高い。特に「そう思う」(TOP1)の割合が85.5%と非常に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの項目も体験率(TOP2計)が高く、大学全体と比べても高い。</li> <li>特に、「ディスカッション」「発表」「教室外の活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率が大学全体と比べて非常に高い。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共通教育」「専門教育」「実務教育」は、「とても当てはまる」(TOP1)が大学全体より10ポイント以上高く、充実度(TOP2計)も9割を超えている。</li> <li>「外国語教育」「情報リテラシー教育」は大学全体とほぼ同等。微々たる差ではあるが、「情報リテラシー教育」は大学全体より充実度が低い。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、7～9割と概ね高い。</li> <li>同学科の他のDPに比べて「とても身についた」(TOP1)の修得度が低いのは、「国際的視野に基づいた批判的思考力及び創造的能力」と「教育・保育に関する課題解決に向けた判断力」であり、いずれも2割以下にとどまる。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「国際的視野に基づいた批判的思考力及び創造的能力」は、外国語教育や情報リテラシー教育の充実度と相関が強い。また、「教育・保育に関する課題解決に向けた判断力」は、専門教育と実務教育に相関がある。※P82の相関係数参照
- 満足度やDPの修得度が全体的に特に高い学科ゆえに、専門分野だけではなく、外国語教育や情報リテラシー教育の充実度をさらに向上させたい。自身の外国語力や情報リテラシー力が、実際の教育や保育の現場でどう活かせるのかを実践的な学びで示すことも有効であると考え。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は45.5%と、大学全体より5ポイント以上低い。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学全体とほぼ同等だが、立学の精神を「今まで知らなかった」学生は、約半数を占める。</li> <li>DPも同様に、半数以上の学生がほとんど存在を知らないまま卒業を迎えている。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、95%以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は93.5%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は96.1%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「ディスカッション」の体験率(TOP2計)は、大学全体よりも高い。しかし、「発表」「教室外の活動」の体験率は大学全体より10ポイント以上低い。特に、「教室外の活動」の体験率は大学全体よりも非常に低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」(BOTTOM2計)で7割を占める。</li> <li>「将来との関わりを感じる授業」も大学全体と比べて低いが差は10ポイント以内にとどまる。「協働作業」「少人数の演習形式」の体験率は、大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの項目の充実度(TOP2計)も、大学全体とほぼ同等。ただし、「実務教育」に関しては、「とても当てはまる」(TOP1)は26.0%と、全体傾向よりも10ポイント以上低い。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、4～9割とDP項目ごとのバラつきが大きい。</li> <li>他のDP項目と比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識」「社会福祉学に関する知識」「科学的な視点に基づき、専門的知識を統合して課題を解決できる能力」「様々な課題の解決に社会福祉学の知識を統合して活用する力」で7割を切っている。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「社会福祉学に関する知識」「様々な課題の解決に社会福祉学の知識を統合して活用する力」は、ディスカッション、協働作業、教室外の活動、少人数の演習形式を取り入れた授業や、将来との関わりを感じる授業等の体験率と相関が強い。また、実務教育の充実度とも相関が強い。※P83の相関係数参照
- 「レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識」「科学的な視点に基づき、専門的知識を統合して課題を解決できる能力」は、専門教育、実務教育、情報リテラシー教育の充実度と相関がある。※P83の相関係数参照
- 社会福祉学の知識や、それを課題解決に活用する力は、各授業においてアクティブラーニングの要素をより多く取り入れたり、社会福祉の現場で実践的な学びを経験したりすることで、修得度の上昇が期待できるのではないかと考える。また、レクリエーション学の知識や、それを含む専門知識を統合して課題解決できる能力の向上には、専門教育以外にも、実践的な学びやコンピューターを活用した教育システムの充実も必要ではないかと考える。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は68.0%と、大学全体より15ポイント以上高い。よって、「第二志望」「第三志望以下」という志望度の低い層が少ない。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>他学科に比べて立学の精神を「在学中に知った」割合は45.1%と高いが、「今まで知らなかった」学生も4割弱存在する。</li> <li>一方、DPを理解している割合は1%を切っており、「ほとんど知らない」は大学全体に比べて非常に高く、6割を超えている。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、95%以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は92.6%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は93.4%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「教室外の活動」の体験率(TOP2計)のみ、大学全体より高い。</li> <li>「協働作業」の体験率は、大学全体より10ポイント以上低い。</li> <li>「ディスカッション」の体験率も大学全体より低いが、差は10ポイント以内にとどまる。「発表」「少数数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」の体験率は、大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「実務教育」の充実度(TOP2計)は大学全体より高く、特に「とても当てはまる」(TOP1)は10ポイント近く上回っている。</li> <li>「情報リテラシー教育」の充実度は大学全体より低いが、差は10ポイント以内にとどまる。「共通教育」「専門教育」「外国語教育」の充実度は大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。修得度が最も低い「指導現場において成果を得るための問題解決能力」「健康・スポーツ指導者・実践的リーダーの強い意欲と意思」でさえ、修得度は86.1%に達する。</li> <li>その他、「とても身に付いた」(TOP1)が他のDPと比べて低い項目は、「健康・スポーツに関する幅広い見識と体系的な理解」「論理的・実証的に思考する能力」の2つである。</li> </ul>
教育成果を向上させるアイデア	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「健康・スポーツに関する幅広い見識と体系的な理解」「論理的・実証的に思考する能力」は特に、将来との関わりを感じる授業の体験率、および実務教育の充実度と相関が強い。※P84の相関係数参照</li> <li>当学科は、座学に留まらず、教室外で活動する実験・実習などの学びの機会も多い。その学びが、将来、社会でどのように活かせるのかを実感として理解できるような、実務教育のさらなる充実が学生の成長につながるのではないかと考える。</li> </ul>	

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は65.4%と大学全体より10ポイント以上高い。よって、「第二志望」「第三志望以下」という志望度の低い層が少ない。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>志望度の高い学生が多い一方で、立学の精神は「在学中に知った」割合が全学科の中で最も低く、「今まで知らなかった」学生が約6割と非常に多い。</li> <li>DPの理解・認知度は大学全体とほぼ同等で、卒業まで「ほとんど知らない」学生は約半数を占める。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、9割以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は91.2%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は93.4%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において、「ディスカッション」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は特に低く、「よくあった」(TOP1)でも1割を下回る。「教室外の活動」の体験率も大学全体より低いが、差は10ポイント以内。</li> <li>「協働作業」の体験率は、大学全体より5ポイント以上高い。「発表」「将来との関わりを感じる授業」の体験率は、大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は、大学全体より10ポイント以上低い。</li> <li>「専門教育」の充実度は大学全体並みであるが、「とても当てはまる」(TOP1)は大学全体より10ポイント以上低い。</li> <li>「共通教育」「実務教育」「外国語教育」は大学全体とほぼ同等。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、7～9割と概ね高い。</li> <li>同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「生活環境を構成する事象を分析し、問題解決につなげることのできる技能」「科学的・工学的観点からの専門知識」の2つである。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「生活環境を構成する事象を分析し、問題解決につなげることのできる技能」「科学的・工学的観点からの専門知識」に共通して相関が強いのは、ディスカッションを取り入れた授業の体験率。※P85の相関係数参照
- 協働作業を伴う授業が多い一方で、学生のディスカッション経験への実感度は低い。実習のなかで、他者と議論する機会や時間をより多く取り入れることで、専門知識のより深い修得と学んだ知識を問題解決に活かせる技能の向上が期待できるのではないか。



学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は59.9%と大学全体より5ポイント以上高い。よって、「第二志望」「第三志望以下」という志望度の低い層が少ない。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>志望度が高い学生が多い一方で、立学の精神は、「今まで知らなかった」学生が6割近くに達する。</li> <li>同様に、DPの理解・認知も低く、理解している学生は3.5%にすぎない。「ほとんど知らない」が6割近くを占める。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、95%以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は92.6%と、同様に高い</li> <li>総合満足度(TOP2計)は97.5%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における学びの体験率(TOP2計)は、全ての項目が大学全体より高い。</li> <li>特に「教室外の活動」「少人数の演習形式」の体験率は、全体よりかなり高く、「よくあった」(TOP1)はいずれも4割を超える。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は100%に近く、「とても当てはまる」(TOP1)も50%を超えている。</li> <li>「共通教育」の充実度は大学全体とほぼ同様だが、「とても当てはまる」(TOP1)は全体よりも10ポイント以上低い。</li> <li>「外国語教育」「情報リテラシー」の充実度は、大学全体より低い、差は10ポイント以内。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。</li> <li>同学科の全DPを比べると、「社会貢献のための実行力」の修得度がやや低く、「とても身に付いた」(TOP1)は25%を切っている。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 総合的能力である「社会貢献のための実行力」は、共通教育、専門教育、実務教育の充実度と相関が強く、特に実務教育との相関係数が高い。※P86の相関係数参照
- 共通教育で身に付く幅広い教養が、社会における食物栄養分野とどう関連していて、どう活かせるのかを学生に意識させることで学びへの意欲を高め、より深い修得度につながると考える。また、立学の精神、DPの浸透度が低いため、1人でも多くの学生の理解を促すことが重要である。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は、大学全体とほぼ同等であり、約半数を占める。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神も大学全体とほぼ同様に、「今まで知らなかった」学生が半数を占める。</li> <li>DPは、「なんとなく聞いたことがある」学生は大学全体より多いが、理解している学生は大学全体同様に5%程度。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、9割以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は92.4%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は93.7%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における学びの体験率(TOP2計)は、全ての項目が大学全体より低い。「教室外の活動」の体験率は2割強、「少人数の演習形式」の体験率は5割弱と、学びの機会が不足している様子がうかがえる。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報リテラシー教育の充実度(TOP2計)は、大学全体と比べて非常に高く9割を超える。しかし、「実務教育」の充実度は大学全体より10ポイント以上低く、「とても当てはまる」(TOP1)が2割を下回っている。</li> <li>「共通教育」「専門教育」「外国語教育」の充実度は、大学全体とほぼ同等で大きな差はない。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、いずれの項目も8割台と高く、バラツキもない。</li> <li>「とても身に付いた」(TOP1)に着目して全DPを比べると、「情報を的確に捉え、変化するライフ・ステージに適応できる態度」「生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心」の2項目が、他のDPIに比べてやや低い。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「情報を的確に捉え、変化するライフ・ステージに適応できる態度」は、ディスカッションや発表、教室外の活動、少人数の演習形式を取り入れた授業の体験率と相関が強い。「生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心」は、共通教育、情報リテラシー教育の充実度と相関が強い。※P87の相関係数参照
- 学科の学問特性上、座学やコンピューターを用いた演習科目が重要となるが、変化する社会のなかで、情報という専門技術を活かしキャリアを築く力を修得するには、授業における多様な学びの機会を増やしていくことも必要だと考える。また、情報リテラシー教育の充実度が高いにも関わらず、実務教育の充実度は大学全体より低い。身につけたコンピュータースキルを社会、および課題解決にどう活かせるのかを学生に強く意識させることも有効ではないか。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は40.0%と、大学全体より10ポイント以上低い。「第三志望以下」の志望度の低い層が3割半ばを占めており、全学科の中で最も多い。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神を「在学中に知った」割合が半数近くを占める。また、「今まで知らなかった」学生は3割程度で、大学全体より少ない。</li> <li>DPを「理解している」割合は、全ての学科の中で最も高く16%程度。「ほとんど知らない」学生も、全学科の中で最も低く、2割にとどまる。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度は、大学全体と同様に非常に高く、9割以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は93.3%と、同様に高い</li> <li>総合満足度(TOP2計)は93.3%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における学びの体験率(TOP2計)は、いずれの項目も全体的に高い。</li> <li>大学全体の体験率がそもそも90%と高い「協働作業」以外は、どの項目も大学全体より10ポイント以上高い。特に、「発表」「教室外の活動」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」の体験率は、100%もしくは100%近くと非常に高く、「よくあった」(TOP1)の割合も75%以上で、多くの学生が多様な学びの機会を得ていた様子がうかがえる。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「専門教育」「実務教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は大学全体より高く、特に「専門教育」「実務教育」は、「とてもよく当てはまる」(TOP1)も非常に高く、いずれも7割を超えている。</li> <li>「共通教育」「外国語教育」の充実度は大学全体より10ポイント以上低い。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。特に、「基礎的造形能力」の修得度(TOP2計)は100%に達している。</li> <li>「とても身に付いた」(TOP1)に着目して全DPを比べると、「語学や諸学の基礎学力の習得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力」が他のDPに比べてやや低く、「とても身に付いた」(TOP1)の修得度は2割にとどまる。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「語学や諸学の基礎学力の習得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力」の修得度は、外国語教育、情報リテラシー教育の充実度と相関がある。※P88の相関係数参照
- 入学時の志望度は低い、「学修目標」は他学科と比べて浸透しており、DPの達成度も非常に高い。授業における多様な学びの機会が提供されており、専門分野の実務教育に対する評価は高い。今後さらに、語学や共通教育に当たる教養分野の充実度を高めたい。建築という専門分野で、語学を含めた幅広い教養がどう役立つかを意識させ、学びへの意欲を高めることが有効ではないか。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は45.0%と、大学全体より5ポイント以上低い。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、「入学前から知っていた」が25.0%、「在学中に知った」が50.0%と、合わせて75.0%が認知しており、全学科の中で最も高い。</li> <li>一方、DPの認知・理解度は大学全体とあまり差は見られず、「ほとんど知らなかった」学生も約4割存在する。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、95.0%の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)も85.0%と、同様に高いが、大学全体よりは低い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は、95.0%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「発表」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は95%以上と非常に高い。「よくあった」(TOP1)の割合も高く、半数程度の学生がこれらの学びの機会を得たと強く感じている。</li> <li>一方、「教室外の活動」の体験率は4割と低い。</li> <li>「ディスカッション」「協働作業」の体験率は、大学全体と比べて大きな差はない。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共通教育」「実務教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)はいずれも高く、「とてもよく当てはまる」(TOP1)も大学全体より高い。特に「共通教育」の充実度は100%で、そのうち過半数の学生が「とても当てはまる」(TOP1)と回答している。</li> <li>「専門教育」の充実度は、大学全体と比べると低いが大きな差はない。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、8~10割と全体的にかなり高い。「専門実技の技術面、芸術性における高い能力、音楽関係者や社会と関わる上で必要なコミュニケーション能力」の修得度は100%。</li> <li>同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「音楽に携わる上で必要な語学力」である。</li> </ul>
教育成果を向上させるアイデア	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「音楽に携わる上で必要な語学力」は、ディスカッションを取り入れた授業の体験率、および専門教育、実務教育の充実度と相関が強い※P89の相関係数参照(参考値扱い)</li> <li>全体的にDPの修得度は高いため、その中では低めの「音楽に携わる上で必要な語学力」の修得度を高めたい。DPが示す「学修目標」を学生に認識・意識させ、自主的な学びを促進することが有効だと考える。</li> </ul>	

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は70.0%と、大学全体より15ポイント以上高い。よって、「第二志望」「第三志望以下」という志望度の低い層が少ない。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、「入学前から知っていた」学生は5%だが、「在学中に知った」学生が半数を占める。</li> <li>DPを「理解していた」「聞いたことがある」学生は合わせて3割と、認知度は低い。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度、総合満足度のTOP2計は100%。それぞれ「満足している」および「そう思う」のTOP1が8割を超えており、高い満足感を得ている学生が多い様子。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は95.0%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「協働作業」「教室外の活動」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10ポイント以上高く、特に、「協働作業」「少人数の演習形式」の体験率は、「よくあった」(TOP1)も7割以上と非常に高い。</li> <li>「ディスカッション」「発表」の体験率は大学全体と比べて大きな差はない。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実度(TOP2計)は全体的に高い。</li> <li>「専門教育」「実務教育」の充実度は100%で、「とても当てはまる」(TOP1)も7割を超える。「共通教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」も充実度は高く、また大学全体と比べて「とても当てはまる」(TOP1)も高い。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、2～10割とDP項目ごとに非常にバラつきが大きい。</li> <li>「情報を収集・分析し、音楽に基づく解決策を提案」「人および広く社会全般への興味・関心」「音楽と社会をつなぐ上でのコミュニケーション能力」の修得度(TOP2計)は100%。</li> <li>一方、「海外の論文や文献研究に必要な語学力」「音楽産業の中での企画、運営能力」の修得度は、2～4割とかなり低い。特に「海外の論文や文献研究に必要な語学力」に至っては、「とても身に付いた」(TOP1)の割合が0%。</li> </ul>

## 教育成果を向上させるアイデア

- 「海外の論文や文献研究に必要な語学力」は、ディスカッション、発表、教室外の活動の体験率、および実務教育の充実度と相関があり、特に発表を取り入れた授業と強い相関がある。また、「音楽産業の中での企画、運営能力」は、外国語教育、情報リテラシー教育の充実度と相関がある。※P90の相関係数参照(参考値扱い)
- 演奏学科と同様に、「語学力」の修得度が低く、DPを達成するうえでは語学力の強化が必要。また、DPが示す「学修目標」を学生に認識・意識させ、自主的な学びを促進することが有効だと考える。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は40.7%と、大学全体より10ポイント以上低い。「第三志望以下」の割合は高く、3割を超えている。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、大学全体と同様、「今まで知らなかった」が約4割を占める。</li> <li>DPは、卒業まで「ほとんど知らなかった」学生が6割強で大学全体より高く、認知度は低い。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は大学全体と同様に非常に高く、95%以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は97.7%と、同様に高く、ほとんどの学生が進路にも満足している。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は95.9%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「協働作業」「教室外の活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、大学全体より高く、特に「教室外の活動」「将来との関わりを感じる授業」は10ポイント以上高い。</li> <li>対して、「ディスカッション」「発表」「少人数の演習形式」の体験率は、<u>大学全体と比べて10ポイント以上低く、「よくあった」(TOP1)もそれぞれ1割程度。</u></li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共通教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は大学全体より低く、特に「外国語教育」「情報リテラシー教育」は10ポイント以上低い。</li> <li>「専門教育」「実務教育」の充実度は全体より高いが、差は10ポイント以内。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。</li> <li>同学科の全DPのうち最も修得度が低い項目は、「<u>薬剤師業務等で必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力</u>」であり、修得度は唯一の8割台。「とても身に付いた」(TOP1)の修得度も2割台にとどまる。</li> </ul>
教育成果を向上させるアイデア	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「<u>薬剤師業務等で必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力</u>」は、ディスカッション、発表、少人数での演習形式を取り入れた授業の体験率、および専門教育、実務教育、情報リテラシー教育の充実度と相関がある。※P91の相関係数参照</li> <li><b>修得度の低いDPと相関が高く、かつ他学科と比べて学びの体験率が低い「ディスカッション」「発表」「少人数の演習形式」の機会を各授業で増やしていくことが有効ではないか。他者と話し合い、議論することが、専門知識に対するより深い修得を促すと考える。</b></li> </ul>	

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は、大学全体とほぼ同等であり、約半数を占める。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、大学全体と同様、「今まで知らなかった」が約4割を占める。</li> <li>DPを「内容を理解している」は大学全体同様に5%未満だが、「なんとなく聞いたことがある」は半数近くに達しており、卒業まで「ほとんど知らなかった」学生は、大学全体より少ない。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、9割以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は97.9%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は95.8%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における学びの体験率(TOP2計)は、大学全体より低い項目が多い。<u>全体と比べて10ポイント以上低い項目は、「ディスカッション」「発表」「教室外の活動」「少人数の演習形式」。</u>特に、「ディスカッション」「少人数の演習形式」の体験率は、20ポイント以上低い。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は、大学全体と比べて15ポイント以上低い。</u></li> <li>「共通教育」「専門教育」「実務教育」の充実度も大学全体と比べて低いが大きな差はない。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は7～9割と概ね高く、極端に修得度が低い項目はない。</li> <li><u>同学科の全DPのうち最も修得度が低い項目は、「次世代を担う研究者・技術者人材を育成する意欲と態度」であり、修得度(TOP2計)、「とても身に付いた」(TOPI)ともに最も低い。</u></li> </ul>
教育成果を向上させるアイデア	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「次世代を担う研究者・技術者人材を育成する意欲と態度」の修得度は、特に実務教育の充実度と相関が強い。 ※P92の相関係数参照</li> <li>実践的な学びの中で、他学科と比べて学びの体験率が低い「ディスカッション」「教室外の活動」「少人数の演習形式」の機会を多く取り入れることが、修得度上昇に有効ではないかと考える。</li> </ul>	

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は25.3%と、大学全体より25ポイント以上低く、また、全学科の中で最も低い。「第三志望以下」の割合は高く、3割半ばを占めている。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、大学全体と同様、「今まで知らなかった」が約4割を占める。</li> <li>DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」割合を合わせて5割程度と認知率は大学全体より高いが、それでも「理解している」学生は8.9%しかいない。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度、進路満足度、総合満足度(TOP2計)は、いずれも100%。「満足している」(TOP1)も、8~9割と非常に高く、ほぼ全ての学生が強い満足感を得ている。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における学びの体験率は、全ての項目において、TOP2計、TOP1ともに大学全体より高い。</li> <li>「ディスカッション」「協働作業」「発表」「教室外の活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率は98.7~100%の範囲で非常に高い。「少人数の演習形式」の体験率は78.5%だが、大学全体と比べて15ポイント以上も高く、多くの学生が多様な学びの機会を得ていた様子がうかがえる。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共通教育」「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は、いずれも9割以上と高く、「とても当てはまる」(TOP1)の割合も6~8割程度あり、学生が深い充実感を得ていた様子がうかがえる。</li> <li>「外国語教育」「情報リテラシー教育」は大学全体と概ね同等で、大きな差はない。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、全ての項目で100%もしくは100%に近い。</li> <li>「とても身に付いた」(TOP1)に着目して全DPを比べると、「生活及び医療全般にわたって事態を予測し、論理的思考力等により最善策を導き出す」が最も低い<del>が</del>、修得度(TOP2)では100%に達している。</li> </ul>
教育成果を向上させるアイデア	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活及び医療全般にわたって事態を予測し、論理的思考力等により最善策を導き出す」は、ディスカッション、少人数の演習形式の体験率、および専門教育、実務教育、外国語教育、情報リテラシー教育の充実度と相関がある。※P93の相関係数参照</li> <li>学びの機会、充実度、DPの達成度は非常に高く、学科の取り組みが教育成果として表れている。立学の精神やDPが示す「学修目標」について、一人でも多くの学生に理解を促し、自主的な学びをさらに加速させたい。</li> </ul>	



学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は47.3%と、短大全体より5ポイント以上低い。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、短大全体と同様、「今まで知らなかった」が約4割を占める。</li> <li>DPの認知・理解度は短大全体同様に低く、「ほとんど知らなかった」学生は約4割存在する。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、短大全体と同様に非常に高く、9割以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は86.4%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は93.6%と同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「教室外の活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、短大全体と比べて非常に低い。「よくあった」(TOP1)も0.5割および2割程度と、学びの機会が不足している様子。</li> <li>「ディスカッション」「協働作業」「発表」「少人数の演習形式」の体験率は、短大全体とほぼ同等。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「実務教育」の充実度は、TOP2計、TOP1ともに短大全体より10ポイント以上低い。「専門教育」の充実度(TOP2計)は全体並みであるが、「とても当てはまる」(TOP1)は4割弱と全体より低い。</li> <li>「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は、いずれも短大全体より高いが、差は10ポイント以内で大きな差ではない。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、6～9割とDP項目ごとにバラつきがある。</li> <li>同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低い項目は、「情報機器(ICT)活用技能と豊かな表現力」「日本語・日本文学で身につけた専門知識により批判的に考察する能力」で、「とても身に付いた」(TOP1)の修得度も、いずれも1割程度にとどまる。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「情報機器(ICT)活用技能と豊かな表現力」は、ディスカッション、教室外の活動の体験率、および共通教育、専門教育、情報リテラシー教育の充実度と相関がある。※P94の相関係数参照
- 「日本語・日本文学で身につけた専門知識により批判的に考察する能力」は、教室外の活動、少人数の演習形式の体験率、および専門教育や実務教育、外国語教育の充実度と相関がある。※P94の相関係数参照
- 学科の学問特性上、座学も重要だが、アクティブラーニングを取り入れながら、実践的な学びの機会を増やし、その知識やスキルが社会でどのように応用できるのかという将来とのつながりを実感させることで、上記DP項目の修得度上昇が期待できるのではないか。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は47.1%と、短大全体より5ポイント以上低い。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、短大全体と同様、「今まで知らなかった」が約4割を占める。</li> <li>DPの認知・理解度は短大全体同様に低く、「ほとんど知らなかった」学生は4割強存在する。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は88.5%と、短大全体と同様に高い。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は87.4%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は94.3%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「協働作業」「教室外の活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、短大全体より低い。特に「教室外の活動」の体験率は2割強と非常に低く、短大全体と比べて30ポイント以上低い。</li> <li>「ディスカッション」「発表」「少人数の演習形式」の体験率は、短大全体より高いが、ほとんど差はない。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「外国語教育」の充実度は、TOP2計、TOP1ともに短大全体より高いが、「専門教育」の充実度はTOP2計、TOP1ともに短大全体より低く、「とても当てはまる」(TOP1)は約2割にとどまる。</li> <li>さらに「共通教育」「実務教育」の充実度は、TOP2計でみると短大全体と大きな差はないが、「とても当てはまる」(TOP1)は、短大全体より10ポイント以上低い。</li> <li>「情報リテラシー教育」の充実度は、短大全体とほぼ同等。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は6～8割と、他学科に比べると全体的に低め。</li> <li>修得度が7割を下回るのは、「英語の歴史や構造に関して幅広く正確な知識」「専門分野の英語を理解し、発信する」「専門知識に基づいた、クリティカルな思考力」であり、「とても身についた」(TOP1)の割合も1割未満。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「英語の歴史や構造に関して幅広く正確な知識」「専門分野の英語を理解し、発信する」は、学びの機会や学びの充実度との相関関係は確認されなかった。「専門知識に基づいた、クリティカルな思考力」は、専門教育、実務教育、情報リテラシー教育の充実度との相関がみられる。※P95の相関係数参照
- 学科の学問特性上、座学も重要だが、実践的な学びや教室外の活動等を多く取り入れ、自身の外国語力や国際性を社会でどのように活用していくのかという将来との関わりをイメージさせることができれば、より自主的な学びを促進できるのではないかと。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は65.7%と、短大全体より10ポイント以上高い。よって、「第二志望」「第三志望以下」という志望度の低い層が少ない。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、短大全体と同様、「今まで知らなかった」が約4割を占める。</li> <li>DPも短大全体同様に、「理解している」学生は5%以下で、卒業まで「ほとんど知らない」学生は半数近く存在する。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は98.6%と、非常に高く、ほぼ全員の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は96.4%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は96.4%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における学びの体験率(TOP2計)は、全ての項目で短大全体より高い。</li> <li>体験率が最も低い項目は「少人数の演習形式」だが、それでもTO2計は7割を超えており、また、その他の項目は全て9割以上と、多くの学生が多様な学びの機会を得ていた様子が見える。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共通教育」「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は100%に近く、「とても当てはまる」(TOP1)も約5~6割と高い。</li> <li>「外国語教育」の充実度は6割、「情報リテラシー教育」の充実度は8割で、短大全体と大きな差はない。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、8~9割と全体的にかなり高い。</li> <li>同学科の全DPのうち最も修得度が低い項目は、「<u>市民としての自覚に基づいた思考力および創造的能力</u>」で、修得度は唯一の8割台。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「市民としての自覚に基づいた思考力および創造的能力」は、ディスカッション、少人数の演習形式、将来との関わりを感じる授業の体験率、および共通教育や実務教育、外国語教育、情報リテラシー教育の充実度と相関がみられる。※P96の相関係数参照
- **学びの機会、充実度、DPの達成度は非常に高く、学科の取り組みが教育成果として表れている。立学の精神やDPが示す「学修目標」について、一人でも多くの学生に理解を促し、自主的な学びをさらに加速させたい。**

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は42.7%と、短大全体より10ポイント以上低い。「第三志望以下」の割合は高く、3割を超えている。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神を「入学前から知っていた」学生は10%以下。「在学中に知った」割合と合わせても、認知度は半数を下回っている。</li> <li>DPも短大全体同様に、「理解している」学生は5%以下で、卒業まで「ほとんど知らない」学生が半数近く存在する。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、短大全体と同様に非常に高く、9割以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は87.8%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は93.9%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における学びの体験率(TOP2計)は、短大全体より低い項目が多い。全体と比べて10ポイント以上低い項目は、「発表」「教室外の活動」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」。特に、「発表」「教室外の活動」は、短大全体より20ポイント以上低い。</li> <li>「協働作業」の体験率は、短大全体より低いが、差は10ポイント以内。「ディスカッション」の体験率は、短大全体より高いが、差は10ポイント以内。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「実務教育」の充実度(TOP2計)は、短大全体より20ポイント以上低い。</li> <li>「共通教育」「専門教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度は、短大全体より低い。しかし、「専門教育」は、「とても当てはまる」(TOP1)でみると、短大全体より10ポイント以上低い。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、6～9割とDP項目ごとにバラつきがある。</li> <li>同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「レクリエーション学に関する基礎的知識」「コンピュータでの文書作成」「身の回りの現象を分析的・論理的に考える」で、いずれも7割を下回る。</li> <li>また、「コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力」は、修得度は7割台だが、「とても身についた」(TOP1)は、7.3%と、同学科のDP項目の中で最も低い。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「レクリエーション学に関する基礎的知識」は、教室外の活動の体験率と相関がある。「コンピュータでの文書作成」は、ディスカッション、将来との関わりを感じる授業の体験率、および専門教育、情報リテラシー教育の充実度と相関があり、特に、情報リテラシー教育との相関が強い。また、「身の回りの現象を分析的・論理的に考える」は、少人数の演習形式の体験率、および専門教育、外国語教育の充実度と相関がある。「コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力」は、ディスカッション、協働作業、発表の体験率、および専門教育の充実度と相関がある。※P97の相関係数参照
- 上記DP項目の修得度向上には、複数の学びの機会や教育分野の充実度が寄与しているため、まずは体験率が特に低い「発表」と「教室外の活動」の機会を学びに多く取り入れていくことが優先される。また、相関関係は認められなかったが、短大全体と比べて特に低い「実務教育」の充実度の向上にも取り組む必要がある。それぞれの学びが、自身の進路や生活の中で、どう活用できるのかを意識させることが重要だと考える。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は64.5%と、短大全体より10ポイント近く高い。よって、「第二志望」「第三志望以下」という志望度の低い層が少ない。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせると55.3%と、半数以上の学生が認知しているが、「今まで知らなかった」学生も4割存在する。</li> <li>DPは、短大全体同様に「理解していた」「なんとなく知っていた」を合わせても4割に満たず、卒業まで存在を知らない学生の方が多い。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、9割の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は88.2%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は97.4%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「ディスカッション」「協働作業」の体験率(TOP2計)は、短大全体とほぼ同等。</li> <li>「教室外の活動」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」の体験率は、短大全体より高く、特に「教室外の活動」は、20ポイント以上高い。</li> <li>「発表」の体験率は、短大全体より低いですが、差は10ポイント以内。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの項目の充実度も、短大全体と比べて大きな差はない。</li> <li>「共通教育」の充実度は短大全体より低いですが、差はわずか5ポイント。「専門教育」「実務教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度は短大全体より高いが、差は1～6ポイント程度。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、いずれも9割以上とかなり高い。特に、「指導現場における安全第一の状況判断」の修得度は、100%に達している。</li> <li>「とても身に付いた」(TOP1)に着目して全DPを比べると、「実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力」は、全ての項目の中で最も低く、TOP1が2割にとどまる。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力」は、学びの機会の体験率および学びの充実度の全ての項目と相関がある。※P98の相関係数参照
- 上記DP項目の修得度向上には、複数の学びの機会や教育分野の充実度が寄与しているため、まずは体験率が短大全体と比べて低い「発表」の機会をより多く取り入れていくことがよいのではないかと考える。また、立学の精神やDPが示す「学修目標」について、一人でも多くの学生に理解を促し、自主的な学びをさらに加速させたい。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は62.0%と、短大全体より5ポイント以上高い。よって、「第二志望」「第三志望以下」という志望度の低い層が少ない。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせて4割台。「今まで知らなかった」学生は半数以上を占める。</li> <li>DPは、短大全体同様に「理解していた」「なんとなく知っていた」を合わせても4割に満たず、卒業まで存在を知らない学生の方が多い。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、95%以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は93.4%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度(TOP2計)は97.5%と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「ディスカッション」の体験率(TOP2計)は、短大全体と比べて15ポイント以上低い。「少人数の演習形式」の体験率も短大全体より低い。差は5ポイント以内。</li> <li>「協働作業」「発表」の体験率は、短大全体とほぼ同等。「教室外の活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率は、いずれも短大全体より約10ポイント高い。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共通教育」「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は非常に高く、100%もしくはほぼ100%。</li> <li>「情報リテラシー教育」の充実度は、短大全体と比べて約10ポイント低い。「外国語教育」の充実度は、短大全体とほぼ同等。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、7~9割と概ね高い。</li> <li>同学科の全DPのうち最も修得度が低い項目は、「食品開発や食品管理に必要な技能・表現力」で、修得度は唯一の7割台。「とても身に付いた」(TOP1)に着目して全DPを比べても同様に低く、「ヒトと栄養の関係を研究するために必要となる技能・表現力」と並んで、TOP1は1割台にとどまる。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「食品開発や食品管理に必要な技能・表現力」「ヒトと栄養の関係を研究するために必要となる技能・表現力」は、いずれも外国語教育、情報リテラシー教育の充実度と相関がある。※P99の相関係数参照
- 修得度が低いDPと相関がある「情報リテラシー教育」は、短大全体と比べると充実度が低い。専門的な技能を修得し、それを表現する力を身に付けるために、情報教育を上手く取り入れることも有効ではないかと考える。また、相関関係は認められなかったが、短大全体と比べて特に低い「ディスカッション」の機会を増やすことも、学生の理解度を高めることや表現力の向上に有効ではないかと考える。

学科特徴	
志望度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第一志望」の割合は48.8%と、短大全体より5ポイント以上低い。</li> </ul>
立学の精神、DPの浸透度	<ul style="list-style-type: none"> <li>立学の精神を「今まで知らなかった」学生は半数を超えている。</li> <li>DPは、短大全体同様に「理解していた」「なんとなく知っていた」を合わせても4割にも満たず、卒業まで存在を知らない学生が半数近く存在する。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育満足度(TOP2計)は、大学全体と同様に非常に高く、95%以上の学生が満足している。</li> <li>進路満足度(TOP2計)は93.6%と、同様に高い。</li> <li>総合満足度は(TOP2計)は95.2と、同様に高い。</li> </ul>
学びの機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における「ディスカッション」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は、短大全体より10ポイント以上低い。</li> <li>「協働作業」「発表」「教室外の活動」「将来との関わりを感じる授業」は、短大全体より高いが、差は10ポイント以内。</li> </ul>
学びの充実度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共通教育」「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は、短大全体と比べて大きな差はなく、9割以上が充実感を得ている様子。</li> <li>「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度は、6割強～8割にとどまるが、短大全体と比べて大きな差はない。</li> </ul>
修得した能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得度(TOP2計)は、8～9割と全体的にかなり高い。</li> <li>「とても身に付いた」(TOP1)に着目して全DPを比べると、「快適で健全な生活を形作るための科学的・工学的な専門知識」「生活を構成する事象を分析し問題の解決につなげる技能」のTOP1は低く、2割を下回る。</li> </ul>

### 教育成果を向上させるアイデア

- 「快適で健全な生活を形作るための科学的・工学的な専門知識」は、ディスカッション、発表、少人数の演習形式の体験率、および共通教育、専門教育、実務教育、外国語教育の充実度と相関がある。また、「生活を構成する事象を分析し問題の解決につなげる技能」は、発表の体験率、情報リテラシー教育の充実度と相関がある。  
※P100の相関係数参照
- 短大全体と比べると学びの体験率が低い「ディスカッション」「少人数の演習形式」は、上記専門知識の修得度にも寄与しているため、まずは、これらの学びの機会を増やすことが優先される。また、分析力や問題解決力に関しては、発表の機会を増やしたり、情報リテラシー教育の充実促進が有効ではないかと考えられる。

**巻末資料**  
**【ディプロマ・ポリシーとの相関係数】**



- : 強い相関がある(7以上)
- : やや強い相関がある(4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1 (1)ディスカッションを取り入れた授業	Q3.2 (2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	Q3.3 (3)発表を取り入れた授業	Q3.4 (4)教室外での活動や実習を行う授業	Q3.5 (5)少人数で行う演習形式の授業	Q3.6 (6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	Q6.1 (1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	Q6.2 (2)専門分野の教育が充実している	Q6.3 (3)実践的・実務的の教育が充実している	Q6.4 (4)外国語教育が充実している	Q6.5 (5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している
--	-----------------------------	-------------------------------------	-----------------------	----------------------------	--------------------------	---	---------------------------------	---------------------------	------------------------------	-------------------------	--

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 日本の言語・文学・文化に関する基礎的および専門的な知識を修得している。	0.139	0.198	0.213	0.192	0.206	0.354	0.366	0.395	0.387	0.260	0.175
Q5.2	(2)知識・理解 B 人文・社会・自然に関する広範な知識を体系的に整理・理解し、日本語・日本文学・日本文化の諸問題をその知識体系において把握している。	0.176	0.204	0.234	0.208	0.214	0.314	0.248	0.286	0.326	0.289	0.115
Q5.3	(3)知識・理解 C 体系的知識を複数の異なる視点・国際的観点から把握し、現象を多様な価値観の下に捉えている。	0.247	0.238	0.262	0.209	0.162	0.194	0.272	0.161	0.209	0.171	0.053
Q5.4	(4)技能・表現 D 大学における学修を自らの知性・感性・徳性の涵養と言語表現を基礎とするプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上に役立たせることができる。	0.305	0.251	0.347	0.262	0.309	0.376	0.201	0.263	0.448	0.238	0.205
Q5.5	(5)技能・表現 E 大学における学修の成果を社会での諸活動に具体的に活用でき、汎用性のある情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能・表現力を身に付けている。	0.097	0.157	0.213	0.232	0.112	0.257	0.179	0.162	0.348	0.176	0.307
Q5.6	(6)思考・判断 F 日本語・日本文学に関して身に付けた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を身に付けている。	0.193	0.242	0.305	0.209	0.255	0.246	0.132	0.241	0.226	0.192	0.198
Q5.7	(7)思考・判断 G 日本語・日本文学の学習に基づく知性と感性によって、論理的・実証的に思考する能力および状況判断・問題解決の能力を備えている。	0.176	0.284	0.297	0.192	0.240	0.256	0.210	0.314	0.351	0.263	0.158
Q5.8	(8)態度・志向性 H 日常生活の中で大学での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保ち続けている。	0.118	0.126	0.347	0.197	0.169	0.238	0.290	0.235	0.413	0.281	0.169
Q5.9	(9)態度・志向性 I 広範で体系的な知識、豊かな感性、しっかりとした倫理観に基づき、家庭・事業体・地域社会・国際社会において自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。	0.202	0.229	0.272	0.245	0.131	0.219	0.220	0.274	0.339	0.133	0.114

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語の教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 欧米の文化や文学に関して幅広く正確な知識を持っている。	0.291	0.196	0.237	0.197	0.198	0.309	0.184	0.279	0.267	0.384	0.014
Q5.2	(2)知識・理解 B 英語の歴史や構造に関して幅広く正確な知識を持っている。	0.334	0.227	0.248	0.271	0.316	0.268	0.238	0.260	0.188	0.269	0.073
Q5.3	(3)知識・理解 C 国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。	0.199	0.076	0.152	0.243	0.215	0.351	0.116	0.228	0.227	0.186	0.093
Q5.4	(4)知識・理解 D 国際人として必要なコンピューターリテラシーを持っている。	0.150	0.251	0.210	0.272	0.129	0.303	0.223	0.256	0.272	0.227	0.282
Q5.5	(5)技能・表現 E 教養レベルの英語を理解し、発信することができる。	0.205	0.217	0.205	0.185	0.190	0.343	0.185	0.277	0.171	0.192	0.148
Q5.6	(6)技能・表現 F 専門分野の英語を理解し発信することができる。	0.136	0.189	0.203	0.197	0.264	0.390	0.249	0.347	0.253	0.278	0.249
Q5.7	(7)技能・表現 G ドイツ語・フランス語を理解し、発信することができる。	-0.036	0.016	0.051	0.329	0.199	0.134	-0.028	0.160	0.138	0.127	0.134
Q5.8	(8)技能・表現 H コンピューターを利用して情報を収集し、発信することができる。	0.152	0.198	0.125	0.033	-0.036	0.139	0.130	0.113	0.051	0.149	0.289
Q5.9	(9)思考・判断 I 自分の考えを論理的に組み立てる力を持っている。	0.237	0.246	0.182	0.219	0.153	0.425	0.261	0.298	0.291	0.320	0.188
Q5.10	(10)思考・判断 J グローバルな視点から判断し、主体的に対応する力を持っている。	0.214	0.158	0.177	0.198	0.165	0.378	0.092	0.232	0.149	0.210	0.072
Q5.11	(11)思考・判断 K 専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。	0.250	0.331	0.241	0.373	0.253	0.440	0.256	0.337	0.405	0.343	0.237
Q5.12	(12)態度・志向性 L 責任感を持ち、自律的に行動することができる。	0.169	0.152	0.154	0.126	0.243	0.342	0.296	0.337	0.210	0.240	0.107
Q5.13	(13)態度・志向性 M 異文化の人たちと積極的に交流し、国際社会に貢献できる。	0.167	0.158	0.188	0.119	0.186	0.430	0.152	0.343	0.266	0.286	0.072
Q5.14	(14)態度・志向性 N 知的好奇心を持ち、自らの専門を探究することができる。	0.144	0.218	0.214	0.097	0.211	0.387	0.151	0.283	0.245	0.235	0.102

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
	(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 現代の教育・保育を支える教養的知識を幅広く有している。	0.159	0.160	0.139	0.020	0.079	0.124	0.180	0.245	0.290	0.213	0.240
Q5.2	(2)知識・理解 B 教育・保育に関する奥深い専門的知識を有している。	0.190	0.166	0.212	0.130	0.216	0.236	0.209	0.297	0.297	0.201	0.224
Q5.3	(3)技能・表現 C 教育・保育の実践を行うために必要な技能を有している。	0.110	0.151	0.230	0.100	0.169	0.247	0.256	0.366	0.392	0.232	0.278
Q5.4	(4)技能・表現 D 教育・保育に関わる多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	0.124	0.197	0.176	0.149	0.147	0.220	0.227	0.355	0.329	0.224	0.241
Q5.5	(5)思考・判断 E 国際的視野に基づいた批判的思考力及び創造的能力を備えている。	0.152	0.047	0.152	0.200	0.304	0.039	0.209	0.238	0.273	0.404	0.408
Q5.6	(6)思考・判断 F 教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考と理性的な判断ができる。	0.137	0.117	0.189	0.126	0.132	0.206	0.152	0.336	0.327	0.235	0.287
Q5.7	(7)態度・志向性 G 教育・保育に関わる熱意と責任感を身につけている。	0.130	0.124	0.049	0.012	0.007	0.280	0.193	0.315	0.220	0.127	0.191
Q5.8	(8)態度・志向性 H 教育・保育に関して、生涯にわたり学び、研究し続ける力を身につけている。	0.103	0.130	0.104	0.040	0.070	0.314	0.175	0.306	0.269	0.175	0.231

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

		Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
		(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している
Q5.1	(1)知識・理解 A 心理学に関する基礎的・専門的知識を有している。	0.110	0.118	0.082	0.046	0.101	0.336	0.318	0.313	0.153	0.281	0.245
Q5.2	(2)知識・理解 B 社会福祉学に関する基礎的・専門的知識を有している。	0.454	0.379	0.376	0.483	0.490	0.467	0.039	0.281	0.317	0.080	0.070
Q5.3	(3)知識・理解 C レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識を有している。	0.205	0.131	0.200	0.239	0.207	0.147	0.219	0.348	0.312	0.263	0.301
Q5.4	(4)技能・表現 D 科学的な視点に基づき、様々な課題の解決に心理学の専門的知識を統合し活用できる能力を有している。	0.311	0.174	0.236	0.161	0.199	0.319	0.278	0.373	0.332	0.328	0.348
Q5.5	(5)技能・表現 E 人と社会との関係を理解し、様々な課題の解決に社会福祉学の専門的知識を統合し活用できる能力を有している。	0.413	0.413	0.395	0.486	0.507	0.392	0.148	0.346	0.465	0.171	0.103
Q5.6	(6)技能・表現 F 自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。	0.310	0.319	0.400	0.352	0.286	0.298	0.245	0.382	0.400	0.283	0.328
Q5.7	(7)技能・表現 G 他者との円滑な関係を構築し、それを維持しながら多様な人々と協働することができる。	0.261	0.324	0.221	0.246	0.278	0.310	0.243	0.308	0.255	0.276	0.258
Q5.8	(8)技能・表現 H コンピュータを使って、収集したデータを適切に処理し、文書を作成することができる。	0.092	0.189	0.179	0.103	0.122	0.169	0.134	0.200	0.192	0.287	0.371
Q5.9	(9)思考・判断 I 必要な情報を収集・整理し、あらたな問題を発見することができる。	0.248	0.243	0.298	0.245	0.219	0.344	0.215	0.275	0.306	0.302	0.418
Q5.10	(10)思考・判断 J 問題に対する解決策を立案し、実行することができる。	0.354	0.362	0.353	0.317	0.306	0.301	0.205	0.345	0.403	0.315	0.378
Q5.11	(11)思考・判断 K 身の回りの様々な現象を既存の専門知識と結びつけて分析的・論理的に考えることができる。	0.387	0.299	0.370	0.324	0.321	0.398	0.208	0.347	0.393	0.245	0.282
Q5.12	(12)態度・志向性 L 社会環境および人間関係における課題を自ら発見し、解決しようとする積極的な姿勢をもつ。	0.394	0.326	0.276	0.216	0.241	0.289	0.214	0.421	0.414	0.327	0.302
Q5.13	(13)態度・志向性 M 個人および個人と他者との関係に関心をもち、多様な場面において人との関係づくりができる。	0.367	0.319	0.228	0.187	0.241	0.273	0.321	0.404	0.351	0.269	0.256
Q5.14	(14)態度・志向性 N 社会の一員としての役割を見だし、人を援助することができる。	0.359	0.390	0.318	0.303	0.332	0.384	0.227	0.366	0.364	0.199	0.258

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

		Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
		(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している
Q5.1	(1)知識・理解 A 健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。	0.162	0.274	0.251	0.307	0.148	0.401	0.270	0.377	0.360	0.265	0.265
Q5.2	(2)知識・理解 B 健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。	0.220	0.297	0.195	0.295	0.204	0.349	0.260	0.243	0.308	0.331	0.349
Q5.3	(3)知識・理解 C 健康・スポーツの実践・指導のための適切で正しい指導法を理解している。	0.110	0.246	0.182	0.329	0.064	0.444	0.220	0.303	0.357	0.209	0.213
Q5.4	(4)技能・表現 D 健康・スポーツを実践するにあたり、基本的・専門的の技能を有している。	0.236	0.330	0.243	0.268	0.132	0.295	0.251	0.348	0.323	0.097	0.160
Q5.5	(5)技能・表現 E 知性・情操・徳性の涵養と、施すべき対象へのコミュニケーション能力を身につけている。	0.155	0.307	0.249	0.291	0.191	0.346	0.253	0.220	0.366	0.207	0.305
Q5.6	(6)思考・判断 F 実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。	0.176	0.305	0.204	0.222	0.116	0.507	0.289	0.341	0.404	0.229	0.334
Q5.7	(7)思考・判断 G 指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。	0.140	0.302	0.224	0.295	0.123	0.493	0.206	0.329	0.413	0.245	0.324
Q5.8	(8)思考・判断 H 指導現場においては、安全第一が基本であり、そのための状況判断を有している。	0.149	0.323	0.172	0.290	0.167	0.326	0.114	0.373	0.395	0.183	0.259
Q5.9	(9)態度・志向性 I 学修の価値を正しく評価し、常に向上的態度を保持している。	0.139	0.318	0.243	0.294	0.151	0.450	0.171	0.330	0.402	0.251	0.368
Q5.10	(10)態度・志向性 J しっかりとした倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。	0.196	0.244	0.168	0.228	0.184	0.477	0.215	0.252	0.275	0.240	0.337

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 生活環境に関わる事象に対して、文化的、社会的な観点からの専門的知識を有している。	0.265	0.111	0.263	0.110	0.231	0.457	0.023	0.160	0.326	0.150	0.152
Q5.2	(2)知識・理解 B 快適で健全な生活環境に形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。	0.278	0.085	0.229	0.180	0.197	0.244	0.182	0.202	0.197	0.340	0.209
Q5.3	(3)知識・理解 C 生活環境を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身につけている。	0.246	0.246	0.259	0.037	0.142	0.340	0.171	0.176	0.130	0.261	0.281
Q5.4	(4)技能・表現 D 生活環境を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。	0.364	0.038	0.200	0.036	0.257	0.279	0.150	0.200	0.182	0.223	0.115
Q5.5	(5)技能・表現 E 生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。	0.183	0.170	0.253	-0.020	0.195	0.389	0.129	0.261	0.137	0.220	0.196
Q5.6	(6)思考・判断 F 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身につけている。	0.184	0.164	0.055	-0.001	0.215	0.221	-0.005	0.090	0.204	0.087	-0.084
Q5.7	(7)思考・判断 G 生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身につけている。	0.193	0.267	0.230	-0.059	0.133	0.253	0.101	0.146	0.246	0.146	0.149
Q5.8	(8)態度・志向性 H 社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身につけている。	0.113	0.308	0.176	0.013	0.198	0.307	0.209	0.322	0.216	0.200	0.240
Q5.9	(9)態度・志向性 I 生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身につけている。	0.187	0.174	0.137	-0.093	0.225	0.226	0.129	0.314	0.283	0.218	0.142

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

		Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
		(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している
Q5.1	(1)知識・理解 A 個人や集団を対象とする栄養学に関する基礎的・専門的知識を身につける。	0.237	0.211	0.092	0.214	0.139	0.259	0.286	0.406	0.452	0.267	0.256
Q5.2	(2)知識・理解 B 食べ物と健康との関係について、基礎的・専門的知識を身につける。	0.247	0.141	0.109	0.170	0.155	0.258	0.313	0.438	0.454	0.258	0.226
Q5.3	(3)技能・表現 C 臨床や福祉、学校教育の場で必要となる技能・表現力を身につける。	0.362	0.152	0.225	0.327	0.211	0.286	0.261	0.343	0.422	0.302	0.300
Q5.4	(4)技能・表現 D 健康増進や健康管理を行う上で必要となる技能・表現力を身につける。	0.302	0.127	0.159	0.231	0.156	0.287	0.284	0.333	0.415	0.328	0.305
Q5.5	(5)技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身につける。	0.253	0.077	0.145	0.198	0.187	0.212	0.280	0.272	0.357	0.269	0.285
Q5.6	(6)技能・表現 F ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる技能・表現力を身につける。	0.267	0.073	0.191	0.254	0.240	0.274	0.287	0.367	0.501	0.289	0.312
Q5.7	(7)思考・判断 G 健康や栄養・食に関する情報を自ら収集する能力を身につける。	0.186	0.128	0.137	0.128	0.208	0.266	0.318	0.340	0.365	0.269	0.270
Q5.8	(8)思考・判断 H 情報収集によって発見された課題を自ら解決できる能力を身につける。	0.171	0.107	0.170	0.160	0.228	0.242	0.301	0.328	0.430	0.275	0.315
Q5.9	(9)思考・判断 I 科学的根拠に基づく健康・栄養課題解決の能力を身につける。	0.185	0.105	0.128	0.163	0.194	0.247	0.228	0.350	0.429	0.270	0.301
Q5.10	(10)態度・志向性 J 個人や社会が抱える様々な健康栄養問題を積極的に学習する態度を身につける。	0.260	0.132	0.150	0.206	0.222	0.256	0.365	0.380	0.444	0.382	0.350
Q5.11	(11)態度・志向性 K 食物栄養学の専門的学習を通して、社会に貢献する自覚を身につける。	0.209	0.113	0.128	0.143	0.161	0.240	0.272	0.331	0.415	0.266	0.336
Q5.12	(12)統合的能力 L 専門的知識・技術の統合を図り、管理栄養士として社会に貢献できる能力を身につける。	0.241	0.111	0.135	0.222	0.149	0.232	0.306	0.387	0.484	0.239	0.343
Q5.13	(13)統合的能力 M 社会における指導者として必要なコミュニケーション能力を身につける。	0.304	0.128	0.217	0.217	0.226	0.176	0.276	0.310	0.389	0.207	0.299
Q5.14	(14)統合的能力 N 栄養・食と健康に関する様々な問題について、指導的立場から解決する能力を身につける。	0.277	0.104	0.166	0.266	0.208	0.196	0.251	0.322	0.383	0.204	0.322
Q5.15	(15)統合的能力 O 社会貢献のための実行力を身につける。	0.313	0.152	0.145	0.265	0.260	0.273	0.356	0.347	0.432	0.259	0.307

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)情報活用力 A コンピュータ等IT機器を活用して、適切な形・方法で、情報を創造・編集・加工・分析・伝達するための基本的な知識・技術を習得している。	0.106	0.258	0.097	0.199	0.269	0.401	0.273	0.428	0.340	0.254	0.505
Q5.2	(2)情報活用力 B 溢れる情報を的確に分析して、事物の本質を理解できる思考力を習得している。	0.211	0.303	0.201	0.322	0.343	0.277	0.291	0.234	0.287	0.148	0.291
Q5.3	(3)情報活用力 C 自己を適切に表現でき、他人や社会と良好な関係を築ける態度を習得している。	0.213	0.283	0.160	0.185	0.279	0.172	0.171	0.163	0.177	0.155	0.178
Q5.4	(4)生活行動力 D 豊かな感性と幅広い教養を身につけ、生活の中で、時代の流れを洞察して最適な選択を行える行動力を身につけている。	0.254	0.196	0.255	0.195	0.296	0.199	0.139	0.158	0.149	0.044	0.219
Q5.5	(5)生活行動力 E 常に情報を的確に捉え、変化するライフ・ステージに生涯に亘って適応できる態度を習得している。	0.299	0.167	0.273	0.271	0.321	0.136	0.247	0.125	0.212	0.150	0.133
Q5.6	(6)社会共創力 F 社会の仕組みを理解し、社会的な課題の解決に主体的に参加し、他人との協働を通じて、社会の発展に貢献する態度を習得している。	0.176	0.097	0.280	0.287	0.335	0.178	0.148	0.229	0.201	0.139	0.303
Q5.7	(7)社会共創力 G 生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心を身につけている。	0.176	0.088	0.158	0.187	0.232	0.227	0.327	0.220	0.214	0.262	0.290



- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
	(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)高い知性 A 語学や諸学の基礎学力の習得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培う。	0.144	0.067	0.069	0.081	0.088	0.088	0.174	0.189	0.162	0.339	0.532
Q5.2	(2)高い知性 B 構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって空間的に構成する基礎的能力を培う。	0.244	0.255	0.125	0.178	0.224	0.224	0.080	0.348	0.415	0.086	0.450
Q5.3	(3)高い知性 C 機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習により最適な空間を構成する基礎的能力を培う。	0.115	0.165	0.077	0.217	0.156	0.156	0.124	0.350	0.321	0.158	0.249
Q5.4	(4)高い知性 D コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらの中で、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培う。	0.126	0.110	-0.037	0.071	0.005	0.077	-0.045	0.246	0.320	-0.002	0.320
Q5.5	(5)善美な情操 E 基礎的造形能力を培う。	0.217	0.174	0.137	0.000	0.030	0.122	0.090	0.236	0.231	0.145	0.083
Q5.6	(6)善美な情操 F 歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する基礎的知識を習得し価値観を培う。	0.345	0.287	0.045	0.185	0.285	0.369	0.241	0.408	0.491	0.194	0.389
Q5.7	(7)高雅な徳性 G 社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、自律的活動ができる職能人としての素養を理解する。	0.261	0.239	0.083	0.234	0.254	0.341	0.193	0.378	0.417	0.267	0.209
Q5.8	(8)高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合 H 「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的に実現する基礎的能力を培う。	0.292	0.294	0.003	0.164	0.290	0.290	0.303	0.321	0.383	0.266	0.357
Q5.9	(9)高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合 I さまざまな専門家、技術者との共同の重要性を理解する。	0.178	0.318	0.162	0.414	0.343	0.424	0.406	0.558	0.438	0.246	0.377

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
	(1)デイスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A ソルフェージュや和声法をはじめ、多種の音楽理論の専門的知識を有する。	0.089	0.330	-0.156	0.373	0.348	0.528	0.267	0.466	0.623	0.391	0.028
Q5.2	(2)知識・理解 B 音楽史や文化、音楽作品とその背景に関する幅広い知識を有する。	-0.125	-0.054	0.000	0.429	0.246	0.304	-0.054	0.268	0.259	0.322	0.355
Q5.3	(3)知識・理解 C 音楽に携わる上で必要な語学能力を有する。	0.446	0.171	-0.424	0.075	0.121	0.120	0.284	0.422	0.600	0.203	-0.254
Q5.4	(4)技能・表現 D 専門特技の技術面において高い能力、芸術性において高い表現力を有する。	0.189	0.060	0.000	-0.053	0.171	0.000	0.101	0.596	0.594	0.501	0.180
Q5.5	(5)技能・表現 E 指導者・教育者として備えておくべき伴奏、合唱・合奏指導、指揮等の知識や技術を習得している。	0.324	0.309	-0.466	0.272	0.000	0.236	0.234	0.487	0.356	0.501	0.251
Q5.6	(6)技能・表現 F 合唱、合奏、室内楽等のアンサンブル、また、オペラ、コンチェルトなどの総合的な実技能力を習得している。	0.387	0.168	-0.186	0.049	-0.127	0.157	0.168	0.277	0.457	0.598	0.400
Q5.7	(7)思考・判断 G 人間性あふれる豊かな個性を持った演奏家である。	0.491	0.448	-0.262	0.394	0.420	0.074	0.237	0.586	0.645	0.657	0.173
Q5.8	(8)思考・判断 H 自己、あるいは他者の演奏を客観的に聴き、評価することができる。	0.669	0.271	-0.180	-0.048	0.092	-0.152	0.307	-0.134	0.411	0.322	-0.129
Q5.9	(9)思考・判断 I 指導者としての責任感や倫理観を持ち、人材を育成する意欲を有する。	0.063	0.000	0.167	0.088	0.057	0.282	-0.201	0.000	-0.028	0.119	0.120
Q5.10	(10)態度・志向性 J 芸術と関わる上で、生涯にわたっての研究と自己研鑽を続ける向上心を持ち、音楽演奏によって豊かな社会を作る能力を有する。	0.160	0.459	0.169	-0.045	0.145	0.429	0.255	0.378	0.358	0.545	0.304
Q5.11	(11)態度・志向性 K ささまざまな感性を持った音楽関係者や社会と関わる上で必要なコミュニケーション能力を有する。	0.316	0.181	0.000	-0.053	0.343	0.169	0.302	0.596	0.424	0.501	0.180
Q5.12	(12)態度・志向性 L 高い知性、善美な情操、高雅な徳性を兼ね備え、社会において演奏者、音楽指導者として活動するために必要な知識・技能とそれらを統合し活用できる能力を有する。	0.559	0.534	-0.093	0.173	0.160	0.236	0.234	0.070	0.198	0.501	0.084

# 相関係数【音楽学部 応用音楽学科】

(n=20)

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
	(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 多岐にわたるジャンルの音楽に共通する幅広い専門知識を有する。	-0.200	0.129	0.138	0.123	0.420	0.087	-0.204	0.396	0.262	0.094	0.092
Q5.2	(2)知識・理解 B 音楽以外の芸術、医学、心理学、情報・メディアなど幅広い知識を有する。	0.349	0.497	0.399	0.743	0.140	0.435	-0.084	0.132	0.317	-0.047	-0.261
Q5.3	(3)知識・理解 C 海外の論文や文献研究に必要な語学力を有する。	0.246	-0.149	0.450	0.264	0.046	-0.070	-0.070	0.043	0.212	-0.015	-0.175
Q5.4	(4)技能・表現 D 現場で最も需要が高いピアノの高い演奏技能を中心に、さまざまな楽器を活用する能力がある。	-0.435	-0.306	0.175	-0.090	0.008	-0.245	0.052	0.353	0.172	0.066	0.016
Q5.5	(5)技能・表現 E 音楽を医療、福祉、環境、教育など多様な分野において実践する力を有する。	0.391	0.234	0.306	0.622	0.108	0.433	0.035	0.102	0.115	-0.278	-0.411
Q5.6	(6)技能・表現 F 生涯学習における音楽的指導、学校教育における音楽教育の指導者としての知識や技術を習得している。	0.150	0.000	0.114	0.127	0.000	-0.120	0.240	0.163	0.309	0.389	0.254
Q5.7	(7)技能・表現 G 音楽産業の中での、企画・運営能力を有する。	-0.539	0.026	-0.309	-0.071	-0.103	-0.091	-0.179	-0.267	0.034	0.237	0.249
Q5.8	(8)思考・判断 H 理論と実践を通して音楽知識や技術を習得し、それらを活用することによって豊かな社会をつくることのできる能力を有する。	-0.203	0.147	0.118	0.251	0.052	0.100	0.100	0.170	0.354	0.345	0.106
Q5.9	(9)思考・判断 I 各現場で“求められる音楽”を判断し、創造することができる。	-0.114	0.179	0.086	0.305	0.219	0.030	-0.334	-0.124	0.078	-0.074	-0.064
Q5.10	(10)思考・判断 J 情報を収集・分析し、客観的に問題提起および音楽に基づく解決策を提案できる。	-0.184	0.000	0.325	-0.129	-0.050	-0.343	-0.147	0.067	0.126	0.040	-0.104
Q5.11	(11)態度・志向性 K 人および広く社会全般への興味・関心を高め、音楽の在り方を考える姿勢をもつ。	0.212	0.250	0.402	0.403	0.437	0.424	0.254	0.346	0.436	0.069	-0.180
Q5.12	(12)態度・志向性 L 音楽と社会をつなぐ上でのコミュニケーション能力を有する。	0.033	0.157	0.295	0.502	0.467	0.507	0.151	0.303	0.435	0.007	-0.169
Q5.13	(13)態度・志向性 M 適切な倫理観のもとで、自らの役割を果たすことができる。	-0.022	0.069	0.028	0.410	0.295	0.251	0.018	0.119	0.466	0.280	0.235
Q5.14	(14)態度・志向性 N 需要に応じた表現方法を求め、研鑽を積む姿勢を有する。	0.131	-0.048	0.089	0.331	0.405	0.155	0.015	0.247	0.435	0.232	0.207

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 医療人としての使命感と倫理観を有する。	0.080	0.153	0.197	0.182	0.082	0.273	0.143	0.370	0.273	0.110	0.140
Q5.2	(2)知識・理解 B 豊かな教養と医薬品および臨床に関する専門的知識を有する。	0.085	0.094	0.266	0.112	0.156	0.339	0.218	0.370	0.340	0.078	0.122
Q5.3	(3)知識・理解 C コンプライアンス(法令遵守)の必要性を理解する。	0.075	0.196	0.231	0.130	0.016	0.299	0.132	0.396	0.399	0.024	0.130
Q5.4	(4)技能・表現 D 薬剤師として、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方設計、安全性・有効性、リスク管理およびチーム医療への参画に必要な薬学的能力を有する。	0.053	0.092	0.212	0.117	0.197	0.299	0.110	0.295	0.342	0.079	0.094
Q5.5	(5)技能・表現 E 薬剤師業務および関連業務に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する。	0.227	0.103	0.343	0.117	0.261	0.153	0.145	0.232	0.240	0.183	0.279
Q5.6	(6)技能・表現 F 薬物療法および地域の医療・健康・予防・福祉介護等の実践等に必要となる基礎的な科学技術を有する。	0.143	0.113	0.250	0.127	0.217	0.217	0.149	0.264	0.339	0.169	0.221
Q5.7	(7)思考・判断/態度・志向性 G 進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を有する。	0.123	0.046	0.252	0.150	0.232	0.152	0.087	0.223	0.240	0.179	0.273
Q5.8	(8)思考・判断/態度・志向性 H 薬剤師として、患者・生活者医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。	0.131	0.117	0.244	0.167	0.120	0.253	0.186	0.366	0.327	0.100	0.113
Q5.9	(9)思考・判断/態度・志向性 I 次世代を担う薬剤師人材を育成する意欲と態度を有する。	0.108	0.029	0.239	0.108	0.261	0.236	0.085	0.198	0.172	0.117	0.254

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

※Pearson の相関係数		Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
		(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している
Q5.1	(1)知識・理解 A 研究者・技術者としての使命感と倫理観を有する。	0.139	0.368	0.386	0.042	0.089	0.422	0.372	0.396	0.424	0.263	0.252
Q5.2	(2)知識・理解 B 豊かな教養と医薬品の製造・開発、健康・疾病予防・福祉などに関する深い専門的知識を有する。	0.138	0.304	0.095	-0.032	-0.023	0.236	0.255	0.422	0.378	0.097	0.134
Q5.3	(3)知識・理解 C コンプライアンス(法令遵守)の必要性を理解する。	0.114	0.417	0.254	0.055	-0.035	0.288	0.390	0.547	0.577	0.357	0.459
Q5.4	(4)技能・表現 D 研究者として、実験計画の立案、機器や試薬の使用・管理、データ収集・管理と解析、調査など、研究活動に必要な能力を有する。	0.137	0.361	0.130	-0.117	0.153	0.382	0.393	0.434	0.436	0.262	0.236
Q5.5	(5)技能・表現 E 様々な発表会や学会などにおいて、研究成果の発表に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する。	0.000	0.218	0.131	-0.069	0.068	0.361	0.373	0.332	0.398	0.265	0.264
Q5.6	(6)技能・表現 F 医薬品合成、成分分析、薬理活性評価、薬物治療などへの応用において必要な基礎的技術を有する。	0.295	0.357	0.153	0.081	0.200	0.297	0.328	0.389	0.622	0.133	0.221
Q5.7	(7)思考・判断/態度・志向性 G 進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を有する。	0.029	0.224	0.156	0.063	0.063	0.162	0.305	0.355	0.443	0.106	0.178
Q5.8	(8)思考・判断/態度・志向性 H 疾病、環境、医療や医薬品に関する社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。	0.118	0.306	0.102	-0.041	0.080	0.297	0.328	0.389	0.518	0.222	0.265
Q5.9	(9)思考・判断/態度・志向性 I 次世代を担う研究者・技術者人材を育成する意欲と態度を有する。	0.027	0.304	0.013	0.117	0.032	0.249	0.217	0.351	0.480	0.234	0.175

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
	(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感ぜられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A さまざまな心理・社会的・文化的背景を持ち、発達段階や健康レベルも多様である人の生活を理解するための幅広い教養や基礎知識を身につけている。	0.402	0.283	0.371	0.134	0.419	0.138	0.210	0.201	0.495	0.562	0.409
Q5.2	(2)知識・理解 B 生活者としての人を支援するために必要な専門的知識を習得している。	0.177	0.133	0.341	0.015	0.414	0.146	0.270	0.270	0.396	0.324	0.225
Q5.3	(3)技能・表現 C 生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観と人の価値観を尊重したコミュニケーション方法を身につけている。	0.447	0.294	0.311	0.096	0.286	0.123	0.116	0.274	0.297	0.204	0.117
Q5.4	(4)思考・判断 D 人の生活や健康を支える様々な要因(身体心理社会的)についての情報を収集し、分析することができる。	0.321	0.154	0.337	0.042	0.445	-0.009	0.087	0.084	0.313	0.261	0.167
Q5.5	(5)思考・判断 E 援助が必要な人の状態を明確にして、援助の根拠を特定することができる。	0.296	0.302	0.311	0.025	0.507	0.064	0.211	0.061	0.354	0.260	0.221
Q5.6	(6)思考・判断 F 生活及び医療全般にわたって、その人に起こりうる事態を予測し、論理的思考力と的確な問題解決能力に基づいて、最善策を導き出すことができる。	0.242	0.025	0.147	0.027	0.222	0.053	0.153	0.229	0.339	0.404	0.296
Q5.7	(7)態度・志向性 G 患者のトータルケアを行うプロフェッショナルな看護師として社会に貢献する意欲を持っている。	0.318	0.186	0.334	0.118	0.219	0.208	0.181	0.179	0.348	0.263	0.293
Q5.8	(8)態度・志向性 H 看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。	0.305	0.158	0.268	0.105	0.161	-0.013	0.304	0.083	0.297	0.291	0.272
Q5.9	(9)看護実践力多職種間連携能力 I 患者の回復過程において、他の医療職者や福祉関係の職種との連携が必要であることを理解し、あらゆる角度からその人や家族への援助ができる能力を身につけている。	0.207	0.263	0.218	0.045	0.271	0.119	0.120	0.169	0.461	0.163	0.173

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
Q5.1 (1)知識・理解 A 日本語および日本文学に関する基礎的また専門的知識を修得している。	0.134	0.136	0.137	0.272	0.261	0.076	0.210	0.363	0.193	0.267	0.211
Q5.2 (2)知識・理解 B 自国および他国の文化に対する理解を深め、日本の言語・文学との関連性を把握している。	0.143	0.117	0.124	0.192	0.302	0.139	0.252	0.330	0.233	0.173	0.056
Q5.3 (3)技能・表現 C 日本語のしくみ特性を理解し、自らの思考を他者に対して正しく発信する能力を備えている。	0.009	0.071	0.093	0.233	0.142	0.059	0.279	0.298	0.198	0.293	0.187
Q5.4 (4)技能・表現 D 情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。	0.202	0.179	0.086	0.256	0.092	0.020	0.304	0.304	0.269	0.222	0.361
Q5.5 (5)思考・判断 E 日本語・日本文学に関して身につけた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を備えている。	0.175	0.093	-0.017	0.314	0.239	0.034	0.136	0.365	0.322	0.302	0.205
Q5.6 (6)思考・判断 F 論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。	0.083	0.018	0.130	0.232	0.355	0.146	0.181	0.239	0.344	0.340	0.264
Q5.7 (7)態度・志向性 G 日常生活の中で短期大学部での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。	0.129	0.049	0.006	0.265	0.282	0.206	0.196	0.326	0.347	0.231	0.260
Q5.8 (8)態度・志向性 H 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。	0.193	0.081	0.079	0.279	0.355	0.138	0.210	0.340	0.364	0.322	0.251

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 欧米の文化や文学に関して幅広く正確な知識を持っている。	0.000	0.090	0.180	0.053	0.052	0.139	0.034	-0.018	0.000	0.026	0.206
Q5.2	(2)知識・理解 B 英語の歴史や構造に関して幅広く正確な知識を持っている。	-0.024	0.081	0.185	0.077	0.071	0.102	-0.019	0.079	0.061	-0.054	0.041
Q5.3	(3)知識・理解 C 国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。	0.101	0.153	0.201	0.155	0.137	0.180	-0.013	0.055	0.128	0.145	0.206
Q5.4	(4)知識・理解 D 国際人として必要なコンピューターリテラシーを持っている。	-0.079	0.100	0.170	0.057	0.221	0.110	0.144	0.264	0.234	0.170	0.324
Q5.5	(5)技能・表現 E 教養レベルの英語を理解し、発信することができる。	-0.063	-0.109	0.098	-0.058	-0.049	0.080	0.065	-0.007	-0.040	0.064	0.140
Q5.6	(6)技能・表現 F 専門分野の英語を理解し、発信することができる。	-0.078	0.094	0.180	-0.019	0.069	0.125	0.156	0.171	0.197	0.180	0.265
Q5.7	(7)技能・表現 G コンピューターを利用して情報を収集し、発信することができる。	-0.068	0.116	0.116	-0.083	0.150	0.115	0.066	-0.010	0.057	-0.033	0.322
Q5.8	(8)思考・判断 H 自分の考えを論理的に組み立てる力を持っている。	-0.132	0.042	0.211	0.081	-0.048	0.038	0.030	-0.018	-0.067	0.036	0.207
Q5.9	(9)思考・判断 I グローバルな視点から判断し、主体的に対応する力を持っている。	0.000	-0.023	0.207	0.076	-0.031	0.175	0.071	0.035	0.063	0.124	0.326
Q5.10	(10)思考・判断 J 専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。	0.075	0.208	0.230	0.177	0.201	0.147	0.214	0.319	0.318	0.230	0.337
Q5.11	(11)態度・志向性 K 責任感を持ち、自立的に行動することができる。	-0.173	-0.056	0.167	0.056	0.097	0.170	-0.029	0.145	0.146	0.135	0.310
Q5.12	(12)態度・志向性 L 異文化の人たちと積極的に交流し、国際社会に貢献できる。	-0.125	-0.036	0.175	0.002	0.037	0.173	0.039	0.049	0.063	0.120	0.190
Q5.13	(13)態度・志向性 M 知的好奇心を持ち、自らの専門を探究することができる。	-0.025	-0.045	0.132	-0.025	0.027	0.208	0.183	0.089	0.127	0.132	0.322



- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 現代の教育・保育を支える教養的知識を有している。	0.177	0.163	0.102	0.119	0.193	0.306	0.266	0.227	0.259	0.244	0.203
Q5.2	(2)知識・理解 B 教育・保育に関する専門的知識を有している。	0.169	0.164	0.088	0.236	0.023	0.304	0.272	0.198	0.283	0.225	0.256
Q5.3	(3)技能・表現 C 教育・保育の実践を行うために必要な技能を有している。	0.155	0.190	0.140	0.278	0.220	0.246	0.360	0.347	0.347	0.177	0.268
Q5.4	(4)技能・表現 D 教育・保育に関わる多様な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	0.038	0.186	0.184	0.202	0.246	0.268	0.261	0.379	0.315	0.149	0.260
Q5.5	(5)思考・判断 E 市民としての自覚に基づいた思考力および創造的能力を備えている。	0.219	0.118	0.142	0.189	0.272	0.201	0.388	0.198	0.223	0.292	0.346
Q5.6	(6)思考・判断 F 教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考ができる。	0.143	0.122	0.108	0.211	0.208	0.255	0.312	0.183	0.322	0.419	0.441
Q5.7	(7)態度・志向性 G 教育・保育に関わる熱意と責任感を身につけている。	0.116	0.197	0.201	0.178	0.207	0.362	0.281	0.317	0.329	0.211	0.271
Q5.8	(8)態度・志向性 H 教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける力を身につけている。	0.097	0.168	0.244	0.246	0.239	0.355	0.355	0.227	0.210	0.189	0.276

- :強い相関がある(.7以上)
- :やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- :弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
	(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 心理学に関する基礎的知識を有している。	0.319	0.235	0.064	0.088	0.166	0.289	0.294	0.336	0.209	0.063	0.125
Q5.2	(2)知識・理解 B 社会福祉学に関する基礎的知識を有している。	0.197	0.239	0.169	0.141	0.044	0.211	0.280	0.195	0.248	0.040	0.185
Q5.3	(3)知識・理解 C レクリエーション学に関する基礎的知識を有している。	0.084	0.100	0.138	0.283	0.167	0.039	-0.084	0.031	0.008	-0.097	0.000
Q5.4	(4)技能・表現 D 自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。	0.232	0.254	0.222	-0.086	0.062	-0.011	0.179	0.212	0.141	-0.044	0.000
Q5.5	(5)技能・表現 E 他者との円滑な関係を構築し、それを維持しながら多様な人々と協働することができる。	0.066	0.141	0.051	0.141	-0.040	0.015	0.218	0.087	0.189	-0.018	0.000
Q5.6	(6)技能・表現 F 社会人として働く上で必要とされる一般常識や技能を有している。	0.134	0.214	0.182	0.249	0.042	0.272	0.036	0.184	0.127	-0.043	-0.031
Q5.7	(7)技能・表現 G コンピュータを使って、収集したデータを適切に処理し、文書を作成することができる。	0.221	0.101	0.032	0.098	0.102	0.200	0.027	0.211	0.150	0.093	0.434
Q5.8	(8)思考・判断 H 身の回りの様々な現象を分析的・論理的に考えることができる。	0.052	0.055	0.087	0.147	0.243	-0.002	0.043	0.214	0.158	0.205	0.196
Q5.9	(9)思考・判断 I 自立した女性として、自身のキャリアやライフスタイルを踏まえたライフデザインを行うことができる。	0.244	0.304	0.168	0.166	0.161	0.141	0.123	0.264	0.217	0.163	0.262
Q5.10	(10)態度・志向性 J 社会の一員としての役割を見だし、積極的に関わろうとする姿勢をもつ。	0.047	0.129	0.096	0.200	0.074	0.222	0.067	0.400	0.166	0.153	0.170
Q5.11	(11)態度・志向性 K さまざまな場面で直面する問題や困難に対応できる。	0.147	0.139	0.120	0.267	0.200	0.267	0.160	0.232	0.203	0.016	0.109
Q5.12	(12)態度・志向性 L 人や社会と関わっていく上で必要とされる誠実性を有する。	0.211	0.186	0.122	0.213	0.137	0.279	0.202	0.350	0.361	0.175	0.157

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
	(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。	0.202	0.415	0.266	0.198	0.252	0.267	0.324	0.318	0.288	0.264	0.254
Q5.2	(2)知識・理解 B 健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。	0.148	0.409	0.321	0.165	0.327	0.233	0.211	0.263	0.223	0.145	0.193
Q5.3	(3)知識・理解 C 健康・スポーツの実践・指導のための適切で正しい指導法を理解している。	0.306	0.199	0.271	0.341	0.063	0.176	0.119	0.137	0.215	0.373	0.157
Q5.4	(4)技能・表現 D 健康・スポーツを実践するにあたり、基本的・専門的の技能を有している。	0.206	0.296	0.253	0.226	0.327	0.236	0.300	0.315	0.377	0.262	0.203
Q5.5	(5)技能・表現 E 知性・情操・徳性の涵養と、施すべき対象へのコミュニケーション能力を身につけている。	0.248	0.428	0.236	0.359	0.355	0.206	0.338	0.200	0.237	0.305	0.197
Q5.6	(6)思考・判断 F 実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。	0.339	0.368	0.277	0.355	0.332	0.199	0.293	0.238	0.295	0.346	0.274
Q5.7	(7)思考・判断 G 指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。	0.186	0.301	0.266	0.328	0.186	0.333	0.114	0.108	0.185	0.151	0.129
Q5.8	(8)思考・判断 H 指導現場においては、安全第一が基本であり、そのための状況判断を有している。	0.139	0.394	0.252	0.319	0.269	0.248	0.301	0.338	0.305	0.103	0.228
Q5.9	(9)態度・志向性 I 学修の価値を正しく評価し、常に向上的態度を保ち続けている。	0.142	0.330	0.257	0.216	0.377	0.285	0.361	0.311	0.274	0.103	0.284
Q5.10	(10)態度・志向性 J しっかりとした倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。	0.172	0.394	0.471	0.365	0.327	0.267	0.253	0.330	0.295	0.225	0.167

- : 強い相関がある(.7以上)
- : やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- : 弱い相関がある(.2以上.4未満)

※Pearson の相関係数		Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
		(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語の教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している
Q5.1	(1)知識・理解 A 個人や集団を対象とする栄養学に関する基礎的・専門的知識を身に付けている。	0.177	0.235	0.128	-0.015	0.043	0.438	0.386	0.259	0.210	0.340	0.303
Q5.2	(2)知識・理解 B 食べ物と健康との関係について、基礎的・専門的知識を身に付けている。	0.104	0.209	0.139	-0.114	0.112	0.430	0.358	0.299	0.176	0.151	0.104
Q5.3	(3)技能・表現 C 臨床や福祉、学校教育の場で必要となる技能・表現力を身に付けている。	0.112	0.133	0.249	0.076	0.125	0.393	0.262	0.033	0.171	0.318	0.283
Q5.4	(4)技能・表現 D 健康増進や健康管理を行う上で必要となる技能・表現力を身に付けている。	0.090	0.146	0.030	-0.103	0.025	0.258	0.311	0.117	0.187	0.274	0.260
Q5.5	(5)技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。	0.116	0.066	0.087	0.135	0.123	0.192	0.190	0.029	0.132	0.305	0.313
Q5.6	(6)技能・表現 F ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる技能・表現力を身に付けている。	0.179	0.043	0.073	0.134	0.118	0.269	0.194	-0.042	0.126	0.359	0.336
Q5.7	(7)思考・判断 G 健康や栄養・食に関する情報を自ら収集する能力を身に付けている。	0.227	0.284	0.220	0.050	0.181	0.288	0.306	0.301	0.215	0.212	0.186
Q5.8	(8)思考・判断 H 科学的根拠に基づく健康・栄養課題解決の能力を身に付けている。	0.141	0.083	0.215	0.208	0.208	0.267	0.303	0.104	0.221	0.321	0.344
Q5.9	(9)態度・志向性 I 個人や社会が抱える様々な健康栄養問題を積極的に学習する態度を身に付けている。	0.169	0.164	0.250	0.100	0.168	0.252	0.302	0.169	0.145	0.206	0.248
Q5.10	(10)態度・志向性 J 食生活学の専門的学習を通して、社会に貢献する自覚を身に付けている。	0.143	0.170	0.131	0.005	0.124	0.382	0.283	0.215	0.284	0.280	0.281
Q5.11	(11)統合的能力 K 専門的知識・技術の統合を図り、栄養士として社会に貢献できる能力を身に付けている。	0.039	0.124	0.134	-0.112	0.117	0.313	0.344	0.172	0.165	0.206	0.159
Q5.12	(12)統合的能力 L 社会における指導者として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。	0.118	0.062	0.057	0.039	0.189	0.222	0.292	0.126	0.178	0.236	0.290
Q5.13	(13)統合的能力 M 栄養・食と健康に関する様々な問題について、指導的立場から解決する能力を身に付けている。	0.058	0.055	0.106	-0.034	0.139	0.273	0.201	0.106	0.108	0.208	0.247
Q5.14	(14)統合的能力 N 社会貢献のための実行力を身に付けている。	0.107	0.050	0.207	-0.063	0.159	0.270	0.218	0.092	0.189	0.211	0.196

- :強い相関がある(.7以上)
- :やや強い相関がある(.4以上.7未満)
- :弱い相関がある(.2以上.4未満)

	Q3.1	Q3.2	Q3.3	Q3.4	Q3.5	Q3.6	Q6.1	Q6.2	Q6.3	Q6.4	Q6.5
	(1)ディスカッションを取り入れた授業	(2)グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	(3)発表を取り入れた授業	(4)教室外での活動や実習を行う授業	(5)少人数で行う演習形式の授業	(6)学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	(1)教養分野の教育(共通教育)が充実している	(2)専門分野の教育が充実している	(3)実践的・実務的の教育が充実している	(4)外国語教育が充実している	(5)情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している

※Pearson の相関係数

Q5.1	(1)知識・理解 A 生活に関わる事象に対して、文化的、社会的な観点からの専門的知識を有している。	0.193	0.152	0.401	0.079	0.229	0.310	0.315	0.266	0.331	0.169	0.251
Q5.2	(2)知識・理解 B 快適で健全な生活を形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。	0.241	0.072	0.213	0.124	0.298	0.184	0.217	0.244	0.396	0.270	0.172
Q5.3	(3)知識・理解 C 生活を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身に付けている。	0.194	0.169	0.253	0.123	0.242	0.228	0.241	0.263	0.222	0.128	0.231
Q5.4	(4)技能・表現 D 生活を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。	0.046	-0.021	0.206	0.053	0.164	0.186	0.072	0.147	0.118	0.134	0.215
Q5.5	(5)技能・表現 E 生活を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。	0.004	0.012	0.195	-0.033	0.272	0.233	0.087	0.114	0.209	0.208	0.192
Q5.6	(6)思考・判断 F 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。	0.151	-0.019	0.245	0.165	0.150	0.256	0.183	0.153	0.203	0.216	0.185
Q5.7	(7)思考・判断 G 新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身に付けている。	0.025	0.053	0.313	0.074	0.202	0.332	0.185	0.255	0.355	0.259	0.254
Q5.8	(8)態度・志向性 H 社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身に付けている。	0.112	0.061	0.224	0.049	0.203	0.305	0.184	0.234	0.251	0.223	0.181
Q5.9	(9)態度・志向性 I 生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身に付けている。	0.037	0.143	0.215	0.130	0.105	0.282	0.213	0.285	0.207	0.142	0.272

**卷末資料**  
**【調査票】**

# 武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部

## 平成30年度 『卒業時アンケート』

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日、晴れの日を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。このたび本学では、平成31年3月に卒業される皆さんを対象にアンケートを実施することになりました。卒業生の皆さんから、本学に対する率直な意見をお伺いし、魅力ある大学・短大となるための改善・改革に取り組んでいく所存です。アンケートは記名式で行いますが、統計資料としてのみ活用いたしますのでご安心ください。ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学長

### ＜注意事項＞

記入要領

1. 回答は、**あてはまる番号に「○」印**をつけてください。

2. 記入は、必ず**鉛筆又はシャープペンシル**で濃く書いてください。

3. 下記の【**良い記入例**】に従って記入してください。  
特に、「○」印は、**番号丸枠からはみ出さないよう**につけてください。

ここに○印をつけてください。

○ 第一志望

ID 12

良い  
記入例

第一志望

第三志望

悪い  
記入例

第一志望

第三志望

① 第一志望

第一志望

第三志望

● 第一志望

第一志望

第三志望

○ 第一志望

第一志望

第三志望

### ■ 所属の学科の番号に「○」印をつけてください。【学科略称】

大学														短期大学部						
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
大日	大菜	大教	大心	新健	大環	大食	大情	大薬	大演	大心	新薬	大康	大護	短日	短英新	短教	短心	短健	短食	短生

### ■ クラス・出席番号、氏名、学籍番号を記入してください。

<p>クラス・出席番号 (○ - ●●)</p> <p>所属クラスに○をつけて、出席番号を数字で記入してください。</p> <p>【数字】<input type="text" value="1"/><input type="text" value="2"/><input type="text" value="3"/><input type="text" value="4"/><input type="text" value="5"/><input type="text" value="6"/><input type="text" value="7"/><input type="text" value="8"/><input type="text" value="9"/><input type="text" value="0"/></p> <p>【クラス】      【出席番号】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="display: flex; gap: 5px;"> <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D         </div> <div style="display: flex; gap: 5px;"> <input type="radio"/> E <input type="radio"/> F <input type="radio"/> S <input type="radio"/> なし         </div> </div> <p style="text-align: center;">氏 名</p>	<p>学籍番号 下記の【記入例】に従って学籍番号を記入してください。</p> <p>【記入例】 学籍番号 1 0 4 7 1 5 3 の場合</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="8" style="writing-mode: vertical-rl; border-right: 1px solid #ccc;">学籍番号</td> <td>①</td><td>○</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td> <td rowspan="8" style="writing-mode: vertical-rl; border-left: 1px solid #ccc;">学籍番号</td> <td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td> </tr> <tr> <td>②</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td><td>①</td> <td>②</td><td>②</td><td>②</td><td>②</td><td>②</td><td>②</td><td>②</td><td>②</td> </tr> <tr> <td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td> <td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td><td>③</td> </tr> <tr> <td>④</td><td>④</td><td>●</td><td>④</td><td>④</td><td>④</td><td>④</td> <td>④</td><td>④</td><td>④</td><td>④</td><td>④</td><td>④</td><td>④</td><td>④</td> </tr> <tr> <td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td> <td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td><td>⑤</td> </tr> <tr> <td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td> <td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td><td>⑥</td> </tr> <tr> <td>⑦</td><td>⑦</td><td>⑦</td><td>●</td><td>⑦</td><td>⑦</td><td>⑦</td> <td>⑦</td><td>⑦</td><td>⑦</td><td>⑦</td><td>⑦</td><td>⑦</td><td>⑦</td><td>⑦</td> </tr> <tr> <td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td> <td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td><td>⑧</td> </tr> </table>	学籍番号	①	○	①	①	①	①	①	学籍番号	①	①	①	①	①	①	①	①	②	①	①	①	①	①	①	②	②	②	②	②	②	②	②	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	④	④	●	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑦	⑦	⑦	●	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
学籍番号	①		○	①	①	①	①	①	学籍番号		①	①	①	①	①	①	①	①																																																																																																										
	②		①	①	①	①	①	①			②	②	②	②	②	②	②	②																																																																																																										
	③		③	③	③	③	③	③			③	③	③	③	③	③	③	③																																																																																																										
	④		④	●	④	④	④	④			④	④	④	④	④	④	④	④																																																																																																										
	⑤		⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤			⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤																																																																																																										
	⑥		⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥			⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥																																																																																																										
	⑦		⑦	⑦	●	⑦	⑦	⑦			⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦																																																																																																										
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧		⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧																																																																																																											

**Q1** 本学はどの程度の志望順位でしたか。

① 第一志望                      ② 第二志望                      ③ 第三志望以下

**Q2** 本学では、立学の精神の中で、「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を兼ね備えた有為な女性を育成することを掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。

① 入学前から知っていた      ② 在学中に知った              ③ 今まで知らなかった

-102-

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

		よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった
1)	ディスカッションを取り入れた授業	→ ①	②	③	④
2)	グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	→ ①	②	③	④
3)	発表を取り入れた授業	→ ①	②	③	④
4)	教室外での活動や実習を行う授業	→ ①	②	③	④
5)	少人数で行う演習形式の授業	→ ①	②	③	④
6)	学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	→ ①	②	③	④

《 ここからは、別紙を参照しながら答えてください 》

Q4 本学では、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を設定しています。あなたは、別紙にある所属学科のディプロマ・ポリシーの内容を知っていましたか。

- ① 知っていて、内容を理解していた                      ② 詳しくは知らないが、なんとなく聞いた(見た)ことがある  
 ③ ほとんど知らなかった

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

	とても身に付いた	ある程度身に付いた	あまり身に付いていない	ほとんど身に付いていない
A	①	②	③	④
B	①	②	③	④
C	①	②	③	④
D	①	②	③	④
E	①	②	③	④
F	①	②	③	④
G	①	②	③	④
H	①	②	③	④
I	①	②	③	④
J	①	②	③	④
K	①	②	③	④
L	①	②	③	④
M	①	②	③	④
N	①	②	③	④
O	①	②	③	④



(以降の質問は、別紙参照不要です)

Q 6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

		とても 当てはまる	ある程度 当てはまる	あまり 当てはまらない	ほとんど 当てはまらない
1)	教養分野の教育(共通教育)が充実している	①	②	③	④
2)	専門分野の教育が充実している	①	②	③	④
3)	実践的・実務的教育が充実している	①	②	③	④
4)	外国語教育が充実している	①	②	③	④
5)	情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している	①	②	③	④

Q 7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。

- ① 満足している      ② やや満足している      ③ あまり満足していない      ④ 満足していない

Q 8 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。

- ① 満足している      ② やや満足している      ③ あまり満足していない      ④ 満足していない

Q 9 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。

- ① そう思う      ② ややそう思う      ③ あまりそう思わない      ④ そう思わない

Q 10 最後に、本学の教育について感想があれば、ご自由にお書きください。

**アンケートのご協力、ありがとうございました。**

**クラス・出席番号、氏名、学籍番号の記入を再度確認し、提出してください。**

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【文学部 日本語日本文学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	A	日本の言語・文学・文化に関する基礎的および専門的な知識を修得している。
	B	人文・社会・自然に関する広範な知識を体系的に整理・理解し、日本語・日本文学・日本文化の諸問題をその知識体系において把握している。
	C	体系的知識を複数の異なる視点・国際的観点から把握し、現象を多様な価値観の下に捉えている。
技能・表現	D	大学における学修を自らの知性・感性・徳性の涵養と言語表現を基礎とするプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上に役立たせることができる。
	E	大学における学修の成果を社会での諸活動に具体的に活用でき、汎用性のある情報機器（ICT）活用技能を含む諸技能・表現力を身に付けている。
思考・判断	F	日本語・日本文学に関して身に付けた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を身に付けている。
	G	日本語・日本文学の学習に基づく知性と感性によって、論理的・実証的に思考する能力および状況判断・問題解決の能力を備えている。
態度・志向性	H	日常生活の中で大学での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保ち続けている。
	I	広範で体系的な知識、豊かな感性、しっかりとした倫理観に基づき、家庭・事業体・地域社会・国際社会において自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。

※別紙アンケート用紙の「J」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【文学部 英語文化学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	<b>A</b>	欧米の文化や文学に関して幅広く正確な知識を持っている。
	<b>B</b>	英語の歴史や構造に関して幅広く正確な知識を持っている。
	<b>C</b>	国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。
	<b>D</b>	国際人として必要なコンピューターリテラシーを持っている。
技能・表現	<b>E</b>	教養レベルの英語を理解し、発信することができる。
	<b>F</b>	専門分野の英語を理解し発信することができる。
	<b>G</b>	ドイツ語・フランス語を理解し、発信することができる。
	<b>H</b>	コンピューターを利用して情報を収集し、発信することができる。
思考・判断	<b>I</b>	自分の考えを論理的に組み立てる力を持っている。
	<b>J</b>	グローバルな視点から判断し、主体的に対応する力を持っている。
	<b>K</b>	専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。
態度・志向性	<b>L</b>	責任感を持ち、自律的に行動することができる。
	<b>M</b>	異文化の人たちと積極的に交流し、国際社会に貢献できる。
	<b>N</b>	知的好奇心を持ち、自らの専門を探究することができる。

※別紙アンケート用紙の「○」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【文学部 教育学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	<b>A</b>	現代の教育・保育を支える教養的知識を幅広く有している。
	<b>B</b>	教育・保育に関する奥深い専門的知識を有している。
技能・表現	<b>C</b>	教育・保育の実践を行うために必要な技能を有している。
	<b>D</b>	教育・保育に関わる多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。
思考・判断	<b>E</b>	国際的視野に基づいた批判的思考力及び創造的能力を備えている。
	<b>F</b>	教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考と理性的な判断ができる。
態度・志向性	<b>G</b>	教育・保育に関わる熱意と責任感を身につけている。
	<b>H</b>	教育・保育に関して、生涯にわたり学び、研究し続ける力を身につけている。

※別紙アンケート用紙の「I」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【文学部 心理・社会福祉学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	<b>A</b>	心理学に関する基礎的・専門的知識を有している。
	<b>B</b>	社会福祉学に関する基礎的・専門的知識を有している。
	<b>C</b>	レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識を有している。
技能・表現	<b>D</b>	科学的な視点に基づき、様々な課題の解決に心理学の専門的知識を統合し活用できる能力を有している。
	<b>E</b>	人と社会との関係を理解し、様々な課題の解決に社会福祉学の専門的知識を統合し活用できる能力を有している。
	<b>F</b>	自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。
	<b>G</b>	他者との円滑な関係を構築し、それを維持しながら多様な人々と協働することができる。
思考・判断	<b>H</b>	コンピュータを使って、収集したデータを適切に処理し、文書を作成することができる。
	<b>I</b>	必要な情報を収集・整理し、あらたな問題を発見することができる。
	<b>J</b>	問題に対する解決策を立案し、実行することができる。
態度・志向性	<b>K</b>	身の回りの様々な現象を既存の専門知識と結びつけて分析的・論理的に考えることができる。
	<b>L</b>	社会環境および人間関係における課題を自ら発見し、解決しようとする積極的な姿勢をもつ。
	<b>M</b>	個人および個人と他者との関係に関心をもち、多様な場面において人との関係づくりができる。
	<b>N</b>	社会の一員としての役割を見だし、人を援助することができる。

※別紙アンケート用紙の「○」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	<b>A</b>	健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。
	<b>B</b>	健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。
	<b>C</b>	健康・スポーツの実践・指導のための適切で正しい指導法を理解している。
技能・表現	<b>D</b>	健康・スポーツを実践するにあたり、基本的・専門的スキルを有している。
	<b>E</b>	知性・情操・徳性の涵養と、施すべき対象へのコミュニケーション能力を身につけている。
思考・判断	<b>F</b>	実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。
	<b>G</b>	指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。
	<b>H</b>	指導現場においては、安全第一が基本であり、そのための状況判断を有している。
志向性・態度	<b>I</b>	学修の価値を正しく評価し、常に向上的態度を保ち続けている。
	<b>J</b>	しっかりとした倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。

※別紙アンケート用紙の「K」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【生活環境学部 生活環境学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	A	生活環境に関わる事象に対して、文化的、社会的な観点からの専門的知識を有している。
	B	快適で健全な生活環境に形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。
	C	生活環境を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身につけている。
技能・表現	D	生活環境を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。
	E	生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。
思考・判断	F	新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身につけている。
	G	生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身につけている。
態度・志向性	H	社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身につけている。
	I	生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身につけている。

※別紙アンケート用紙の「J」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【生活環境学部 食物栄養学科】ディプロマ・ポリシー

理解知識	<b>A</b>	個人や集団を対象とする栄養学に関する基礎的・専門的知識を身につける。
	<b>B</b>	食べ物と健康との関係について、基礎的・専門的知識を身につける。
技能・表現	<b>C</b>	臨床や福祉、学校教育の場で必要となる技能・表現力を身につける。
	<b>D</b>	健康増進や健康管理を行う上で必要となる技能・表現力を身につける。
	<b>E</b>	食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身につける。
	<b>F</b>	ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる技能・表現力を身につける。
思考・判断	<b>G</b>	健康や栄養・食に関する情報を自ら収集する能力を身につける。
	<b>H</b>	情報収集によって発見された課題を自ら解決できる能力を身につける。
	<b>I</b>	科学的根拠に基づく健康・栄養課題解決の能力を身につける。
態度・志	<b>J</b>	個人や社会が抱える様々な健康栄養問題を積極的に学習する態度を身につける。
	<b>K</b>	食物栄養学の専門的学習を通して、社会に貢献する自覚を身につける。
統合的能力	<b>L</b>	専門的知識・技術の統合を図り、管理栄養士として社会に貢献できる能力を身につける。
	<b>M</b>	社会における指導者として必要なコミュニケーション能力を身につける。
	<b>N</b>	栄養・食と健康に関する様々な問題について、指導的立場から解決する能力を身につける。
	<b>O</b>	社会貢献のための実行力を身につける。



質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【生活環境学部 情報メディア学科】ディプロマ・ポリシー

情報活用力	<b>A</b>	コンピュータ等IT機器を活用して、適切な形・方法で、情報を創造・編集・加工・分析・伝達するための基本的な知識・技術を習得している。
	<b>B</b>	溢れる情報を的確に分析して、事物の本質を理解できる思考力を習得している。
	<b>C</b>	自己を適切に表現でき、他人や社会と良好な関係を築ける態度を習得している。
生活行動力	<b>D</b>	豊かな感性と幅広い教養を身につけ、生活の中で、時代の流れを洞察して最適な選択を行える行動力を身につけている。
	<b>E</b>	常に情報を的確に捉え、変化するライフ・ステージに生涯に亘って適応できる態度を習得している。
社会共創力	<b>F</b>	社会の仕組みを理解し、社会的な課題の解決に主体的に参加し、他人との協働を通じて、社会の発展に貢献する態度を習得している。
	<b>G</b>	生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心を身につけている。

※別紙アンケート用紙の「H」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【生活環境学部 建築学科】ディプロマ・ポリシー

高い知性	高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築的事象を理解するための「知識」を習得し、さらに習得した「知識」を応用して問題を解決する基礎的能力を培う。	
	A	語学や諸学の基礎学力の習得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培う。
	B	構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって空間的に構成する基礎的能力を培う。
	C	機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習により最適な空間を構成する基礎的能力を培う。
	D	コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらの中で、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培う。
善美な情操	「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美的」、「歴史的」、「文化」的価値を理解し、地域の伝統的文化を創生できる基礎的能力を培う。	
	E	基礎的造形能力を培う。
	F	歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する基礎的知識を習得し価値観を培う。
高雅な徳性	地球環境・国家・地域社会における、真に人間的な住環境形成のために、社会的義務と責任を重んじ、自律的に行動する「人格」を理解する。	
	G	社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、自律的活動ができる職能人としての素養を理解する。
高い知性・善美な徳性の総合情	「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培う。	
	H	「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的に実現する基礎的能力を培う。
	I	さまざまな専門家、技術者との共同の重要性を理解する。

※別紙アンケート用紙の「J」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
(回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【音楽学部 演奏学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	<b>A</b>	ソルフェージュや和声法をはじめ、多種の音楽理論の専門的知識を有する。
	<b>B</b>	音楽史や文化、音楽作品とその背景に関する幅広い知識を有する。
	<b>C</b>	音楽に携わる上で必要な語学能力を有する。
技能・表現	<b>D</b>	専門実技の技術面において高い能力、芸術性において高い表現力を有する。
	<b>E</b>	指導者・教育者として備えておくべき伴奏、合唱・合奏指導、指揮等の知識や技術を習得している。
	<b>F</b>	合唱、合奏、室内楽等のアンサンブル、また、オペラ、コンチエルトなどの総合的な実技能力を習得している。
思考・判断	<b>G</b>	人間性あふれる豊かな個性を持った演奏家である。
	<b>H</b>	自己、あるいは他者の演奏を客観的に聴き、評価することができる。
	<b>I</b>	指導者としての責任感や倫理観を持ち、人材を育成する意欲を有する。
態度・志向性	<b>J</b>	芸術と関わる上で、生涯にわたっての研究と自己研鑽を続ける向上心を持ち、音楽演奏によって豊かな社会を作る能力を有する。
	<b>K</b>	さまざまな感性を持った音楽関係者や社会と関わる上で必要なコミュニケーション能力を有する。
	<b>L</b>	高い知性、善美な情操、高雅な徳性を兼ね備え、社会において演奏者、音楽指導者として活動するために必要な知識・技能とそれらを統合し活用できる能力を有する。

※別紙アンケート用紙の「M」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【音楽学部 応用音楽学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	<b>A</b>	多岐にわたるジャンルの音楽に共通する幅広い専門知識を有する。
	<b>B</b>	音楽以外の芸術、医学、心理学、情報・メディアなど幅広い知識を有する。
	<b>C</b>	海外の論文や文献研究に必要な語学力を有する。
技能・表現	<b>D</b>	現場で最も需要が高いピアノの高い演奏技能を中心に、さまざまな楽器を活用する能力がある。
	<b>E</b>	音楽を医療、福祉、環境、教育など多様な分野において実践する力を有する。
	<b>F</b>	生涯学習における音楽的指導、学校教育における音楽教育の指導者としての知識や技術を習得している。
	<b>G</b>	音楽産業の中での、企画・運営能力を有する。
思考・判断	<b>H</b>	理論と実践を通して音楽知識や技術を習得し、それらを応用することによって豊かな社会をつくることができる能力を有する。
	<b>I</b>	各現場で“求められる音楽”を判断し、創造することができる。
	<b>J</b>	情報を収集・分析し、客観的に問題提起および音楽に基づく解決策を提案できる。
態度・志向性	<b>K</b>	人および広く社会全般への興味・関心を高め、音楽の在り方を考える姿勢をもつ。
	<b>L</b>	音楽と社会をつなぐ上でのコミュニケーション能力を有する。
	<b>M</b>	適切な倫理観のもとで、自らの役割を果たすことができる。
	<b>N</b>	需要に応じた表現方法を求め、研鑽を積む姿勢を有する。

※別紙アンケート用紙の「○」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
(回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【薬学部 薬学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	<b>A</b>	医療人としての使命感と倫理観を有する。
	<b>B</b>	豊かな教養と医薬品および臨床に関する専門的知識を有する。
	<b>C</b>	コンプライアンス（法令遵守）の必要性を理解する。
技能・表現	<b>D</b>	薬剤師として、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方設計、安全性・有効性、リスク管理およびチーム医療への参画に必要な薬学的能力を有する。
	<b>E</b>	薬剤師業務および関連業務に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する。
	<b>F</b>	薬物療法および地域の医療・健康・予防・福祉介護等の実践等に必要な基礎的な科学技術を有する。
思考・判断 態度・志向性	<b>G</b>	進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を有する。
	<b>H</b>	薬剤師として、患者・生活者医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。
	<b>I</b>	次世代を担う薬剤師人材を育成する意欲と態度を有する。

※別紙アンケート用紙の「J」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【薬学部 健康生命薬科学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	<b>A</b>	研究者・技術者としての使命感と倫理観を有する。
	<b>B</b>	豊かな教養と医薬品の製造・開発、健康・疾病予防・福祉などに関する深い専門的知識を有する。
	<b>C</b>	コンプライアンス（法令遵守）の必要性を理解する。
技能・表現	<b>D</b>	研究者として、実験計画の立案、機器や試薬の使用・管理、データ収集・管理と解析、調査など、研究活動に必要な能力を有する。
	<b>E</b>	様々な発表会や学会などにおいて、研究成果の発表に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する。
	<b>F</b>	医薬品合成、成分分析、薬理活性評価、薬物治療などへの応用において必要な基礎的技術を有する。
思考・判断 態度・志向性	<b>G</b>	進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を有する。
	<b>H</b>	疾病、環境、医療や医薬品に関する社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。
	<b>I</b>	次世代を担う研究者・技術者人材を育成する意欲と態度を有する。

※別紙アンケート用紙の「J」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
(回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身に付け、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

### 【看護学部 看護学科】ディプロマ・ポリシー

知識・理解	A	さまざまな心理・社会的・文化的背景を持ち、発達段階や健康レベルも多様である人の生活を理解するための幅広い教養や基礎知識を身につけている。
	B	生活者としての人を支援するために必要な専門的知識を習得している。
技能・表現	C	生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観と人の価値観を尊重したコミュニケーション方法を身につけている。
思考・判断	D	人の生活や健康を支える様々な要因（身体心理社会的）についての情報を収集し、分析することができる。
	E	援助が必要な人の状態を明確にして、援助の根拠を特定することができる。
	F	生活及び医療全般にわたって、その人に起こりうる事態を予測し、論理的思考力と的確な問題解決能力に基づいて、最善策を導き出すことができる。
態度・志向性	G	患者のトータルケアを行うプロフェッショナルな看護師として社会に貢献する意欲を持っている。
	H	看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。
看護実践力 連携能力 多職種間力	I	患者の回復過程において、他の医療職者や福祉関係の職種との連携が必要であることを理解し、あらゆる角度からその人や家族への援助ができる能力を身につけている。

※別紙アンケート用紙の「J」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。

### 【日本語文化学科】ディプロマ・ポリシー

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（日本語文化学）の学位を授与します。

知識・理解	<b>A</b>	日本語および日本文学に関する基礎的また専門的知識を修得している。
	<b>B</b>	自国および他国の文化に対する理解を深め、日本の言語・文学との関連性を把握している。
技能・表現	<b>C</b>	日本語のしくみ特性を理解し、自らの思考を他者に対して正しく発信する能力を備えている。
	<b>D</b>	情報機器（ICT）活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。
思考・判断	<b>E</b>	日本語・日本文学に関して身につけた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を備えている。
	<b>F</b>	論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。
態度・志向性	<b>G</b>	日常生活の中で短期大学部での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。
	<b>H</b>	広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。

※別紙アンケート用紙の「I」～「O」の回答欄への記入は不要※



質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。

### 【英語キャリア・コミュニケーション学科】ディプロマ・ポリシー

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（英語コミュニケーション学）の学位を授与します。

知識・理解	<b>A</b>	欧米の文化や文学に関して幅広く正確な知識を持っている。
	<b>B</b>	英語の歴史や構造に関して幅広く正確な知識を持っている。
	<b>C</b>	国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。
	<b>D</b>	国際人として必要なコンピューターリテラシーを持っている。
技能・表現	<b>E</b>	教養レベルの英語を理解し、発信することができる。
	<b>F</b>	専門分野の英語を理解し、発信することができる。
	<b>G</b>	コンピューターを利用して情報を収集し、発信することができる。
思考・判断	<b>H</b>	自分の考えを論理的に組み立てる力を持っている。
	<b>I</b>	グローバルな視点から判断し、主体的に対応する力を持っている。
	<b>J</b>	専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。
態度・志向性	<b>K</b>	責任感を持ち、自律的に行動することができる。
	<b>L</b>	異文化の人たちと積極的に交流し、国際社会に貢献できる。
	<b>M</b>	知的好奇心を持ち、自らの専門を探究することができる。

※別紙アンケート用紙の「N」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。

### 【幼児教育学科】ディプロマ・ポリシー

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（幼児教育学）の学位を授与します。

知識・理解	<b>A</b>	現代の教育・保育を支える教養的知識を有している。
	<b>B</b>	教育・保育に関する専門的知識を有している。
技能・表現	<b>C</b>	教育・保育の実践を行うために必要な技能を有している。
	<b>D</b>	教育・保育に関わる多様な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。
思考・判断	<b>E</b>	市民としての自覚に基づいた思考力および創造的能力を備えている。
	<b>F</b>	教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考ができる。
態度・志向性	<b>G</b>	教育・保育に関わる熱意と責任感を身につけている。
	<b>H</b>	教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける力を身につけている。

※別紙アンケート用紙の「I」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。

### 【心理・人間関係学科】ディプロマ・ポリシー

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（心理・人間関係学）の学位を授与します。

知識・理解	<b>A</b>	心理学に関する基礎的知識を有している。
	<b>B</b>	社会福祉学に関する基礎的知識を有している。
	<b>C</b>	レクリエーション学に関する基礎的知識を有している。
技能・表現	<b>D</b>	自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。
	<b>E</b>	他者との円滑な関係を構築し、それを維持しながら多様な人々と協働することができる。
	<b>F</b>	社会人として働く上で必要とされる一般常識や技能を有している。
	<b>G</b>	コンピュータを使って、収集したデータを適切に処理し、文書を作成することができる。
思考・判断	<b>H</b>	身の回りの様々な現象を分析的・論理的に考えることができる。
	<b>I</b>	自立した女性として、自身のキャリアやライフスタイルを踏まえたライフデザインを行うことができる。
態度・志向性	<b>J</b>	社会の一員としての役割を見だし、積極的に関わろうとする姿勢をもつ。
	<b>K</b>	さまざまな場面で直面する問題や困難に対応できる。
	<b>L</b>	人や社会と関わっていく上で必要とされる誠実性を有する。

※別紙アンケート用紙の「M」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。

### 【健康・スポーツ学科】ディプロマ・ポリシー

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（健康・スポーツ学）の学位を授与します。

知識・理解	<b>A</b>	健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。
	<b>B</b>	健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。
	<b>C</b>	健康・スポーツの実践・指導のための適切で正しい指導法を理解している。
技能・表現	<b>D</b>	健康・スポーツを実践するにあたり、基本的・専門的スキルを有している。
	<b>E</b>	知性・情操・徳性の涵養と、施すべき対象へのコミュニケーション能力を身につけている。
思考・判断	<b>F</b>	実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。
	<b>G</b>	指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。
	<b>H</b>	指導現場においては、安全第一が基本であり、そのための状況判断を有している。
志向性・態度	<b>I</b>	学修の価値を正しく評価し、常に向上的態度を保ち続けている。
	<b>J</b>	しっかりとした倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。

※別紙アンケート用紙の「K」～「O」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
(回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。

### 【食生活学科】ディプロマ・ポリシー

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（食生活学）の学位を授与します。

知識・理解	<b>A</b>	個人や集団を対象とする栄養学に関する基礎的・専門的知識を身に付けている。
	<b>B</b>	食べ物と健康との関係について、基礎的・専門的知識を身に付けている。
技能・表現	<b>C</b>	臨床や福祉、学校教育の場で必要となる技能・表現力を身に付けている。
	<b>D</b>	健康増進や健康管理を行う上で必要となる技能・表現力を身に付けている。
	<b>E</b>	食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。
	<b>F</b>	ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる技能・表現力を身に付けている。
思考・判断	<b>G</b>	健康や栄養・食に関する情報を自ら収集する能力を身に付けている。
	<b>H</b>	科学的根拠に基づく健康・栄養課題解決の能力を身に付けている。
志向性・態度	<b>I</b>	個人や社会が抱える様々な健康栄養問題を積極的に学習する態度を身に付けている。
	<b>J</b>	食生活学の専門的学習を通して、社会に貢献する自覚を身に付けている。
統合的能力	<b>K</b>	専門的知識・技術の統合を図り、栄養士として社会に貢献できる能力を身に付けている。
	<b>L</b>	社会における指導者として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。
	<b>M</b>	栄養・食と健康に関する様々な問題について、指導的立場から解決する能力を身に付けている。
	<b>N</b>	社会貢献のための実行力を身に付けている。

※別紙アンケート用紙の「○」の回答欄への記入は不要※

質問Q4、Q5は、所属学科の「ディプロマ・ポリシー」を読んでお答えください。  
 (回答は、別紙のアンケート用紙に記入)

アルファベットごとの内容に対して、当てはまる番号に「○」印をつけてください。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。

### 【生活造形学科】ディプロマ・ポリシー

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（生活造形学）の学位を授与します。

知識・理解	<b>A</b>	生活に関わる事象に対して、文化的、社会的な観点からの専門的知識を有している。
	<b>B</b>	快適で健全な生活を形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。
	<b>C</b>	生活を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身に付けている。
技能・表現	<b>D</b>	生活を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。
	<b>E</b>	生活を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。
思考・判断	<b>F</b>	新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。
	<b>G</b>	新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身に付けている。
態度・志向性	<b>H</b>	社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身に付けている。
	<b>I</b>	生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身に付けている。

※別紙アンケート用紙の「J」～「O」の回答欄への記入は不要※